

構造特記仕様書 Rev.03	建築基準法20条関連事項	章 項目	特記事項																																																																																																																																																																																																																																																	
<p>1. 設計概要</p> <p>1. 建物概要</p> <p>1. 工事名称 与那国町複合庁舎及び特定臨時避難施設新築工事（建築）</p> <p>2. 建設地 沖縄県八重山郡与那国町字与那国854番地1</p> <p>3. 主要用途 事務所（庁舎）</p> <table border="1"> <caption>構造概要一覧表</caption> <tr> <th colspan="2">構造</th> <th colspan="2">鉄筋コンクリート造</th> </tr> <tr> <td>地下階数</td> <td>1</td> <td>階</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地上階数</td> <td>3</td> <td>階</td> <td></td> </tr> <tr> <td>塔屋階数</td> <td>-</td> <td>階</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延床面積</td> <td>4,795.12</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建築面積</td> <td>1,887.60</td> <td>m²</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建物高さ</td> <td>12.91</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軒高</td> <td>12.61</td> <td>m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事の種類</td> <td colspan="3">○新築・増築・改築</td> </tr> </table> <p>2. 構造設計条件</p> <p>a 耐震設計条件</p> <table border="1"> <tr> <td>地震種別</td> <td>第Ⅱ種地盤</td> </tr> <tr> <td>地域係数(Z)</td> <td>Z=0.7</td> </tr> <tr> <td>重要度係数(I)</td> <td>I=1.5</td> </tr> </table> <p>b 耐風設計条件</p> <table border="1"> <tr> <td>基準風速(Vo)</td> <td>46</td> <td>m/秒</td> </tr> <tr> <td>地表面粗度区分</td> <td>Ⅰ ○Ⅱ Ⅲ Ⅳ</td> <td></td> </tr> </table> <p>c 主要室の積載荷重(N/m²)</p> <table border="1"> <tr> <th>室名</th> <th>スラブ用</th> <th>小梁用</th> <th>架橋用</th> <th>地震用</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>執務室・廊下</td> <td>4900</td> <td>4900</td> <td>1800</td> <td>800</td> <td></td> </tr> <tr> <td>議場</td> <td>3500</td> <td>3500</td> <td>1800</td> <td>2100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>戸籍保管庫</td> <td>11800</td> <td>11800</td> <td>10300</td> <td>7400</td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋根(非歩行)</td> <td>1000</td> <td>1000</td> <td>600</td> <td>400</td> <td></td> </tr> </table> <p>d 建設地盤の条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計GL = EL+24.3m 1FL = EL+24.50m 孔内水位 = (水位はなし 土質調査報告書参照) 	構造		鉄筋コンクリート造		地下階数	1	階		地上階数	3	階		塔屋階数	-	階		延床面積	4,795.12	m ²		建築面積	1,887.60	m ²		建物高さ	12.91	m		軒高	12.61	m		工事の種類	○新築・増築・改築			地震種別	第Ⅱ種地盤	地域係数(Z)	Z=0.7	重要度係数(I)	I=1.5	基準風速(Vo)	46	m/秒	地表面粗度区分	Ⅰ ○Ⅱ Ⅲ Ⅳ		室名	スラブ用	小梁用	架橋用	地震用	備考	執務室・廊下	4900	4900	1800	800		議場	3500	3500	1800	2100		戸籍保管庫	11800	11800	10300	7400		屋根(非歩行)	1000	1000	600	400		<p>法20条（屋根ふき材棟の緊結関連：令39号）</p> <p>※屋根ふき材、内装材、外装材、幌壁その他これらに類するもの風圧、地震時に対して安全上支障のない構造とすること。 ※屋根ふき材、外装材、屋外に面する幌壁の構造について令和4年1月1日改正の昭和46年告示109号第1（屋根ふき材）第2（外装材）第3（幌壁）により構造方法とすること。</p> <p>法20条（建築設備の構造強度関連：令129条の2の3）</p> <p>※昇降機は別願申請である。平成12年告示第1388号（建築設備の構造方法） ※建築設備（昇降機除く）の支持構造部及び緊結金物は防錆防露処理を行うこと。 ※屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要部分に緊結すること。 ※煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。 ※煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 ※建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、第10の規定によるほか、次に定める構造とすること。 ※風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ※建築物の部分を通ずる貫通して配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。 ※管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換（換）継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 ※管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。 ※給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。 「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。 ※平成12年告示第1389号（屋上突出設備の構造計算） ※法20条第一号から第三号までの掲げる建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものあっては風圧地震その他の震動及び衝撃に対して安全であること。</p>	<p>4 章 地 業 工 事</p> <p>1 試験杭 (4.2.2)</p> <p>② 地盤の載荷試験 (4.2.4) 【注】</p> <p>2 節 試験及び報告書</p> <p>試験杭の本数、位置 ・最初の1本 ※設計図による 設計支持力 ・() (kN/本) ※設計図による</p> <p>○平板載荷試験 ※土質調査位置図内に記載 箇所数 (5箇所) ※根切り底 ・設計GL-() (m) 実施位置は設計図による。特記がない場合は設計監理者と協議の上、決定する。 載荷板 ※直径30cm以上の円形、厚さ25mm以上とする。 ・() 最大荷重 長期設計地耐力 () (kN/m²) 最大荷重は推定した地盤の極限支持力以上とする。</p> <p>3 節 既製コンクリート杭地業</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ※遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ・外敷鋼管付コンクリート杭 (SC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC, CPRC杭) <table border="1"> <tr> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m) および種別</th> <th>セット数</th> <th>設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>試験杭</td> <td colspan="4">設計図による</td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td colspan="4">設計図による</td> </tr> </table> <p>杭先端形状 ※開放形 ・閉そく形</p> <p>杭先端の支持地盤 ()</p> <p>2 支持地盤</p> <p>3 工 法 (4.3.3) (4.3.4) (4.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打込み工法 打込み機械 ※油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ・プレローリング ※行う ・行わない 掘削深さ ※設計図による ・() 掘削径 ※設計図による ・() ・セメントミルク工法 オーガーの支持地盤への掘削深さ ※1.5m以上 ・設計図による 杭の支持地盤への掘削深さ ※1.0m以上 ・設計図による ・特定埋込杭工法 (杭材料は認定条件に適合するもの) 平13国交告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法 α = (300~1038) β = (8.0~9.5) γ = (0.9~1.0) ・プレローリング拡大掘削工法 () ・周辺固定液 ※有 ・無 ・中継拡大掘削工法 () ・その他工法 () <p>杭の水平方向の位置ずれ精度 ※杭径の1/4かつ100mm以下 ・図示による</p> <p>※基礎工の構造耐力上の安全性を確保するための措置として「公共建築工事標準仕様書」を準拠する。</p> <p>4 継 手 (4.3.6)</p> <p>5 杭頭の処理 (4.3.7)</p> <p>継手工法 ※アーク溶接 ・無溶接継手</p> <p>※処理しない ・処理する 処理方法 ※ダイヤモンドカッター方式 ・外圧方式</p>	杭径 (mm)	杭長 (m) および種別	セット数	設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭	設計図による				本杭	設計図による				<p>4 章 地 業 工 事</p> <p>1 材料その他 (4.5.3)</p> <p>2 支持地盤</p> <p>3 アースドリル工法リバース工法及びオールケーシング工法 (4.5.4) (4.5.5)</p> <p>4 深礎工法 【注】</p> <p>1 地盤改良 【注】</p> <p>1 置換コンクリート地業 (ラッフルコンクリート) 【注】</p>	<p>章 項 目 特 記 事 項</p> <p>2 章 仮 設 工 事</p> <p>① 適用範囲 (2.1.1) 【注】</p> <p>3 章 土 工 事</p> <p>① 根切り (3.2.1) 【注】</p> <p>2 排 水 (3.2.2) 【付加】</p> <p>③ 埋戻し及び盛土 (3.2.3)</p> <p>④ 建設発生土の処理 (3.2.5)</p> <p>1 山留めの設置 (3.3.1) 【注】</p> <p>2 山留めの管理 (3.3.2) 【付加】</p> <p>3 山留めの撤去 (3.3.3)</p>	<p>1 節 一般事項</p> <p>※仮設工事は受注者の責任工とする。 ※仮設工事は仮設計画書を作成し監理者の承諾を得る事。 ※仮設に伴う躯体の補強は受注者負担とする。 ※建方、重機の乗り入れ等、施工に必要な構造検討は、受注者が行うとする。</p> <p>2 節 根切及び埋戻し</p> <p>(a) 根切り ※根切着手前に以下の項目を事前に確認する事。 1) 地盤調査の結果による地層及び地下水の状況把握。 2) 近接した建物等への影響の有無。 3) 地中埋設物で根切りに掛かるもの及び周辺にあるもの移設養生等の措置。 4) 山留めの安全性の確認では、根切り深さ1.5mを超える場合には、原則として山留を設けるとしている。 5) 機械掘削を行う場合の転倒、転落の防止。 6) 構台を架設した場合の荷重、振動に対する安全性の確認。 ※根切り後の検査(直接基礎の場合) ・実施しない ※実施する (設計レベル0~30mm以内)</p> <p>※流入水の排水、漏水 ※排水による周辺への影響防止 ・地盤改良 注) 水替は適宜適切な工法で施工する事。 水替 (参考) ・ディープウェル工法 ・ウェルポイント工法 ・釜場工法 ・リチャージ工法 ・その他工法 ()</p> <p>(1) 埋戻しに先立ち、埋戻し部分にある型枠を取り除く。ただし、型枠を存置する場合は、設計監理者と協議する。 (2) 埋戻し及び盛土は、各層300mm程度ごとに締め固める。 (表3.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>材 料</th> <th>工 法</th> </tr> <tr> <td>○A種</td> <td>山砂の類</td> <td>水締め、機器による締め</td> </tr> <tr> <td>○B種</td> <td>根切り土の中の良質土</td> <td>機器による締め</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>他現場の建設発生土の中の良質土</td> <td>機器による締め</td> </tr> <tr> <td>○D種</td> <td>再生コンクリート砂(再生クラッシュセラー)</td> <td>水締め、機器による締め</td> </tr> <tr> <td>○その他</td> <td>項式土(がんじゆど) 磁砕材 なんよう環土(流動化処理土)</td> <td>メーカー仕様による</td> </tr> </table> <p>良質土とは原則として、粘土の少ない砂質土とする。 埋戻し及び盛土の土に土間コンクリート又は土間スラブを設置する場合はA種及びD種とし、それ以外は監理者の承諾を得る。</p> <p>※構外搬出適切処理 ・構外指定場所に処分(搬出調書等提出する) 受入施設名: () 受入場所: () 仮置場所: () ・構内指定場所に置き均し ・構内指定場所にたい積</p> <p>3 節 山留め</p> <p>注) 山留め及び支保工は適宜適切な工法で施工する事。 山留め工法 (参考) 支保工 (参考) ・観杭損失工法 ・水平切り梁工法 ・鋼矢板工法 (シートパイル工法) ・地盤アンカー工法 ・ソイルセメント柱列山留め壁 ・逆打ち工法 ・場所打ち地中壁 ・アイランド工法 ・その他工法 () ・その他工法 ()</p> <p>・土圧計等の設置による計測管理計画を提出し、監理者の確認を得る事。又、掘削に伴う特殊な現象(ヒービング、ボイリング等)に関する計測及び対策を考慮する事。又アースアンカー工法を使用する際の施工者諸官庁との手続きは受注者の責任において行う事。</p> <p>山留め ※撤去する ・存置する () ※山留めの施工に先立ち、設計監理者に施工計画書並びに計算書を提出すること。</p> <p>4 節 鋼杭地業</p> <p>鋼管杭 ・STK400 ・STK490 H形鋼杭 ・SHK400 ・SHK490M</p> <table border="1"> <tr> <th>杭径・板厚</th> <th>杭長</th> <th>継手数</th> <th>セット数</th> <th>設計支持力</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>試験杭</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td colspan="5"></td> </tr> </table> <p>先端部形状 ※開放形(補強:図4.4.1、表4.4.2) ・閉塞形 ・設計図による 先端部の補強(補強バンド等)及びその他付属品の材質 ※母材と同等又はそれ以上</p> <p>杭先端の支持地盤 ()</p> <p>・打込み工法 打込み機械 ※油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ・プレローリング ※行う ・行わない 掘削深さ ※設計図による ・() 掘削径 ※設計図による ・() ・特定埋込杭工法 (杭材料は認定条件に適合するもの) 平13国交告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法 α = () β = () γ = () ・その他工法 () 杭の水平方向の位置ずれ精度 ※杭径の1/4かつ100mm以下 ・図示による</p> <p>現場継手の形状 鋼管杭 ※JIS A 5525 ・() H形鋼杭 ※設計図による ・()</p> <p>杭頭の処理 ※レベル止め(切断しない) ・ガス切断 ネガティブフリクション対策 ※不要 ・要 (設計図による) 電気防蝕処理 ※不要 ・要 (設計図による)</p>	種 別	材 料	工 法	○A種	山砂の類	水締め、機器による締め	○B種	根切り土の中の良質土	機器による締め	・C種	他現場の建設発生土の中の良質土	機器による締め	○D種	再生コンクリート砂(再生クラッシュセラー)	水締め、機器による締め	○その他	項式土(がんじゆど) 磁砕材 なんよう環土(流動化処理土)	メーカー仕様による	杭径・板厚	杭長	継手数	セット数	設計支持力	備考	試験杭						本杭						<p>5 節 場所打ちコンクリート杭地業</p> <p>セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 (表4.5.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>水セメント比の最大値 (%)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>組骨材の最大寸法 (mm)</th> <th>単位セメント量の最小値 (kg/m³)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>60以下</td> <td>※18</td> <td>25</td> <td>310</td> <td>無水掘りの場合</td> </tr> <tr> <td>※B種</td> <td>55以下</td> <td>・(21)</td> <td>20^{※1}</td> <td>340</td> <td>上記以外の場合</td> </tr> </table> <p>※1 砕石及び高炉スラグ砕石使用の場合</p> <p>設計基準強度 (27) N/mm² 構造体強度補正値 ※行う (+3N/mm²) ・行わない 単位水量の最大値 ※200kg/m³ ・() 鉄筋の種類 ※SD295A (D16以下) ・SD345 (D19以上) ・SD390 (D29以上) ・SD490 (D35以上) かぶり厚さ ※10mm (アースドリル工法) ※150mm (オールケーシング工法)</p> <table border="1"> <tr> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>(例) 設計図による</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>杭先端の支持地盤 ()</p> <p>a 掘削工法 1) ・アースドリル工法 (※安定液使用 ・無水掘削) 2) ・リバース工法 3) ・オールケーシング工法 (孔内の水強 ・行う ※行わない) 4) (財)日本建築センター等により評価された工法とする。(鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)参照とする。) ・拡底杭工法(拡底部の工法) ・アースドリル工法 ・リバース工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (※図示による) 孔壁測定 ※行う (100%、拡底部のみ行う) ・行わない 測定方法は直交2方向とする。</p> <p>杭の水平方向の位置ずれ精度 ※100mm以下 ・図示による</p> <p>b 深礎工法 適用範囲 特殊な井筒またはケーシングを用いて人力または機械により支持地盤まで掘削を掘削し、その中に配筋しコンクリートを打設して、大口径のピアーを築造する地業に適用する。 かぶり厚さ ※100mm ・150mm ・200mm (手掘り深礎) 形 状 設計支持力 (kN/本) ・(図示による) ・() 長 さ (m) ・図示による ・() 安全対策 酸素欠乏、孔内ガス発生、孔壁崩壊に対して十分な予防措置を講ずる。</p> <p>適用範囲 締固め、固化などにより地盤を改良して形成する地業に適用する。 支持地盤 改良体先端の支持地盤 () 使用目的 ※地盤の支持力の増大 ・液状化対策 ・その他 () 施工法 ・固化法 ・深層混合処理工法 ・浅層混合処理工法 ・締固め工法 ・サンドコンパクションパイル工法 ・パイロフロートーション工法 施工試験 ※実施する ・実施しない</p> <p>施工試験での確認項目</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>確認項目</th> </tr> <tr> <td>深層混合処理工法</td> <td>改良コラムのコアによる一軸圧縮強度など</td> </tr> <tr> <td>浅層混合処理工法</td> <td>コアによる一軸圧縮強度又は平板載荷試験</td> </tr> <tr> <td>サンドコンパクション工法</td> <td>仕上り砂粒の径、深さ、砂投入量、施工時間など</td> </tr> <tr> <td>パイロフロートーション工法</td> <td>パイロフロット線の引上げ速度、先端及び横引きジェット効果、砂投入量、施工時間など</td> </tr> <tr> <td>サンドドレーン工法</td> <td>砂材料のフィルター材としての効果、フッパ材使用の場合のネット強度、乾燥砂の保存方法、砂柱の折損防止策、所要時間など</td> </tr> </table> <p>材料その他 ※設計図による 六価クロム対策 使用するセメント又はセメント系固材材には六価クロム対応型を使用する。</p> <p>1 置換コンクリート地業 (ラッフルコンクリート) 【注】</p> <p>支持地盤上の軟弱な土を掘去し、コンクリートに置換する地業に適用する。 適用範囲 ※設計図による () 支持地盤 () 材料その他 「標仕」(6-14-1) 無筋コンクリートに準ずる。 設計基準強度 ※18N/mm² () 骨材の最大径 ※20mm ・40mm () スラブ ※15cm ()</p> <table border="1"> <tr> <th>工事名称</th> <td>与那国町複合庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)</td> <th>工事年度</th> <td>令和8年度</td> </tr> <tr> <th>工事場所</th> <td>与那国町字与那国854番地1</td> <th rowspan="2">名 称</th> <td>(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同</td> </tr> <tr> <th>発注機関</th> <td>与那国町 総務課</td> <th>資 格 者</th> <td>代表となる設計者 河野泰志</td> </tr> <tr> <th>図面名称</th> <td>構造特記仕様書(1)</td> <th>登録番号</th> <td>一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号</td> </tr> <tr> <th>縮 尺</th> <td>-</td> <th>資 格 者</th> <td>その他の設計者 上原直樹</td> </tr> <tr> <th>図面番号</th> <td>S-001</td> <th>登録番号</th> <td>一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号</td> </tr> <tr> <th>摘 要</th> <td>管理建築士 設 計 製 図 者</td> <th>資 格 者</th> <td>その他の設計者 川平恵正</td> </tr> <tr> <th rowspan="2">検 印</th> <td>管理建築士 設 計</td> <th>登録番号</th> <td>一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1822号</td> </tr> <tr> <td>製 図</td> <th>所 在 地</th> <td>那覇市久茂地1丁目2番20号</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>電話番号</th> <td>098-862-1106</td> </tr> </table>	種 別	水セメント比の最大値 (%)	スラブ (cm)	組骨材の最大寸法 (mm)	単位セメント量の最小値 (kg/m ³)	備 考	・A種	60以下	※18	25	310	無水掘りの場合	※B種	55以下	・(21)	20 ^{※1}	340	上記以外の場合	杭径 (mm)	杭長 (m)	設計支持力 (kN/本)	備考	(例) 設計図による																																				工 法	確認項目	深層混合処理工法	改良コラムのコアによる一軸圧縮強度など	浅層混合処理工法	コアによる一軸圧縮強度又は平板載荷試験	サンドコンパクション工法	仕上り砂粒の径、深さ、砂投入量、施工時間など	パイロフロートーション工法	パイロフロット線の引上げ速度、先端及び横引きジェット効果、砂投入量、施工時間など	サンドドレーン工法	砂材料のフィルター材としての効果、フッパ材使用の場合のネット強度、乾燥砂の保存方法、砂柱の折損防止策、所要時間など	工事名称	与那国町複合庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度	工事場所	与那国町字与那国854番地1	名 称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同	発注機関	与那国町 総務課	資 格 者	代表となる設計者 河野泰志	図面名称	構造特記仕様書(1)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号	縮 尺	-	資 格 者	その他の設計者 上原直樹	図面番号	S-001	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号	摘 要	管理建築士 設 計 製 図 者	資 格 者	その他の設計者 川平恵正	検 印	管理建築士 設 計	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1822号	製 図	所 在 地	那覇市久茂地1丁目2番20号			電話番号	098-862-1106
構造		鉄筋コンクリート造																																																																																																																																																																																																																																																		
地下階数	1	階																																																																																																																																																																																																																																																		
地上階数	3	階																																																																																																																																																																																																																																																		
塔屋階数	-	階																																																																																																																																																																																																																																																		
延床面積	4,795.12	m ²																																																																																																																																																																																																																																																		
建築面積	1,887.60	m ²																																																																																																																																																																																																																																																		
建物高さ	12.91	m																																																																																																																																																																																																																																																		
軒高	12.61	m																																																																																																																																																																																																																																																		
工事の種類	○新築・増築・改築																																																																																																																																																																																																																																																			
地震種別	第Ⅱ種地盤																																																																																																																																																																																																																																																			
地域係数(Z)	Z=0.7																																																																																																																																																																																																																																																			
重要度係数(I)	I=1.5																																																																																																																																																																																																																																																			
基準風速(Vo)	46	m/秒																																																																																																																																																																																																																																																		
地表面粗度区分	Ⅰ ○Ⅱ Ⅲ Ⅳ																																																																																																																																																																																																																																																			
室名	スラブ用	小梁用	架橋用	地震用	備考																																																																																																																																																																																																																																															
執務室・廊下	4900	4900	1800	800																																																																																																																																																																																																																																																
議場	3500	3500	1800	2100																																																																																																																																																																																																																																																
戸籍保管庫	11800	11800	10300	7400																																																																																																																																																																																																																																																
屋根(非歩行)	1000	1000	600	400																																																																																																																																																																																																																																																
杭径 (mm)	杭長 (m) および種別	セット数	設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																																																																																																																																																																
試験杭	設計図による																																																																																																																																																																																																																																																			
本杭	設計図による																																																																																																																																																																																																																																																			
種 別	材 料	工 法																																																																																																																																																																																																																																																		
○A種	山砂の類	水締め、機器による締め																																																																																																																																																																																																																																																		
○B種	根切り土の中の良質土	機器による締め																																																																																																																																																																																																																																																		
・C種	他現場の建設発生土の中の良質土	機器による締め																																																																																																																																																																																																																																																		
○D種	再生コンクリート砂(再生クラッシュセラー)	水締め、機器による締め																																																																																																																																																																																																																																																		
○その他	項式土(がんじゆど) 磁砕材 なんよう環土(流動化処理土)	メーカー仕様による																																																																																																																																																																																																																																																		
杭径・板厚	杭長	継手数	セット数	設計支持力	備考																																																																																																																																																																																																																																															
試験杭																																																																																																																																																																																																																																																				
本杭																																																																																																																																																																																																																																																				
種 別	水セメント比の最大値 (%)	スラブ (cm)	組骨材の最大寸法 (mm)	単位セメント量の最小値 (kg/m ³)	備 考																																																																																																																																																																																																																																															
・A種	60以下	※18	25	310	無水掘りの場合																																																																																																																																																																																																																																															
※B種	55以下	・(21)	20 ^{※1}	340	上記以外の場合																																																																																																																																																																																																																																															
杭径 (mm)	杭長 (m)	設計支持力 (kN/本)	備考																																																																																																																																																																																																																																																	
(例) 設計図による																																																																																																																																																																																																																																																				
工 法	確認項目																																																																																																																																																																																																																																																			
深層混合処理工法	改良コラムのコアによる一軸圧縮強度など																																																																																																																																																																																																																																																			
浅層混合処理工法	コアによる一軸圧縮強度又は平板載荷試験																																																																																																																																																																																																																																																			
サンドコンパクション工法	仕上り砂粒の径、深さ、砂投入量、施工時間など																																																																																																																																																																																																																																																			
パイロフロートーション工法	パイロフロット線の引上げ速度、先端及び横引きジェット効果、砂投入量、施工時間など																																																																																																																																																																																																																																																			
サンドドレーン工法	砂材料のフィルター材としての効果、フッパ材使用の場合のネット強度、乾燥砂の保存方法、砂柱の折損防止策、所要時間など																																																																																																																																																																																																																																																			
工事名称	与那国町複合庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度																																																																																																																																																																																																																																																	
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名 称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同																																																																																																																																																																																																																																																	
発注機関	与那国町 総務課		資 格 者	代表となる設計者 河野泰志																																																																																																																																																																																																																																																
図面名称	構造特記仕様書(1)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号																																																																																																																																																																																																																																																	
縮 尺	-	資 格 者	その他の設計者 上原直樹																																																																																																																																																																																																																																																	
図面番号	S-001	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号																																																																																																																																																																																																																																																	
摘 要	管理建築士 設 計 製 図 者	資 格 者	その他の設計者 川平恵正																																																																																																																																																																																																																																																	
検 印	管理建築士 設 計	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1822号																																																																																																																																																																																																																																																	
	製 図	所 在 地	那覇市久茂地1丁目2番20号																																																																																																																																																																																																																																																	
		電話番号	098-862-1106																																																																																																																																																																																																																																																	

章 項目	特記事項	Rev.01																																		
4章 地業工事	<p>6節 砂利、砂及び捨コンクリート地業等</p> <p>① 砂利及び砂地業 (4.6.3) 【付加】 ※砂利地業の材料 ・砂地業の材料 ・砂地業車さ 使用箇所 ※地耐力150kN/m²を超える場合は砂利は不要とする。</p> <p>② 捨コンクリート地業 (4.6.4) 【付加】 設計基準強度 スランプ 捨コン厚さ 使用箇所</p> <p>③ 床下防湿層 (4.6.5) 【付加】 施工箇所 防湿工法</p>	<p>※再生クラッシュラン ・切込み砂利および切込み砕石 ※川砂又は砕砂 ・ () ※60mm ・ () ※基礎スラブ下 ※基礎梁下 ※基礎下 ※土に接するスラブ下 ※土間コンクリート下 ※擁壁底板下</p> <p>※18N/mm² ・ () ※15cm ・ () ※50mm ・ () ※基礎スラブ下 ※基礎梁下 ※基礎下 ※土に接するスラブ下 ・土間コンクリート下 ※擁壁底板下</p> <p>※意匠図による ・建物内の土間スラブおよび土間コンクリート下 (ピット下を除く) ※意匠図による ・ポリエチレンフィルム t=0.15mm以上</p>																																		
5章 鉄筋工事	<p>1節 一般事項</p> <p>① 配筋検査 (5.1.3) 【付加】 受注者は原則として全数配筋検査を行い、記録を作成する。監理者が指示した場合には、記録を提出して確認を受ける。 配筋検査項目 1) 鉄筋の本数・鉄筋間隔・径・種別 2) 加工形状 3) 組立精度 (鉄筋の位置・かぶり・定着長さなど) 4) 継手位置・継手状況 監理者の立会い 1) 検査の結果、不合格となった配筋は修正して記録を監理者に提出する。 2) 監理者は配筋状態を確認するため、適時に抽出検査を行う。</p>	<p>6章 コンクリート工事</p> <p>① コンクリートの種類 (付加) (6.2.1) ② コンクリートの強度 (6.2.2) ③ ワーカービリティ及びスランプ (6.2.4)</p>																																		
	<p>2節 材料 (表5.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>鉄筋径・サイズ</th> <th>使用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">異形鉄筋 (JIS G 3112)</td> <td>SD295 (SD295A)</td> <td>D10 ~ D16 図示による</td> </tr> <tr> <td>SD345</td> <td>D19 ~ D25 図示による</td> </tr> <tr> <td>SD390</td> <td>D29 ~ D35 図示による</td> </tr> <tr> <td>SD490</td> <td>D38以上</td> </tr> <tr> <td>高強度せん断補強筋¹⁾</td> <td>φ85・φ85・φ785・φ1275</td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接金網 (JIS G 3551)</td> <td>φ6-100×100 φ6-150×150</td> <td>防水押えコンクリート</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 高強度せん断補強筋の大径認定品は鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) を参照する。 ※受注者は、工事現場に搬入した材料について検査を行い、検査記録を監理者に提出して確認を受ける。 ※JIS規格品については、監理者の承認がある場合は、ミルシートまたは信頼できる資料の提出により、材料試験に代えることができる。 ※試験機関は原則として公的機関とする。</p>	材種	鉄筋径・サイズ	使用箇所	異形鉄筋 (JIS G 3112)	SD295 (SD295A)	D10 ~ D16 図示による	SD345	D19 ~ D25 図示による	SD390	D29 ~ D35 図示による	SD490	D38以上	高強度せん断補強筋 ¹⁾	φ85・φ85・φ785・φ1275		溶接金網 (JIS G 3551)	φ6-100×100 φ6-150×150	防水押えコンクリート	<p>④ 気乾単位容積質量 (6.2.3) コンクリート気乾単位容積質量 ※2.3t/m³ ()</p> <p>⑤ 構造体コンクリートの仕上り (6.2.5) 部材の位置及び断面寸法の許容差 ※標仕 (表6.2.3) ・許容差 () 適用箇所 () ※合板せき板を用いるコンクリートの打ち直し仕上りは下表による。 打ち直し仕上りの種別 (表6.2.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>仕上り程度</th> <th>せき板の程度 (括弧内は参考)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A種</td> <td>目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とする。</td> <td>6.8.2(2)(7)のせき板でほとんど損傷のないものとする。 (化粧打放、塗装仕上程度を施す表面)</td> </tr> <tr> <td>B種</td> <td>目違い、不陸等の少ない良好な面とし、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとする。</td> <td>6.8.2(2)(4)のせき板でほとんど損傷のないものとする。 (仕上塗材を施す表面)</td> </tr> <tr> <td>C種</td> <td>打放しのままで、目違いの多いを行ったものとする。</td> <td>6.8.2(2)(4)のせき板で使用上差し支えないものとする。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※使用箇所は意匠図参照とする。</p>	種別	仕上り程度	せき板の程度 (括弧内は参考)	A種	目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とする。	6.8.2(2)(7)のせき板でほとんど損傷のないものとする。 (化粧打放、塗装仕上程度を施す表面)	B種	目違い、不陸等の少ない良好な面とし、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとする。	6.8.2(2)(4)のせき板でほとんど損傷のないものとする。 (仕上塗材を施す表面)	C種	打放しのままで、目違いの多いを行ったものとする。	6.8.2(2)(4)のせき板で使用上差し支えないものとする。				
材種	鉄筋径・サイズ	使用箇所																																		
異形鉄筋 (JIS G 3112)	SD295 (SD295A)	D10 ~ D16 図示による																																		
	SD345	D19 ~ D25 図示による																																		
	SD390	D29 ~ D35 図示による																																		
	SD490	D38以上																																		
高強度せん断補強筋 ¹⁾	φ85・φ85・φ785・φ1275																																			
溶接金網 (JIS G 3551)	φ6-100×100 φ6-150×150	防水押えコンクリート																																		
種別	仕上り程度	せき板の程度 (括弧内は参考)																																		
A種	目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とする。	6.8.2(2)(7)のせき板でほとんど損傷のないものとする。 (化粧打放、塗装仕上程度を施す表面)																																		
B種	目違い、不陸等の少ない良好な面とし、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとする。	6.8.2(2)(4)のせき板でほとんど損傷のないものとする。 (仕上塗材を施す表面)																																		
C種	打放しのままで、目違いの多いを行ったものとする。	6.8.2(2)(4)のせき板で使用上差し支えないものとする。																																		
	<p>3節 加工及び組み立</p> <p>① 組立 (5.3.3) 【付加】 ※コンクリートの打ち込み後のさし筋は行わない。 ※鉄筋の合直しは原則として行わない。やむを得ず直直しを行う場合は、その折曲勾配を1/6以下としてできる限り緩やかに曲げて、既設コンクリートを傷めないように慎重に施工する。</p> <p>② 継手及び定着 (5.3.4) 【付加】 継手の工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>重ね継手</th> <th>ガス圧接</th> <th>溶接継手</th> <th>機械式継手</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱・大梁主筋</td> <td>D16以下</td> <td>D19以上</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>小梁主筋</td> <td>D16以下</td> <td>D19以上</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>壁、スラブ、基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>全て</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>杭主筋</td> <td>全て</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) ガス圧接施工者は (社) 日本圧接協会の正会員のうち優良圧接業者とする。 優良圧接業者以外の施工者とする場合は監理者と協議を行うこと。 2) D19以上の柱・梁主筋の継ぎ手工法は、監理者と協議の上決定する。 3) SD490の鉄筋を圧接する際は、施工試験を行う。 4) 機械式継手工法は、日本建築センター評定取得品 又は 日本建築総合試験所の建築技術性能証明取得品とする。「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)」参照とする。</p> <p>鉄筋の重ね継手の長さ ・標仕 (表5.3.2) による ・その他 () ※鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) による</p> <p>隣り合う継手の位置 ・標仕 (表5.3.3) による ・その他 () ※鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) による</p> <p>鉄筋の定着長さ ・標仕 (表5.3.4) (表5.3.5) による ・その他 () ※鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) による</p> <p>定着の工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位等</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※一般部</td> <td>柱・大梁主筋とも通し配筋</td> <td></td> </tr> <tr> <td>柱・梁接合部</td> <td>※外端部、段差部 ※90°折り曲げ定着 ・機械式定着</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 機械式定着工法は、日本建築センター評定取得品 又は 日本建築総合試験所の建築技術性能証明取得品とする。「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)」参照とする。 2) 柱梁士口部の筋筋比は、0.3%以上かつ、メーカー規定値を満足させる事とする。</p>	部位	重ね継手	ガス圧接	溶接継手	機械式継手	柱・大梁主筋	D16以下	D19以上	-	-	小梁主筋	D16以下	D19以上	-	-	壁、スラブ、基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁	全て	-	-	-	杭主筋	全て	-	-	-	部位等	工法	備考	※一般部	柱・大梁主筋とも通し配筋		柱・梁接合部	※外端部、段差部 ※90°折り曲げ定着 ・機械式定着		<p>① セメント (6.3.1.(1)) ※普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントのA種 ・高炉セメントのA種 ・その他 ()</p> <p>② 骨材 (6.3.1.(2)) 砂利及び砂の種類 (JIS A 5308) ※A ・B 砕石及び砕砂の種類 (JIS A 5005) ※A ・B アルカリシカ反応 ※年2回の生コン工場定期検査結果で確認する。 ・本工事において使用する骨材についてアルカリシカ反応性試験を行う。 (・化学法 ・モルタルバー法 ・その他促進試験) 上記の結果から、骨材が有害と判定された場合は、アルカリ総量規制 (コンクリート中のアルカリ総量が0.3kg/m³以下) 等によりアルカリ骨材反応の抑制対策を講じる。</p> <p>③ 水 (6.3.1.(3)) 【付加】 水はJIS A 5308の付属書Cにより、監理者の承認を受ける。ただし、高強度コンクリートは原則として回収水は使用しない。</p>
部位	重ね継手	ガス圧接	溶接継手	機械式継手																																
柱・大梁主筋	D16以下	D19以上	-	-																																
小梁主筋	D16以下	D19以上	-	-																																
壁、スラブ、基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁	全て	-	-	-																																
杭主筋	全て	-	-	-																																
部位等	工法	備考																																		
※一般部	柱・大梁主筋とも通し配筋																																			
柱・梁接合部	※外端部、段差部 ※90°折り曲げ定着 ・機械式定着																																			
③ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5) 【付加】	<p>・標仕 (表5.3.6) による ※鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) による ※かぶり厚さは目地面から算定する。 ※柱・梁などの加工に用いるかぶり厚さは、設計図に示す設計かぶり厚さを標準とする。 ※D29以上の鉄筋のかぶり厚さ及び間隔については、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)」によるものとする。 ・海水の影響のおそれのある部位については、25節「海水の作用を受けるコンクリート」を参照する。 ・特殊鉄筋継ぎ手の鉄筋相互のあき () (mm) ・機械式継手標準図による</p>																																			

章 項目	特記事項																																																																																																																
5章 鉄筋工事	<p>④ 各部配筋 (5.3.7) 鉄筋の加工及び組立要領「鉄筋コンクリート構造標準配筋図」による。 ※鉄筋コンクリート構造配筋要領図による ・標仕 (3節) による 各部の配筋 ※「鉄筋コンクリート構造配筋要領図」による ・標仕 (各部配筋参考図) による 柱に取り付ける梁の定着長さ ※「鉄筋コンクリート構造配筋要領図」による ・第73条3項による (定着長さ40d) 屋根スラブ補強は「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (7)」による ※直交補強タイプ ・斜め補強タイプ</p> <p>4節 ガス圧接 外観検査 ※「標仕」による。 抜き取り検査 ※超音波探傷試験 ※「標仕」による。 ※引張試験 () 抜取率 ※3本/ロット () 本/ロット (注) 1ロットは1組の作業班が1日の行った圧接箇所数 (200箇所程度) 試験機関 超音波探傷試験機関は監理者が承認した第三者検査会社で行う。 引張試験の試験機関は、原則として公的機関で行う。</p>																																																																																																																
6章 コンクリート工事	<p>2節 コンクリートの種類及び品質</p> <p>※レディーミクストコンクリートの種類 ※I類 ・II類 使用するコンクリートはJIS A 5308に適合するJIS認定工場の製品、または大径認定品とする。 上記以外を使用する場合は、JIS A 5308により、品質管理を行い、試験結果を設計監理者に報告する。(表6.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>適用箇所¹⁾</th> <th>種類</th> <th>コンクリート強度 (N/mm²) 設計基準強度 Fc</th> <th>調整管理強度 Fm</th> <th>スランプ許容差 (cm)</th> <th>混合剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>躯体コンクリート(基礎部)</td> <td>普通</td> <td>24</td> <td>27</td> <td>15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>躯体コンクリート(軸部)</td> <td>普通</td> <td>24</td> <td>27</td> <td>18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>土間コンクリート</td> <td>普通</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>基礎基礎コンクリート</td> <td>普通</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>倉庫コンクリート</td> <td>普通</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>15</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 基礎部とは、基礎、基礎梁、最下階床版をいう。 2) コンクリート種類を示す。(普通、流動化、高強度、大径認定は各部参照とする。) 3) Fmは (Fc+3N/mm²) を示す。(施工の際には、暑中コンクリートの割り増し (12節参照) 及び生コンプラントの規定を考慮して、監理者と協議の上決定する。) 4) コンクリート番号 (13, 14, 15) は暑中コンクリートの割増し (12節) は適用外とする。 5) 6)</p> <p>① 工事現場内運搬 (6.6.1) コンクリートポンプによる圧送を行う者は、「コンクリート圧送施工技能士」の資格を取得している者とする。</p> <p>② コンクリートの練混ぜから打ち込み終了までの時間の限度 (6.6.2) コンクリートの練混ぜから打ち込み終了までの時間は、外気温が25℃以下の場合には120分、25℃を超える場合には90分とする。</p> <p>③ 打継ぎ (6.6.3) 打継ぎ位置 ※標仕 (6.6.3) ・設計図による。 打継ぎ目地の寸法 ※標仕 (9.7.3) ・設計図 (意匠図) による。 打継ぎ方法 ※土に接する地下外壁・基礎底版 (ピット) のコンクリートの打継ぎは、非加硫チルゴム止水板を打ち込む。また、打ち込み部位は監理者の承認を得ること。 逆打ち工法 ※打継ぎ部の形状は、受注者が施工図等で示し、監理者の承認を受ける。</p> <p>④ 打ち込み (6.6.4) 庇などの片持ちスラブ及び片持ち梁は本体と同時に打ち込む。 コンクリートの打ち込み速度は、コンクリートポンプ工法の場合20~30m³/hが目安とする。 打重ね時間の限度は、外気温が25℃以下の場合120分、外気温が25℃を超える場合は90分とする。</p> <p>⑤ 締固め (6.6.5) ※鉛直部材と水平部材を同日に打ち込む場合の締固め方法 鉛直部材と水平部材の打ち込み場合には、その境界部分に沈みひび割れが生じやすい。鉛直部材に打ち込んだコンクリートを十分に締固めて、沈降が落ち着いた状態で水平部材にコンクリートを打ち込む必要がある。打ち重ね箇所については下層にパイプレータの先端が入るようにする。</p>	番号	適用箇所 ¹⁾	種類	コンクリート強度 (N/mm ²) 設計基準強度 Fc	調整管理強度 Fm	スランプ許容差 (cm)	混合剤	1	躯体コンクリート(基礎部)	普通	24	27	15		2	躯体コンクリート(軸部)	普通	24	27	18		3							4							5							6							7							8							9							10							11							12							13	土間コンクリート	普通	18	21	15		14	基礎基礎コンクリート	普通	18	21	15		15	倉庫コンクリート	普通	18	18	15	
番号	適用箇所 ¹⁾	種類	コンクリート強度 (N/mm ²) 設計基準強度 Fc	調整管理強度 Fm	スランプ許容差 (cm)	混合剤																																																																																																											
1	躯体コンクリート(基礎部)	普通	24	27	15																																																																																																												
2	躯体コンクリート(軸部)	普通	24	27	18																																																																																																												
3																																																																																																																	
4																																																																																																																	
5																																																																																																																	
6																																																																																																																	
7																																																																																																																	
8																																																																																																																	
9																																																																																																																	
10																																																																																																																	
11																																																																																																																	
12																																																																																																																	
13	土間コンクリート	普通	18	21	15																																																																																																												
14	基礎基礎コンクリート	普通	18	21	15																																																																																																												
15	倉庫コンクリート	普通	18	18	15																																																																																																												
6章 コンクリート工事	<p>4 特殊な混和材料 (6.3.1.(4)) 混和材料の種類及び適用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>使用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>流動化剤¹⁾</td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td>膨張材²⁾</td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) I類コンクリートであっても、荷卸し地点等で流動化剤を添加する場合はII類コンクリートとして扱われる。 2) 鉄骨造の建物における駐車場の床等コンクリート露出仕上げとする部分及び、コンクリート直仕上げをする部分は、原則として膨張剤を用いる。 材料及び割合の条件 1) 単位水量の最大値 ※185kg/m³ () 2) 水セメント比の最大値 ※65% () 3) 単位セメント量の最小値 ※270kg/m³ () 高性能AE減水剤を使用する際は、単位セメント量の最小値は290kg/m³とする。 試し練り ※実施しない ・実施する (II類コンクリート又はJIS規格外材料) コンクリート番号 () 実施にあたって、試し練りの計画スランプ、計画空気量については、レディーミクストコンクリートの練混ぜから荷卸し地点までのロスを考慮した目標値であること。</p> <p>① コンクリートの材料の試験および検査 【補記】 ※レディーミクストコンクリートを使用する場合は、施工者は、コンクリート工事開始前および工事期間中では随時、レディーミクストコンクリート工場からコンクリートに使用されるセメント、骨材、練混ぜ水および混和材料の種類、生産者および品質を記載した試験成績書を監理者へ提出すること。 ※規定に適合しないレディーミクストコンクリートを使用する場合、コンクリートの材料の品質管理は上記によるほか、レディーミクストコンクリート工場で通常使用していない材料については、材料の納入者から試験成績書を監理者へ提出すること。</p>	種類	使用箇所	流動化剤 ¹⁾	コンクリート番号 ()	膨張材 ²⁾	コンクリート番号 ()		コンクリート番号 ()		コンクリート番号 ()		コンクリート番号 ()																																																																																																				
種類	使用箇所																																																																																																																
流動化剤 ¹⁾	コンクリート番号 ()																																																																																																																
膨張材 ²⁾	コンクリート番号 ()																																																																																																																
	コンクリート番号 ()																																																																																																																
	コンクリート番号 ()																																																																																																																
	コンクリート番号 ()																																																																																																																
7章 コンクリート工事	<p>7節 養生</p> <p>① 湿潤養生 (6.7.2) 【付加】 打ち込み後のコンクリートは透水性の小さいせき板による被覆、養生マット又は水シートによる被覆、散水・噴霧、膜養生剤の塗布等により湿潤養生を行う。その期間は下表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種</td> <td>5日以上</td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>3日以上</td> </tr> <tr> <td>中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント</td> <td>7日以上</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>湿潤養生を上記の期間より早く打ち切る場合は、コンクリート部分の厚さが18cm以上の部材において、計画供用期間が短期及び標準の場合は、10N/mm²以上、長期及び超長期の場合は同じく15N/mm²以上に達したことが確認されれば、打ち切ることができる。</p> <p>8節 型枠</p> <p>① 型枠一般 (6.8.1) 【補記】 外部に面するコンクリートの打増し厚さは下記とする。 ※20mm ・その他 (mm) ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法は下記とする。 ※設計図 (意匠図) による ・構造図「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (9)」による ・コンクリート温度ひび割れ、収縮ひび割れ対策のための配合計画および打設計画を行い、監理者の承認を受ける。 ・鉄筋による補強 () ※設計図 ()</p> <p>② 材料 (6.8.2) 【補記】 ※コンクリート合板 ※12mm () ○打放し仕上げ 合板の品質は、6.8.2(2)(7)による表面加工品とする。 意匠図面で別途指定がある場合 (杉板型枠材・断熱材を兼用した型枠材など) はそれに適用すること。 ◎打放し仕上げ以外 合板の品質は、6.8.2(2)(4)によるB-Cとする。 その他のせき板 ・型枠用鋼製デッキ (撤去可能な製品) () ※その他せき板を使用する際は、設計監理者に承認を得てから使用すること。</p> <p>③ 型枠の存置期間及び取外し (6.8.4) 【補記】 型枠の存置期間 ※せき板の最小存置期間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">基礎、梁側、柱、壁</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントのB種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの材齢による場合 (日)</td> <td>15℃以上</td> <td>2日</td> <td>3日</td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>3日</td> <td>5日</td> <td>7日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの圧縮強度による場合</td> <td>0℃以上</td> <td>5日</td> <td>8日</td> <td>10日</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td colspan="3">圧縮強度が 5N/mm² 以上になるまで</td> </tr> </tbody> </table> <p>※支保工の最小存置期間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="2">スラブ下</th> <th colspan="2">梁下</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントのA種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの材齢による場合 (日)</td> <td>15℃以上</td> <td>8日</td> <td>17日</td> <td>28日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>12日</td> <td>25日</td> <td>28日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの圧縮強度による場合</td> <td>0℃以上</td> <td>15日</td> <td>28日</td> <td>28日</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td colspan="3">圧縮強度が設計基準強度 (Fc) の85%以上又は12N/mm²以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。されるまで。</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) コンクリート打ち込み時の型枠の支持方法は原則、2層受けとすること。 2) スラブ下、梁下のせき板は、支保工を取り外した後に取り外すこと。</p> <p>4 耐震スリット 【補記】 適用箇所 ※設計図 (伏図、軸組図) による (鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (6) を参照) スリットの種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>タイプ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・垂直方向</td> <td>※完全 (全貫通型) スリット</td> <td>※耐火型</td> <td>※有り</td> </tr> <tr> <td>・水平方向</td> <td>()</td> <td>・非耐火型</td> <td>・無し</td> </tr> </tbody> </table> <p>スリット鉄筋 (つなぎ筋) ※エボキシ樹脂鉄筋 ・錆止め塗装鉄筋</p>	セメントの種類	期間	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種	5日以上	早強ポルトランドセメント	3日以上	中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント	7日以上	高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種		セメントの種類	施工箇所		基礎、梁側、柱、壁		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのB種	コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	2日	3日	5日	5℃以上	3日	5日	7日	コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	5日	8日	10日	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上になるまで			セメントの種類	スラブ下		梁下		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのA種	コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	8日	17日	28日	5℃以上	12日	25日	28日	コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	15日	28日	28日	-	圧縮強度が設計基準強度 (Fc) の85%以上又は12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。されるまで。			方向	タイプ	耐火性能	防水性能	・垂直方向	※完全 (全貫通型) スリット	※耐火型	※有り	・水平方向	()	・非耐火型	・無し																																				
セメントの種類	期間																																																																																																																
普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種	5日以上																																																																																																																
早強ポルトランドセメント	3日以上																																																																																																																
中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント	7日以上																																																																																																																
高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種																																																																																																																	
セメントの種類	施工箇所		基礎、梁側、柱、壁																																																																																																														
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのB種																																																																																																													
コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	2日	3日	5日																																																																																																													
	5℃以上	3日	5日	7日																																																																																																													
コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	5日	8日	10日																																																																																																													
	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上になるまで																																																																																																															
セメントの種類	スラブ下		梁下																																																																																																														
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのA種																																																																																																													
コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	8日	17日	28日																																																																																																													
	5℃以上	12日	25日	28日																																																																																																													
コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	15日	28日	28日																																																																																																													
	-	圧縮強度が設計基準強度 (Fc) の85%以上又は12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。されるまで。																																																																																																															
方向	タイプ	耐火性能	防水性能																																																																																																														
・垂直方向	※完全 (全貫通型) スリット	※耐火型	※有り																																																																																																														
・水平方向	()	・非耐火型	・無し																																																																																																														

章 項目	特記事項																																				
6章 コンクリート工事	<p>4 特殊な混和材料 (6.3.1.(4)) 混和材料の種類及び適用</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>使用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>流動化剤¹⁾</td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td>膨張材²⁾</td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コンクリート番号 ()</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) I類コンクリートであっても、荷卸し地点等で流動化剤を添加する場合はII類コンクリートとして扱われる。 2) 鉄骨造の建物における駐車場の床等コンクリート露出仕上げとする部分及び、コンクリート直仕上げをする部分は、原則として膨張剤を用いる。 材料及び割合の条件 1) 単位水量の最大値 ※185kg/m³ () 2) 水セメント比の最大値 ※65% () 3) 単位セメント量の最小値 ※270kg/m³ () 高性能AE減水剤を使用する際は、単位セメント量の最小値は290kg/m³とする。 試し練り ※実施しない ・実施する (II類コンクリート又はJIS規格外材料) コンクリート番号 () 実施にあたって、試し練りの計画スランプ、計画空気量については、レディーミクストコンクリートの練混ぜから荷卸し地点までのロスを考慮した目標値であること。</p> <p>① コンクリートの材料の試験および検査 【補記】 ※レディーミクストコンクリートを使用する場合は、施工者は、コンクリート工事開始前および工事期間中では随時、レディーミクストコンクリート工場からコンクリートに使用されるセメント、骨材、練混ぜ水および混和材料の種類、生産者および品質を記載した試験成績書を監理者へ提出すること。 ※規定に適合しないレディーミクストコンクリートを使用する場合、コンクリートの材料の品質管理は上記によるほか、レディーミクストコンクリート工場で通常使用していない材料については、材料の納入者から試験成績書を監理者へ提出すること。</p>	種類	使用箇所	流動化剤 ¹⁾	コンクリート番号 ()	膨張材 ²⁾	コンクリート番号 ()		コンクリート番号 ()		コンクリート番号 ()		コンクリート番号 ()																								
種類	使用箇所																																				
流動化剤 ¹⁾	コンクリート番号 ()																																				
膨張材 ²⁾	コンクリート番号 ()																																				
	コンクリート番号 ()																																				
	コンクリート番号 ()																																				
	コンクリート番号 ()																																				
7章 コンクリート工事	<p>5節 普通コンクリートの品質管理</p> <p>① 一般事項 (6.5.1) 【補記】 コンクリート単位水量の測定 ○実施 ※実施しない 単位水量は、打ち込み当初及び打ち込み途中で品質変化が見られた場合に、調査表及びコンクリートの製造管理記録により、規定した値に対して、所定の範囲内であることを確認する。 延床面積1,500m²程度以上の新築工事の場合は、現場にて単位水量測定を実施する。 1) 施工者に単位水量を含む正確な計画調査書の確認をさせる。 2) 単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷卸し時に品質の異常が認められた時に実施する。 3) 単位水量の上限値は、「3節 コンクリートの材料及び割合」による。 4) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。(ただし、測定装置の精度や試験の熟練度の向上に伴い、管理目標値を厳しく定めることができる。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">単位水量の管理目標値と設計値の関係及び管理運用方法 (表6.5.1)</th> </tr> <tr> <th>改善指示値</th> <th>管理目標値</th> <th>設計値</th> <th>管理目標値</th> <th>改善指示値</th> <th>改善指示値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><-20</td> <td>-20≤</td> <td>-15</td> <td>±0</td> <td>+15</td> <td>≤+20</td> </tr> <tr> <td>持ち帰り</td> <td>改善</td> <td>打放</td> <td>改善</td> <td>持ち帰り</td> <td>+20<</td> </tr> <tr> <td>全車</td> <td>1回/3台</td> <td>1回/150m³</td> <td>1回/3台</td> <td>全車</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 不合格生コンを持ち帰ったことを確認すること 2) 単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷卸し時に品質の異常が認められた時に実施する。 5) 単位水量管理についての記録を書面 (調査計画書、製造管理記録、打ち込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出すること。 6) 測定結果を計画調査書とともに監理者へ提出すること。</p> <p>② スランプ (6.5.2) 【補記】 スランプの許容差</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>スランプ</th> <th>スランプの許容差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8cm以上18cm以下</td> <td>±2.5cm</td> </tr> <tr> <td>18cmを超える</td> <td>±1.5cm¹⁾</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 調査管理強度27N/mm²以上で、高性能AE減水剤を使用する場合は±2.0cmとする。</p> <p>③ 空気量 (6.5.3) コンクリートの空気量の許容差は±1.5%の範囲内とする。</p> <p>④ 塩化物量及びアルカリ総量 (6.5.4) 【補記】 コンクリート打設現場において、打放に先立ち、コンクリート中の塩化物総量を測定し、その結果を監理者に報告する。原則、塩化物イオン量は0.3kg/m³未満とする。 アルカリ総量 ※標仕6.5.1式によりコンクリート中のアルカリ総量を確認する。</p>	単位水量の管理目標値と設計値の関係及び管理運用方法 (表6.5.1)						改善指示値	管理目標値	設計値	管理目標値	改善指示値	改善指示値	<-20	-20≤	-15	±0	+15	≤+20	持ち帰り	改善	打放	改善	持ち帰り	+20<	全車	1回/3台	1回/150m ³	1回/3台	全車		スランプ	スランプの許容差	8cm以上18cm以下	±2.5cm	18cmを超える	±1.5cm ¹⁾
単位水量の管理目標値と設計値の関係及び管理運用方法 (表6.5.1)																																					
改善指示値	管理目標値	設計値	管理目標値	改善指示値	改善指示値																																
<-20	-20≤	-15	±0	+15	≤+20																																
持ち帰り	改善	打放	改善	持ち帰り	+20<																																
全車	1回/3台	1回/150m ³	1回/3台	全車																																	
スランプ	スランプの許容差																																				
8cm以上18cm以下	±2.5cm																																				
18cmを超える	±1.5cm ¹⁾																																				
8章 コンクリート工事	<p>6節 コンクリートの工場現場内運搬並びに打ち込み及び締固め</p> <p>① 工事現場内運搬 (6.6.1) コンクリートポンプによる圧送を行う者は、「コンクリート圧送施工技能士」の資格を取得している者とする。</p> <p>② コンクリートの練混ぜから打ち込み終了までの時間の限度 (6.6.2) コンクリートの練混ぜから打ち込み終了までの時間は、外気温が25℃以下の場合には120分、25℃を超える場合には90分とする。</p> <p>③ 打継ぎ (6.6.3) 打継ぎ位置 ※標仕 (6.6.3) ・設計図による。 打継ぎ目地の寸法 ※標仕 (9.7.3) ・設計図 (意匠図) による。 打継ぎ方法 ※土に接する地下外壁・基礎底版 (ピット) のコンクリートの打継ぎは、非加硫チルゴム止水板を打ち込む。また、打ち込み部位は監理者の承認を得ること。 逆打ち工法 ※打継ぎ部の形状は、受注者が施工図等で示し、監理者の承認を受ける。</p> <p>④ 打ち込み (6.6.4) 庇などの片持ちスラブ及び片持ち梁は本体と同時に打ち込む。 コンクリートの打ち込み速度は、コンクリートポンプ工法の場合20~30m³/hが目安とする。 打重ね時間の限度は、外気温が25℃以下の場合120分、外気温が25℃を超える場合は90分とする。</p> <p>⑤ 締固め (6.6.5) ※鉛直部材と水平部材を同日に打ち込む場合の締固め方法 鉛直部材と水平部材の打ち込み場合には、その境界部分に沈みひび割れが生じやすい。鉛直部材に打ち込んだコンクリートを十分に締固めて、沈降が落ち着いた状態で水平部材にコンクリートを打ち込む必要がある。打ち重ね箇所については下層にパイプレータの先端が入るようにする。</p>																																				
9章 鉄筋工事	<p>① 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5) 【付加】 ・標仕 (表5.3.6) による ※鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) による ※かぶり厚さは目地面から算定する。 ※柱・梁などの加工に用いるかぶり厚さは、設計図に示す設計かぶり厚さを標準とする。 ※D29以上の鉄筋のかぶり厚さ及び間隔については、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)」によるものとする。 ・海水の影響のおそれのある部位については、25節「海水の作用を受けるコンクリート」を参照する。 ・特殊鉄筋継ぎ手の鉄筋相互のあき () (mm) ・機械式継手標準図による</p>																																				

章 項目	特記事項																																																																												
6章 コンクリート工事	<p>7節 養生</p> <p>① 湿潤養生 (6.7.2) 【付加】 打ち込み後のコンクリートは透水性の小さいせき板による被覆、養生マット又は水シートによる被覆、散水・噴霧、膜養生剤の塗布等により湿潤養生を行う。その期間は下表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種</td> <td>5日以上</td> </tr> <tr> <td>早強ポルトランドセメント</td> <td>3日以上</td> </tr> <tr> <td>中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント</td> <td>7日以上</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>湿潤養生を上記の期間より早く打ち切る場合は、コンクリート部分の厚さが18cm以上の部材において、計画供用期間が短期及び標準の場合は、10N/mm²以上、長期及び超長期の場合は同じく15N/mm²以上に達したことが確認されれば、打ち切ることができる。</p> <p>8節 型枠</p> <p>① 型枠一般 (6.8.1) 【補記】 外部に面するコンクリートの打増し厚さは下記とする。 ※20mm ・その他 (mm) ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法は下記とする。 ※設計図 (意匠図) による ・構造図「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (9)」による ・コンクリート温度ひび割れ、収縮ひび割れ対策のための配合計画および打設計画を行い、監理者の承認を受ける。 ・鉄筋による補強 () ※設計図 ()</p> <p>② 材料 (6.8.2) 【補記】 ※コンクリート合板 ※12mm () ○打放し仕上げ 合板の品質は、6.8.2(2)(7)による表面加工品とする。 意匠図面で別途指定がある場合 (杉板型枠材・断熱材を兼用した型枠材など) はそれに適用すること。 ◎打放し仕上げ以外 合板の品質は、6.8.2(2)(4)によるB-Cとする。 その他のせき板 ・型枠用鋼製デッキ (撤去可能な製品) () ※その他せき板を使用する際は、設計監理者に承認を得てから使用すること。</p> <p>③ 型枠の存置期間及び取外し (6.8.4) 【補記】 型枠の存置期間 ※せき板の最小存置期間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">基礎、梁側、柱、壁</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントのB種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの材齢による場合 (日)</td> <td>15℃以上</td> <td>2日</td> <td>3日</td> <td>5日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>3日</td> <td>5日</td> <td>7日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの圧縮強度による場合</td> <td>0℃以上</td> <td>5日</td> <td>8日</td> <td>10日</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td colspan="3">圧縮強度が 5N/mm² 以上になるまで</td> </tr> </tbody> </table> <p>※支保工の最小存置期間</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="2">スラブ下</th> <th colspan="2">梁下</th> </tr> <tr> <th>早強ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>普通ポルトランドセメント</th> <th>混合セメントのA種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの材齢による場合 (日)</td> <td>15℃以上</td> <td>8日</td> <td>17日</td> <td>28日</td> </tr> <tr> <td>5℃以上</td> <td>12日</td> <td>25日</td> <td>28日</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリートの圧縮強度による場合</td> <td>0℃以上</td> <td>15日</td> <td>28日</td> <td>28日</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td colspan="3">圧縮強度が設計基準強度 (Fc) の85%以上又は12N/mm²以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。されるまで。</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) コンクリート打ち込み時の型枠の支持方法は原則、2層受けとすること。 2) スラブ下、梁下のせき板は、支保工を取り外した後に取り外すこと。</p> <p>4 耐震スリット 【補記】 適用箇所 ※設計図 (伏図、軸組図) による (鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (6) を参照) スリットの種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>タイプ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・垂直方向</td> <td>※完全 (全貫通型) スリット</td> <td>※耐火型</td> <td>※有り</td> </tr> <tr> <td>・水平方向</td> <td>()</td> <td>・非耐火型</td> <td>・無し</td> </tr> </tbody> </table> <p>スリット鉄筋 (つなぎ筋) ※エボキシ樹脂鉄筋 ・錆止め塗装鉄筋</p>	セメントの種類	期間	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種	5日以上	早強ポルトランドセメント	3日以上	中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント	7日以上	高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種		セメントの種類	施工箇所		基礎、梁側、柱、壁		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのB種	コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	2日	3日	5日	5℃以上	3日	5日	7日	コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	5日	8日	10日	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上になるまで			セメントの種類	スラブ下		梁下		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのA種	コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	8日	17日	28日	5℃以上	12日	25日	28日	コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	15日	28日	28日	-	圧縮強度が設計基準強度 (Fc) の85%以上又は12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。されるまで。			方向	タイプ	耐火性能	防水性能	・垂直方向	※完全 (全貫通型) スリット	※耐火型	※有り	・水平方向	()	・非耐火型	・無し
セメントの種類	期間																																																																												
普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種	5日以上																																																																												
早強ポルトランドセメント	3日以上																																																																												
中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント	7日以上																																																																												
高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種																																																																													
セメントの種類	施工箇所		基礎、梁側、柱、壁																																																																										
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのB種																																																																									
コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	2日	3日	5日																																																																									
	5℃以上	3日	5日	7日																																																																									
コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	5日	8日	10日																																																																									
	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上になるまで																																																																											
セメントの種類	スラブ下		梁下																																																																										
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	混合セメントのA種																																																																									
コンクリートの材齢による場合 (日)	15℃以上	8日	17日	28日																																																																									
	5℃以上	12日	25日	28日																																																																									
コンクリートの圧縮強度による場合	0℃以上	15日	28日	28日																																																																									
	-	圧縮強度が設計基準強度 (Fc) の85%以上又は12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。されるまで。																																																																											
方向	タイプ	耐火性能	防水性能																																																																										
・垂直方向	※完全 (全貫通型) スリット	※耐火型	※有り																																																																										
・水平方向	()	・非耐火型	・無し																																																																										
9章 鉄筋工事	<p>③ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (5.3.5) 【付加】 ・標仕 (表5.3.6) による ※鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) による ※かぶり厚さは目地面から算定する。 ※柱・梁などの加工に用いるかぶり厚さは、設計図に示す設計かぶり厚さを標準とする。 ※D29以上の鉄筋のかぶり厚さ及び間隔については、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)」によるものとする。 ・海水の影響のおそれのある部位については、25節「海水の作用を受けるコンクリート」を</p>																																																																												

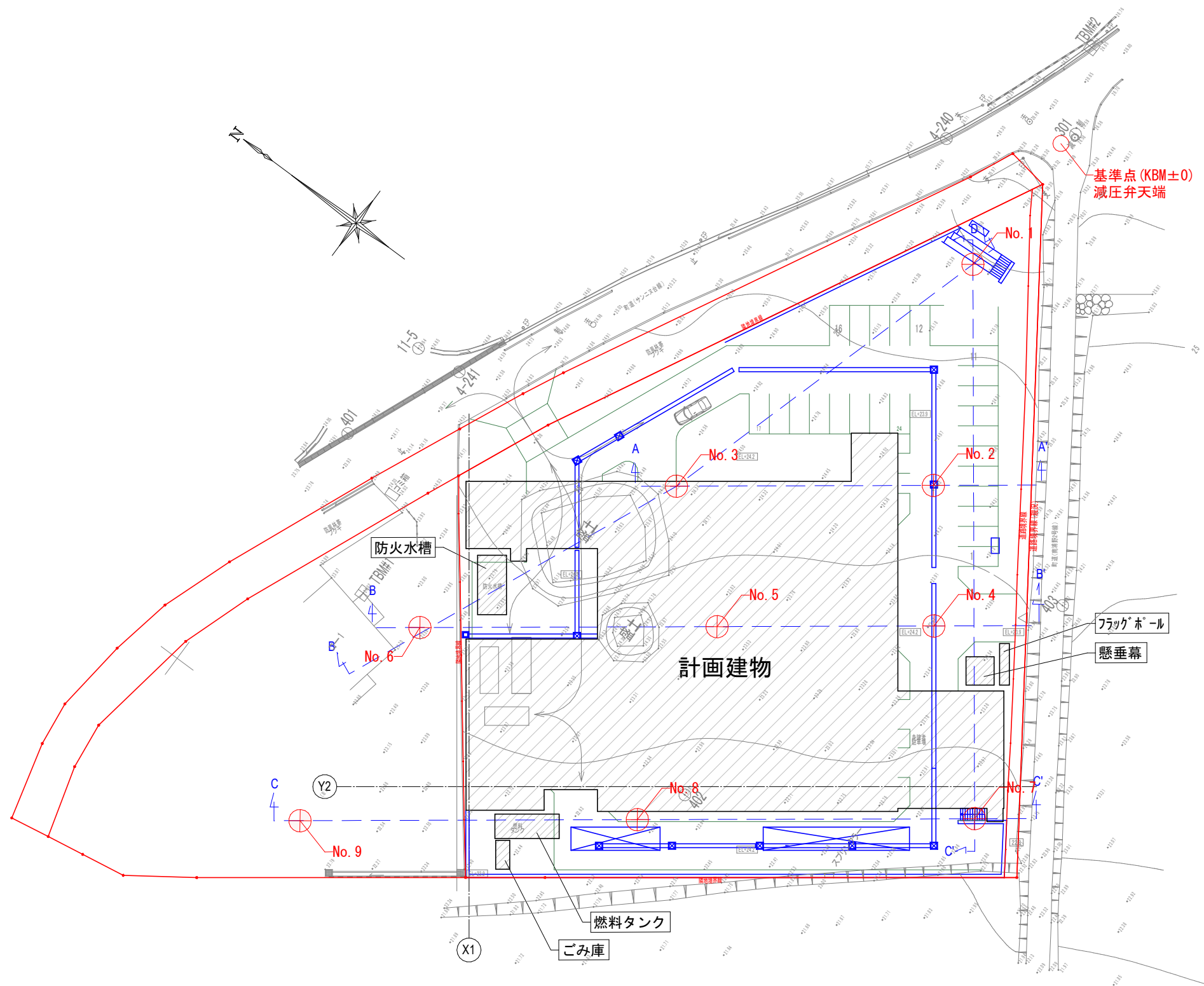
章 項目	特記事項																								
6章 ① 一般事項 (6.9.1) ② 調合管理強度の管理試験 (6.9.4) ③ コンクリートの強度試験の総則 (6.9.3) ④ 構造体コンクリート強度の推定試験 (6.9.5)	<p>9節 試験</p> <p>この節は、コンクリートの試験及び構造体コンクリートの仕上りの確認に適用する。ただし、軽易なコンクリート工事の場合は、設計監理者の承諾を受けて、試験を省略することができる。</p> <table border="1"> <tr> <td>試験の目的</td> <td>調合管理強度の判定</td> <td>型枠取外し時期の決定</td> <td>構造体コンクリート強度の判定</td> </tr> <tr> <td>1回の試験</td> <td>頻度 打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと</td> <td>必要に応じて定める</td> <td>打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと</td> </tr> <tr> <td>供試体の個数</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>供試体の作成方法</td> <td>1台の運搬車から採取した試料を同時に3個の供試体を作成する。</td> <td>適切な間隔をあけた3台の運搬車から、それぞれ試料を採取し、1台につき1個(合計3個)の供試体を作成する。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>養生方法</td> <td>標準養生</td> <td>工場現場における水中養生又は封かん養生</td> <td>工場現場における封かん養生</td> </tr> <tr> <td>材齢</td> <td>28日</td> <td>必要に応じて定める</td> <td>28日及び28日を超え91日以内</td> </tr> </table> <p>供試体の採取方法</p> <p>■1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を用いる。 ■調合管理強度の管理試験用は1台の運搬車から3個の供試体を用いる。 ■調合管理強度用供試体</p> <p>試験及び検査を第三者試験機関に依頼して行う場合、施工者は適切な第三者試験機関を定めて設計監理者の承認を受けること。</p> <p>部材の位置・断面寸法、表面の仕上り状態、仕上りの平たんさ、打ち込み欠陥部、ひび割れ及びかぶり厚さ等は一般的に受注者等自身が行い不具合等があれば設計監理者へ報告する。補修等が必要な場合は補修専門家と連携し、補修要領書を設計監理に提出し、承諾を得て補修を行う。補修完了後は、直ちに補修箇所について設計監理者の検査を受けること。なお、補修要領は「建築工事監理指針」や「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5」等を参考にすること。</p>	試験の目的	調合管理強度の判定	型枠取外し時期の決定	構造体コンクリート強度の判定	1回の試験	頻度 打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと	必要に応じて定める	打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと	供試体の個数	3			供試体の作成方法	1台の運搬車から採取した試料を同時に3個の供試体を作成する。	適切な間隔をあけた3台の運搬車から、それぞれ試料を採取し、1台につき1個(合計3個)の供試体を作成する。		養生方法	標準養生	工場現場における水中養生又は封かん養生	工場現場における封かん養生	材齢	28日	必要に応じて定める	28日及び28日を超え91日以内
試験の目的	調合管理強度の判定	型枠取外し時期の決定	構造体コンクリート強度の判定																						
1回の試験	頻度 打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと	必要に応じて定める	打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ150m以下にほぼ均等に分割した単位ごと																						
供試体の個数	3																								
供試体の作成方法	1台の運搬車から採取した試料を同時に3個の供試体を作成する。	適切な間隔をあけた3台の運搬車から、それぞれ試料を採取し、1台につき1個(合計3個)の供試体を作成する。																							
養生方法	標準養生	工場現場における水中養生又は封かん養生	工場現場における封かん養生																						
材齢	28日	必要に応じて定める	28日及び28日を超え91日以内																						
① 適用範囲 (6.12.1) ② 材料及び調合 (6.12.2) ③ 製造及び打ち込み (6.12.3)	<p>12節 暑中コンクリート</p> <p>日平均気温の年平均値が25℃を超える期間(6月～10月迄 (JASS 5より))にコンクリートを打ち込む場合に適用する。ただし、場所打ちコンクリート杭、構造耐力上主要な部分以外及び高強度コンクリート(17節)は適用外とする。構造耐力上主要な部分以外とは土間コンクリート及び機械基礎等などの鉄筋を有するコンクリートとする。 構造体強度補正值 ※ 6N/mm² ・その他 ()</p> <p>1) 荷卸し時のコンクリート温度は、原則として35℃以下とする。35℃を超えることが予想される場合は材料・調合、打重時間、養生方法をあらかじめ検討し、対策を講じること。 2) コンクリートの練り混ぜから打ち込み終了までの時間は、90分以内とする。</p>																								
① 一般事項 (6.14.1)	<p>14節 無筋コンクリート</p> <p>適用箇所 ※ (街きよ、縁石、側溝類及びこれらの基礎) ※ (間知石積み基礎及び要込めコンクリート) ※ (捨コンクリート) ※ (機械室等で用いる配管設用コンクリート) ※ (防水層の保護コンクリート) ※ (ラッフルコンクリート) ・ 図示による</p> <p>設計基準強度 ※ 18N/mm² ・その他 () スランプ ※ 15cm又は18cm ・その他 ()</p>																								

章 項目	特記事項
6章 1 一般事項 (6.15.1) 2 材料及び調合 (6.15.2) 3 コンクリートの流動化 (6.15.3) (付加) 4 品質管理 (6.15.3) 5 運搬並びに打ち込み及び締固め (6.15.4)	<p>15節 流動化コンクリート</p> <p>※コンクリート番号 ()</p> <p>流動化剤はJIS A 6204による。種類は(標準型・遅延型)は監理者の承認を受けたものを用いる。 試し練り ※実施する ・実施しない 流動化コンクリートの調合は、工事に使用する材料を用い、実際の施工条件になるべく近い条件で実施すること。</p> <p>流動化剤の添加及び流動化のためのかくはんは、工事現場で行う。また、流動化剤は原液を用いる。 流動化剤は質量または容積で計量する。ただし、粉体の流動化剤で一定量が袋詰めされているものは、監督者の承認を受けて、袋の数で計測することができる。その場合、一袋未満の利用を使用することは、原則として行わないこと。</p> <p>ベースコンクリートの品質は2節による。 スランプ ベースコンクリート⁰ (15) 流動化コンクリート⁰ (18)</p> <p>1) 調合管理強度が33N/mm²以上の場合、材料分離を生じない範囲でベースコンクリートをスランプ18cm以下、流動化コンクリートをスランプ23cm以下とすることができる。 空気量 ※4.5% ・ ()</p> <p>流動化後の品質管理は、スランプ試験及び空気量試験を毎回実施し品質を確認すること。品質が許容値から逸脱した場合は、流動化剤の添加量を調整する。</p> <p>流動化剤の添加時は、コンクリートの打ち込み場所できるだけ近いところで行い、流動化後、直ちに打ち込みができるようにする。 コンクリートの運搬方法 ※バケツ ・コンクリートタワー 流動化コンクリートの荷卸しから打ち込み完了までの時間は、外気温25℃未満の場合は30分以内、25℃以上の場合は20分以内とする。 流動化コンクリートの打重時間間隔は、外気温25℃未満の場合は60分以内、25℃以上の場合は40分以内とする。</p>

章 項目	特記事項																																																																																																		
6章 1 総則 (JASS 17.1) (付加) 2 施工計画 (JASS 17.2) 3 品質 (JASS 17.3) 4 材料 (JASS 17.4) 5 調合 (JASS 17.5) 6 発注・製造・運搬 打ち込み・締固め (JASS 17.6) (JASS 17.7) (JASS 17.8) 7 打継ぎ (JASS 17.9) 8 上面仕上げ (JASS 17.10) 9 養生 (JASS 17.11) 10 型枠 11 鉄筋の加工および組立 (JASS 17.13)	<p>16節 高強度コンクリート</p> <p>本節は、設計基準強度が36N/mm²を超える高強度コンクリートを使用する鉄筋コンクリート工事に適用する。本仕様ならびに設計図書に指示されていない事項は、日本建築学会「高強度コンクリート施工指針・同解説」による。</p> <p>施工者は、工事に先立ち、高強度コンクリートの調査・製造計画、品質管理計画書を作成し、工事を遂行する体制を組織し、監理者の承認を受けなければならない。また、施工体制及び品質管理体制は、設計の意図が充分反映できるような体制とすべきである。品質管理責任者を定める。品質管理責任者は、通常の場合、一級建築士、一級または二級建築施工管理技士、(社)日本コンクリート工学協会の認定したコンクリート主任技士またはコンクリート技士の資格を有する者、またはこれらと同等以上の技術と経験を有する者。</p> <p>スランプ及びスランプフロー 36<Fc<45 ※スランプ (21cm以下) スランプ値 (※2節 表6.11による) ・スランプフロー (50cm以下) フロー値 (※2節 表6.11による) 45≤Fc≤60 ※スランプ (23cm以下) スランプ値 (※2節 表6.11による) ※スランプフロー (60cm以下) フロー値 (※2節 表6.11による)</p> <p>セメント ※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・その他 ()</p> <p>骨材 ※JIS A 5005に適合する砕石・砕砂または砂利・砂 ただし、砕石の粒形判定実率は57%以上、砕砂の微粒分量試験で失われ量は5.0%以下とする。</p> <p>水 ※6章 3節による</p> <p>混和剤 ※使用する混和剤は、JIS A 6204(コンクリート用化学混和剤)に適合するものとする。</p> <p>試し練り ※実施する ・実施しない</p> <p>材料の調合及び条件</p> <table border="1"> <tr> <td>1) 単位水量の最大値</td> <td>※175kg/m³</td> <td>・185kg/m³</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>2) 単位セメント量</td> <td>※試し練りによって定める。</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>3) 単位粗骨材</td> <td>※試し練りによって定める。</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>4) 化学混和剤</td> <td>※高性能AC減水剤</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>5) 空気量</td> <td>※3.0%</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>6) 塩化物量</td> <td>※0.3kg/m³以下</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> <tr> <td>7) セメント比の最大値</td> <td>※50%</td> <td>・ ()</td> <td>・ ()</td> </tr> </table> <p>高強度コンクリートの構造体強度補正值の標準値を下表に示す。</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="3">設計基準強度の範囲(N/mm²)</th> </tr> <tr> <th>36<Fc≤48</th> <th>48<Fc≤60</th> <th>60<Fc≤72</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>中熱ポルトランドセメント</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>低熱ポルトランドセメント</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>発注における設計基準強度と呼び強度または管理強度の関係の「一例」を下表に示す。</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <td>39</td> <td>42</td> <td>45</td> <td>48</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>60</td> </tr> <tr> <th>構造体強度補正值 (N/mm²)</th> <td colspan="7">9</td> </tr> <tr> <th>調合管理強度 (N/mm²)</th> <td>48</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>57</td> <td>63</td> <td>66</td> <td>72</td> </tr> <tr> <th>呼び強度または管理強度 (N/mm²)</th> <td>48</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>57</td> <td>63</td> <td>66</td> <td>72</td> </tr> </table> <p>□ は呼び強度とする。 ■ JIS A 5308の高強度コンクリート (スランプフローの値は50または60cm、呼び強度50でスランプの場合は10.15.18cm) ■ 大臣認定コンクリート (管理強度・スランプフローは大臣認定による(任意に設定))</p> <p>コンクリートの運搬は、練り混ぜから90分以内に荷卸しすること。練混ぜから打ち込み終了までの時間を120分以内とする。</p> <p>※6章 6節による</p> <p>※標仕(6.6.6)による ・ 収縮ひび割れ対策 ・ 表面養生剤の使用(養生剤種は監理者と協議の上決定する。) ・ 養生シート</p> <p>打ち込み後の湿潤養生期間は、セメントの種類および設計基準強度に応じて下表に示す。ただし、これ以外のセメントを使用する場合などは、監理者に承認を受けて養生期間を定めること。</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">セメントの種類</th> <th colspan="3">設計基準強度</th> </tr> <tr> <th>36超～40以下</th> <th>40超～50以下</th> <th>50超～60以下</th> </tr> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>5日以上</td> <td>4日以上</td> <td>3日以上</td> </tr> <tr> <td>中熱ポルトランドセメント</td> <td>6日以上</td> <td>4日以上</td> <td>3日以上</td> </tr> <tr> <td>低熱ポルトランドセメント</td> <td>7日以上</td> <td>5日以上</td> <td>4日以上</td> </tr> </table> <p>1) 湿潤養生を上記期間より早く打ち切る場合は、監理者と協議すること。</p> <p>せき板の存置期間 ※コンクリートの圧縮期間が10N/mm²以上に達したことが確認されるまでとする。</p> <p>※5章 3節による</p>	1) 単位水量の最大値	※175kg/m ³	・185kg/m ³	・ ()	2) 単位セメント量	※試し練りによって定める。	・ ()	・ ()	3) 単位粗骨材	※試し練りによって定める。	・ ()	・ ()	4) 化学混和剤	※高性能AC減水剤	・ ()	・ ()	5) 空気量	※3.0%	・ ()	・ ()	6) 塩化物量	※0.3kg/m ³ 以下	・ ()	・ ()	7) セメント比の最大値	※50%	・ ()	・ ()	セメントの種類	設計基準強度の範囲(N/mm ²)			36<Fc≤48	48<Fc≤60	60<Fc≤72	普通ポルトランドセメント	9	12	15	中熱ポルトランドセメント	3	5	7	低熱ポルトランドセメント	6	10	13	設計基準強度 (N/mm ²)	39	42	45	48	51	54	60	構造体強度補正值 (N/mm ²)	9							調合管理強度 (N/mm ²)	48	51	54	57	63	66	72	呼び強度または管理強度 (N/mm ²)	48	51	54	57	63	66	72	セメントの種類	設計基準強度			36超～40以下	40超～50以下	50超～60以下	普通ポルトランドセメント	5日以上	4日以上	3日以上	中熱ポルトランドセメント	6日以上	4日以上	3日以上	低熱ポルトランドセメント	7日以上	5日以上	4日以上
1) 単位水量の最大値	※175kg/m ³	・185kg/m ³	・ ()																																																																																																
2) 単位セメント量	※試し練りによって定める。	・ ()	・ ()																																																																																																
3) 単位粗骨材	※試し練りによって定める。	・ ()	・ ()																																																																																																
4) 化学混和剤	※高性能AC減水剤	・ ()	・ ()																																																																																																
5) 空気量	※3.0%	・ ()	・ ()																																																																																																
6) 塩化物量	※0.3kg/m ³ 以下	・ ()	・ ()																																																																																																
7) セメント比の最大値	※50%	・ ()	・ ()																																																																																																
セメントの種類	設計基準強度の範囲(N/mm ²)																																																																																																		
	36<Fc≤48	48<Fc≤60	60<Fc≤72																																																																																																
普通ポルトランドセメント	9	12	15																																																																																																
中熱ポルトランドセメント	3	5	7																																																																																																
低熱ポルトランドセメント	6	10	13																																																																																																
設計基準強度 (N/mm ²)	39	42	45	48	51	54	60																																																																																												
構造体強度補正值 (N/mm ²)	9																																																																																																		
調合管理強度 (N/mm ²)	48	51	54	57	63	66	72																																																																																												
呼び強度または管理強度 (N/mm ²)	48	51	54	57	63	66	72																																																																																												
セメントの種類	設計基準強度																																																																																																		
	36超～40以下	40超～50以下	50超～60以下																																																																																																
普通ポルトランドセメント	5日以上	4日以上	3日以上																																																																																																
中熱ポルトランドセメント	6日以上	4日以上	3日以上																																																																																																
低熱ポルトランドセメント	7日以上	5日以上	4日以上																																																																																																

章 項目	特記事項
6章 12 品質管理・検査 (JASS 17.14)	<p>a. 使用材料の品質及び検査は、JASS 11節によるほか、骨材については、無害と判定される骨材を使用することを原則とし、その品質管理・検査は、(1)～(3)のいずれかの書類を監理者に提出すること。 (1) レディミキストコンクリート工場が試験を実施し、発行した試験成績書 (2) レディミキストコンクリート工場が公的に認められた試験機関に試験を依頼し、受領した試験成績書 (3) JISの認証を受けた骨材製造会社による試験成績書</p> <p>b. 荷卸し時のフレッシュコンクリートの検査は、使用するコンクリートおよび構造体コンクリートの圧縮強度試験用供試体の採取時に行い、その判定基準はJASS 11節による。ただし、スランプの許容差は、スランプが18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。</p> <p>c. 使用するコンクリートの圧縮強度の検査は、打込み日かつ300m²ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける検査回数はいずれも3回とする。検査は、適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査による試験体の養生方法は標準養生とする。</p> <p>d. 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は、打込み日、打込み工区かつ300m²ごとに行う。検査には、適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の試験体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は、標準養生または構造体温度養生とする。</p> <p>e. 使用するコンクリートおよび構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、任意の1台のトラックアジテータから採取した3個の供試体の試験結果を1回とし、合計9個の供試体による3回の試験結果をもとに行う。使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、調合強度を定めるための基準とする材齢において、3回の試験結果の最小値が調合管理強度の85%以上、かつ3回の試験結果の平均値が調合管理強度以上であれば合格とする。構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、標準養生した供試体を用いる場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において、3回の試験結果の平均値が調合管理強度以上であれば合格とし、構造体温度養生した供試体を用いる場合は、91日以内の材齢において圧縮強度の平均値から3N/mm²を差し引いた値が設計基準強度以上であれば合格とする。</p> <p>f. 構造体コンクリートの圧縮強度の判定を標準養生した供試体で行い、使用するコンクリートの検査ロットの構成を構造体コンクリートと同じにした場合は、使用するコンクリートの圧縮強度の判定に構造体コンクリートの試験結果を用いることができる。</p> <p>g. 1日の打込み量が30m³以下の場合は、使用するコンクリートおよび構造体コンクリートの圧縮強度の検査は、c～f項に準拠してよい。 強度の判定に構造体コンクリートの試験結果を用いることができる。</p> <p>h. 圧縮強度の検査に用いる供試体には、採取後直ちに、水分の造敵防止対策やその後実施する養生と同一の温度条件となるような初期養生対策を実施する。</p>
1 大臣認定 (注) コンクリート	<p>※適用箇所 ()</p> <p>※材料及び調合は製品の性能評価書による。 ※試し練り ※実施する ・実施しない ※特記無き場合は、性能評価書を参照し監理者と協議の上決定する。</p>

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時建設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	構造特記仕様書(3)	登録番号	一級建築士 (大臣)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-003	登録番号	一級建築士 (大臣)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大臣)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1822号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106



⊕ 既存ボーリングデータ(No.1～No.9)
2019年2月頃 実施

— 外構擁壁及び外構階段を示す。(土木工事)

KBM=EL+26.62 設計GL=EL+24.20 1FL=EL+24.30

設計地耐力確認のため、平板載荷試験を実施する。(根切底)
実施位置については設計監理と協議して決定する。
著しい地盤の不良個所が確認された場合は設計監理者と協議を行い、
追加で平板載荷試験を適宜実施すること。

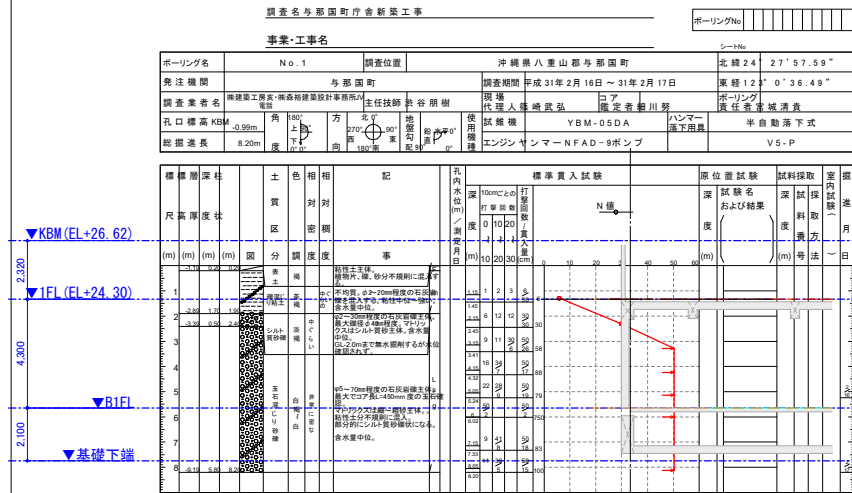
平板載荷試験の実施

- 庁舎 Lfe=300kN/m² 1箇所
- 燃料タンク Lfe=150kN/m² 1箇所
- 懸垂幕 Lfe=30kN/m² 1箇所
- フラッグホール Lfe=20kN/m² 1箇所
- ごみ庫 Lfe=20kN/m² 1箇所

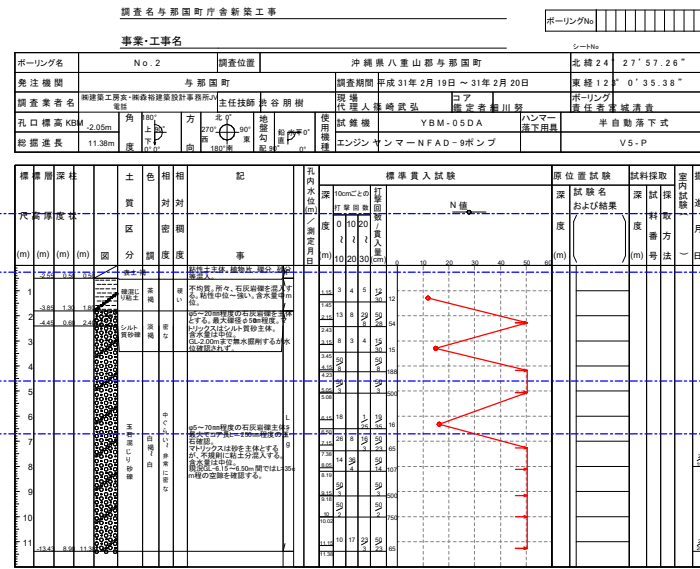
工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度		
工事場所	与那国町字与那国854番地1	設計者	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同	
発注機関	与那国町 総務課		資格者	代表となる設計者 河野泰志	
図面名称	土質調査位置図		登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号	
縮尺	S-1/300(1/600)		資格者	その他の設計者 上原直樹	
図面番号	S-004		登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号	
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正		
検印	管理建築士	設計	製図	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号	
				所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
				電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

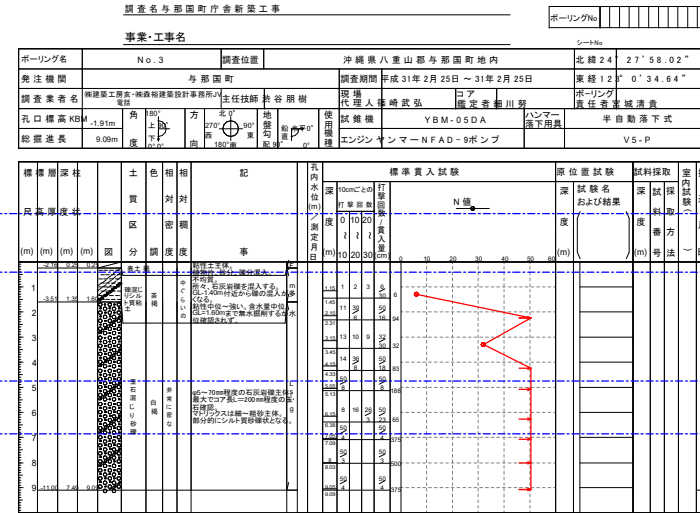
ボーリング柱状図



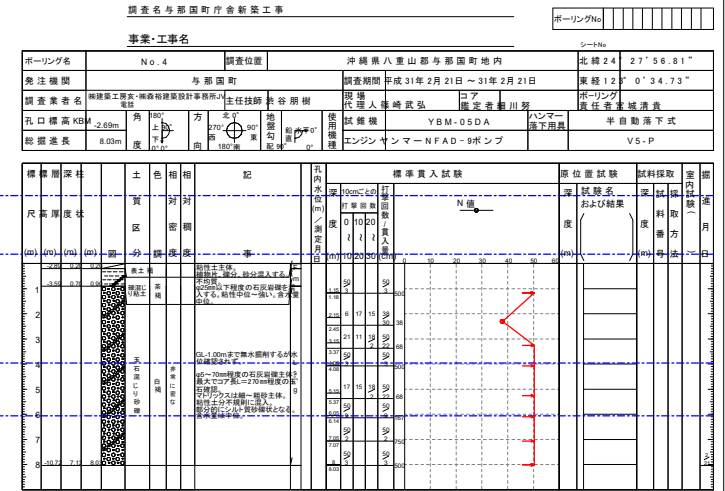
ボーリング柱状図



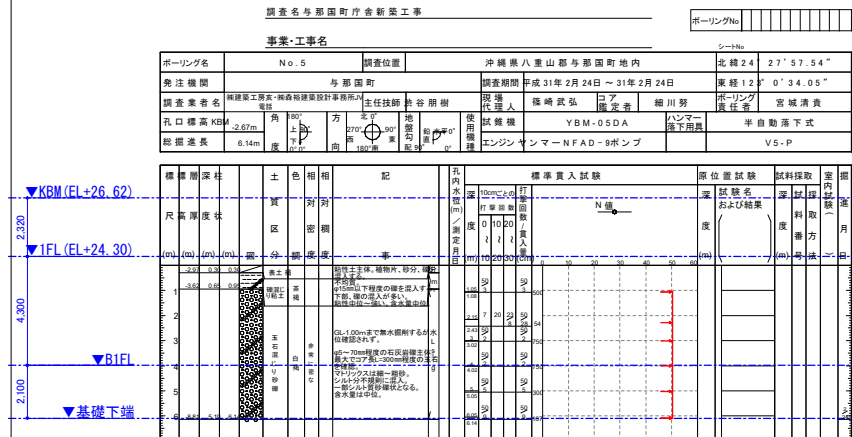
ボーリング柱状図



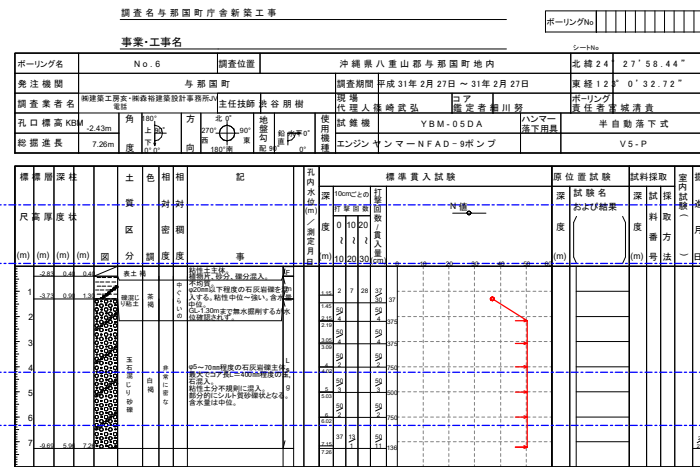
ボーリング柱状図



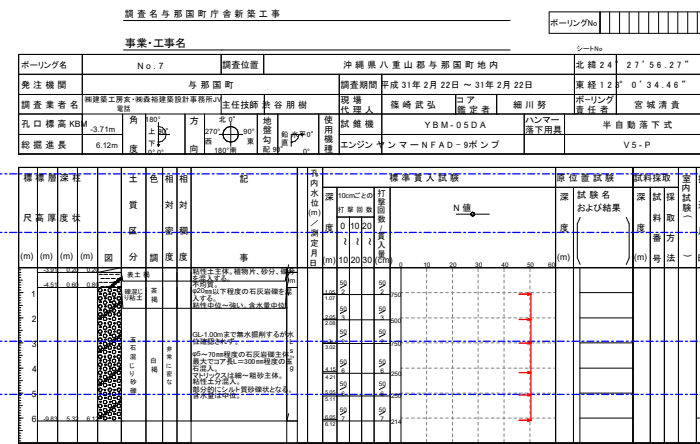
ボーリング柱状図



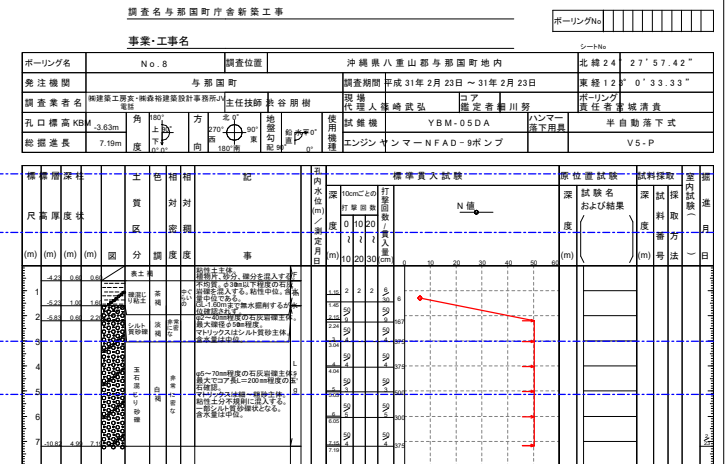
ボーリング柱状図



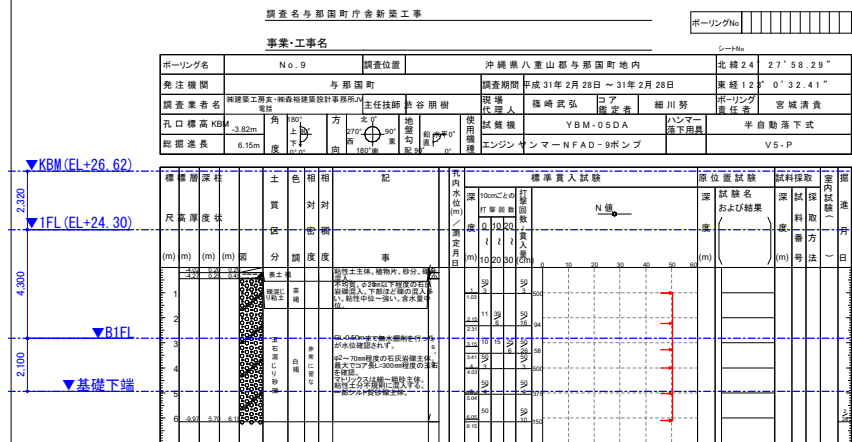
ボーリング柱状図



ボーリング柱状図

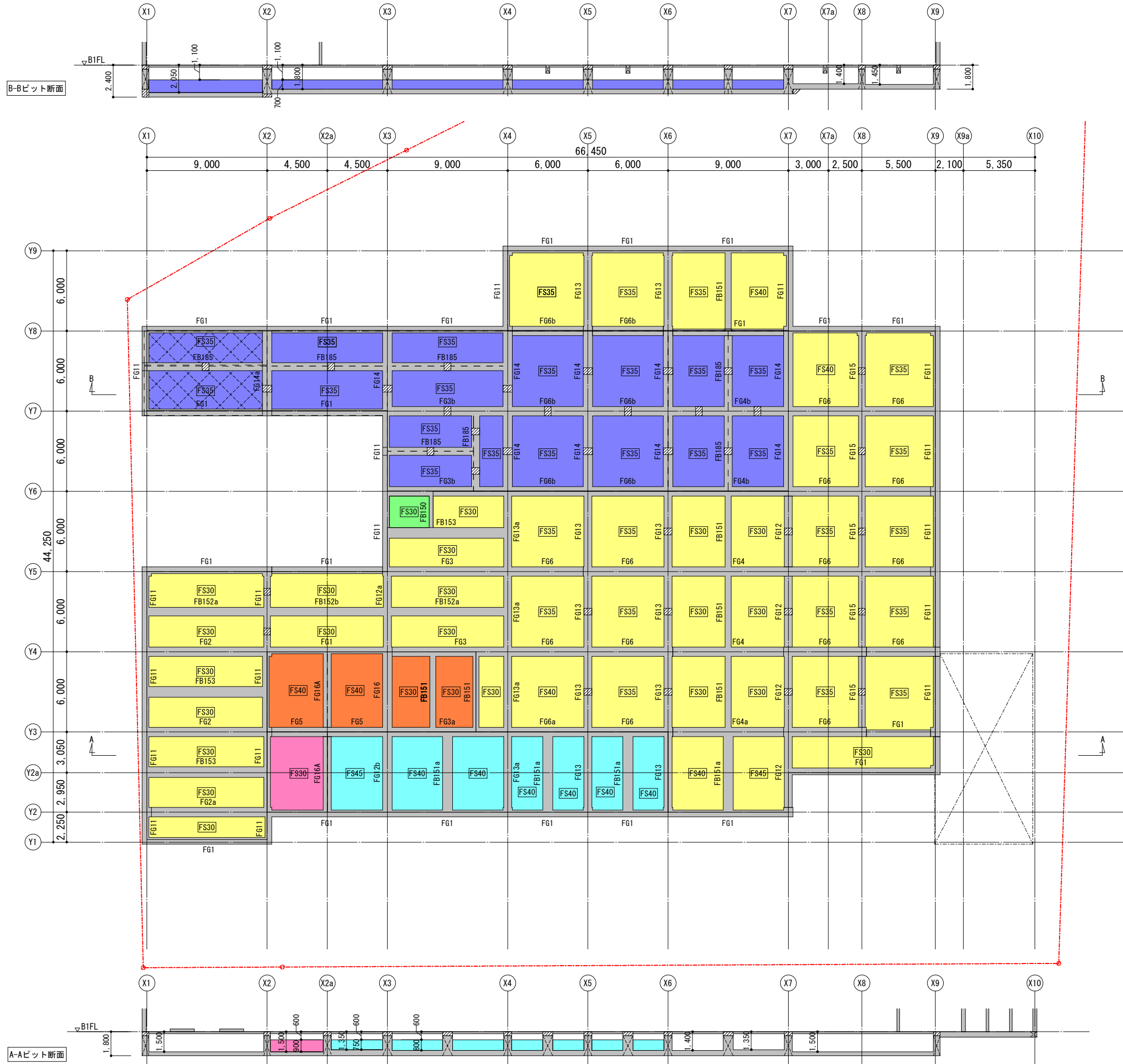


ボーリング柱状図



工事名称	与那国町庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字と那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	土質柱状図	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(建築)登録第144-31号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-005	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(建築)登録第144-31号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一等建築士 (大田)登録第194888号 一等建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺



B-Bピット断面

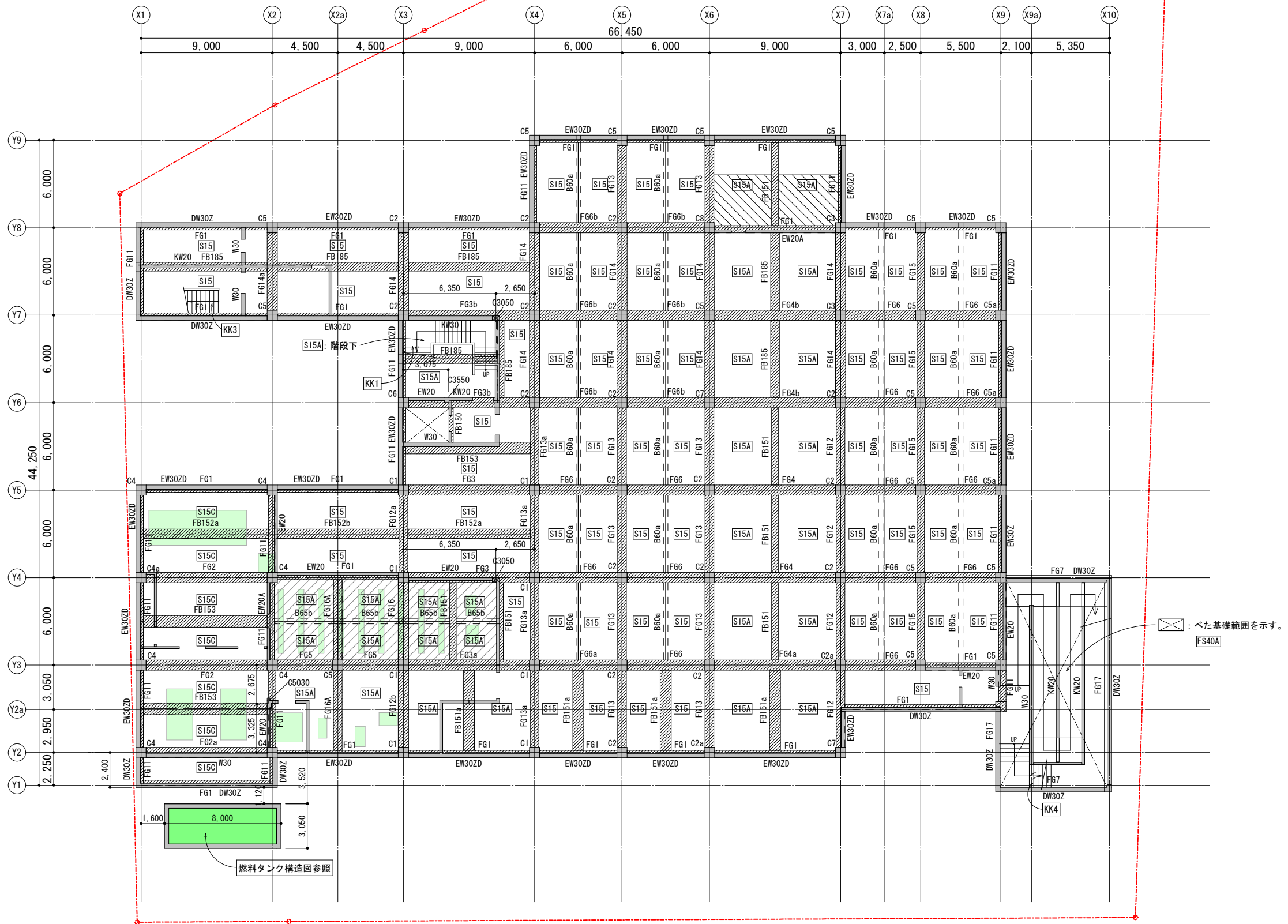
A-Aピット断面

- 特記なき限り下記による。
- 1) はRC躯体を示す。
 - 2) 基礎形式は「べた基礎」とする。
 - 3) 梁貫通は100φ以上の径は補強を施すこと。
 - 4) は人通孔(500φ)を示す。
- 床レベルは下表を参照する。

ピット種類	ピット天端	備考
配管ピット	FL-1350, 1400, -1450, -1500	
汚水ピット	FL-2050, -1800	水深：0.9mの重量を想定
消火水槽	FL-1500	水深：0.9mの重量を想定
中水槽	FL-1350, 1400	水深：0.9mの重量を想定
湧水槽	FL-1400, -1500	水深：0.9mの重量を想定
EVピット	FL-1500	

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度	
工事場所	与那国町字与那国854番地1	設 計 者	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同体
発注機関	与那国町 総務課		資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	ピット伏図		登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第184-71号
縮尺	S-1/150(1/300)		資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-006		登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第184-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正	
検印	管理建築士 設計 製図		登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第184-71号
			所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
			電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺



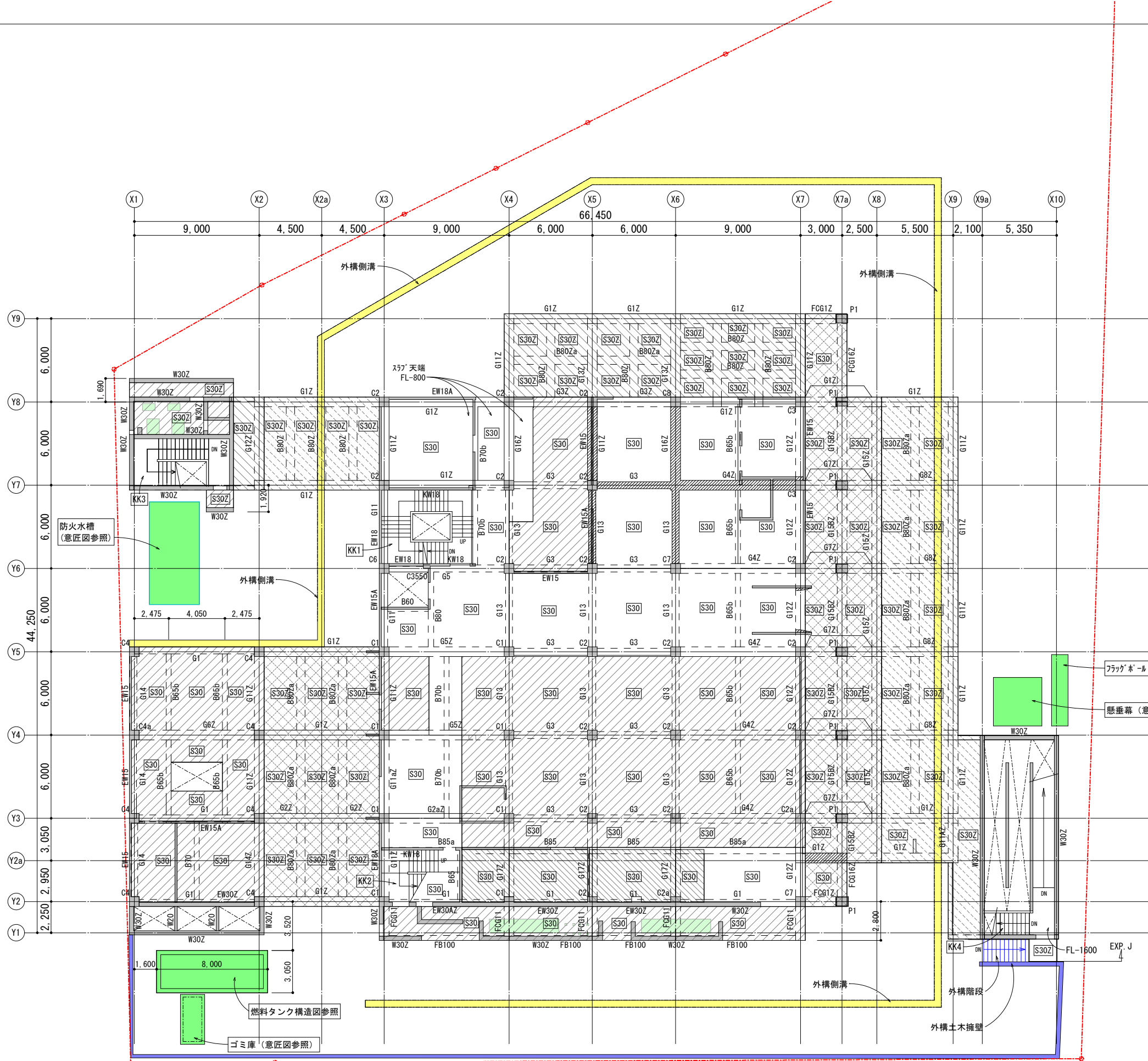
- 特記なき限り下記による。
- 1) はRC躯体を示す。
 - 2) 壁は「W20」とする。
 - 3) 床は「S15」とする。
 - 4) は機械基礎位置を示す。
 - 5) は増打ちを示す。
 - 6) は床開口を示す。

床レベルは下表を参照する。

FL-10
FL-100
FL-250

工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	B1階梁伏図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(国専)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-007	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(国専)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(国専)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺



- 特記なき限り下記による。
- 1) はRC躯体を示す。
 - 2) 壁は「W15」とする。
 - 3) は機械基礎位置を示す。
 - 4) は増打ちを示す。
 - 5) は床開口を示す。
 - 6) スロープ内スラブ符号は「S15」とする。
 - 7) 外構階段、外構側溝、外構土木擁壁は土木図面参照とする。

床レベルは下表を参照する。

	FL-10
	FL-30
	FL-100
	FL-300
	FL-400
	FL-800

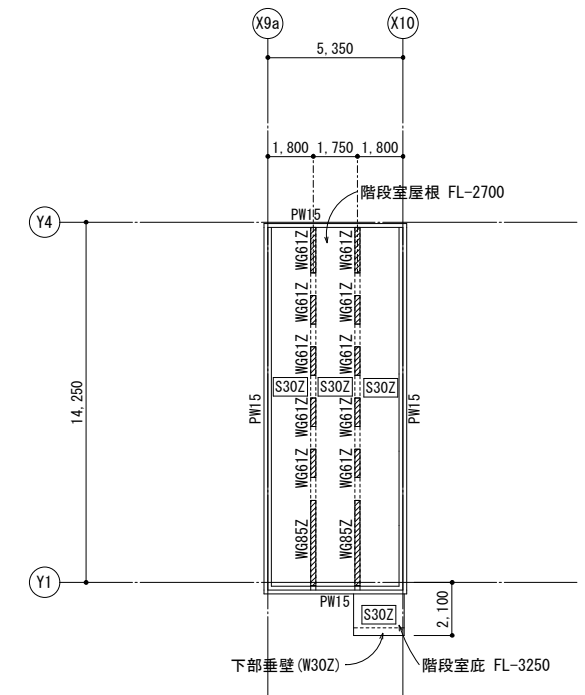
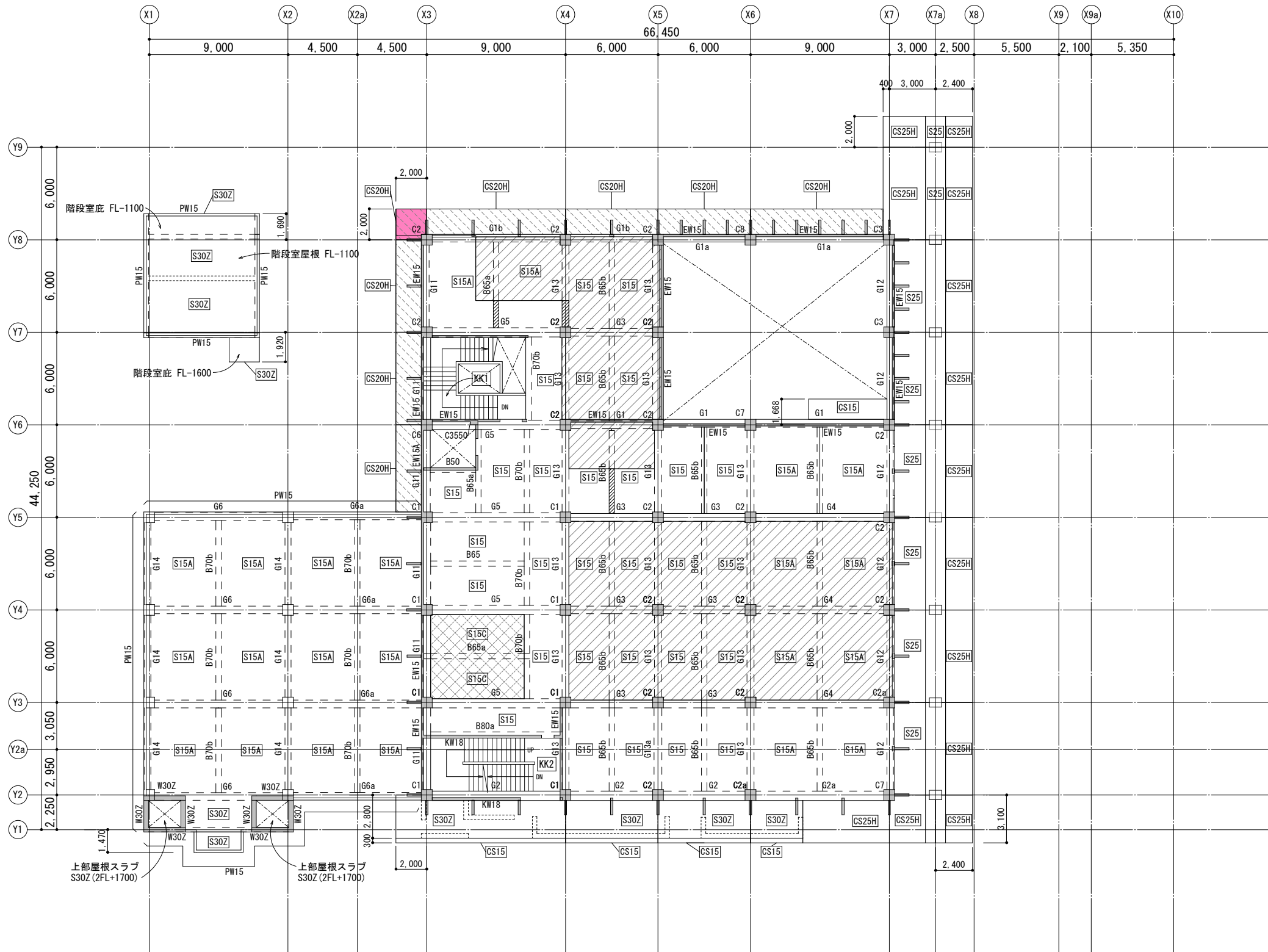
工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同体
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	1階梁伏図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-008	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-182号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

- 特記なき限り下記による。
- 1) はRC躯体を示す。
 - 2) 壁は「W15」とする。
 - 3) は増打ちを示す。
 - 4) は床開口を示す。
 - 5) は出隅補強位置を示す。

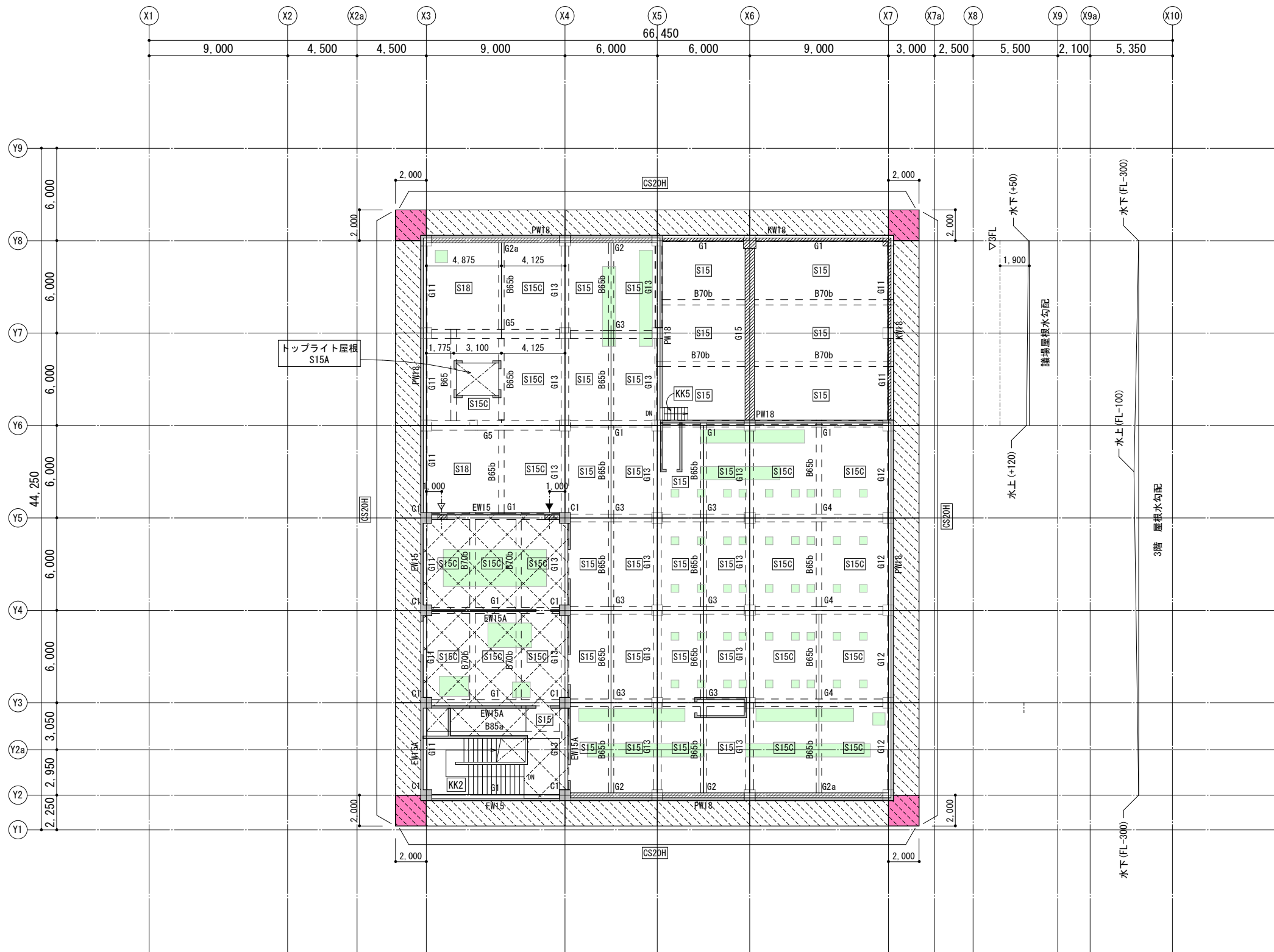
床レベルは下表を参照する。

	FL-10
	FL-100
	FL-300
	FL-900



工事名称	与那国町複合庁舎 及び 特定風致軽減施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地 1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	2階梁伏図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-009	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺



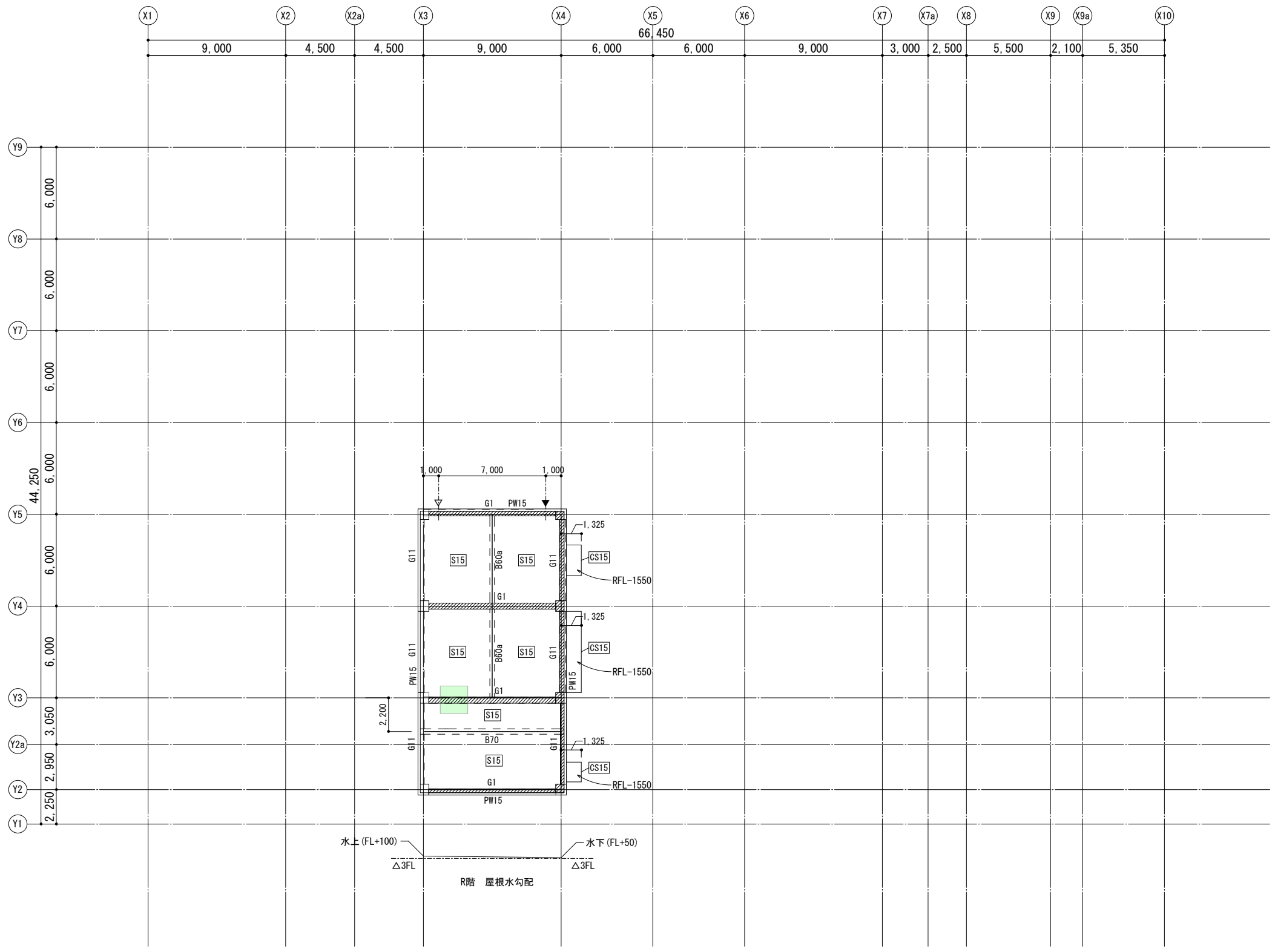
- 特記なき限り下記による。
- 1) [Symbol] はRC躯体を示す。
 - 2) 壁は「W15」とする。
 - 3) [Symbol] は機械基礎位置を示す。
 - 4) [Symbol] は増打ちを示す。
 - 5) [Symbol] は床開口を示す。
 - 6) 屋外スラブは水勾配に勾配スラブとする。
 - 7) [Symbol] スラブ出隅補強位置を示す。
 - 8) ハト小屋配筋要領は鉄筋コンクリート構造配筋標準図(9)を参照とする。
 - 9) ハト小屋屋根スラブは「S15」とする。
 - 10) 機械基礎配筋要領は鉄筋コンクリート構造配筋標準図(9)を参照とする。
 - 11) ▼：防災無線7m支柱位置とする。(想定)
 - 12) ▽：県情報通信7m支柱位置とする。(想定)

床レベルは下表を参照する。

[Symbol]	FL-10
[Symbol]	FL-1100
[Symbol]	
[Symbol]	
[Symbol]	
[Symbol]	
[Symbol]	
[Symbol]	
[Symbol]	
[Symbol]	

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	3階梁伏図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-010	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

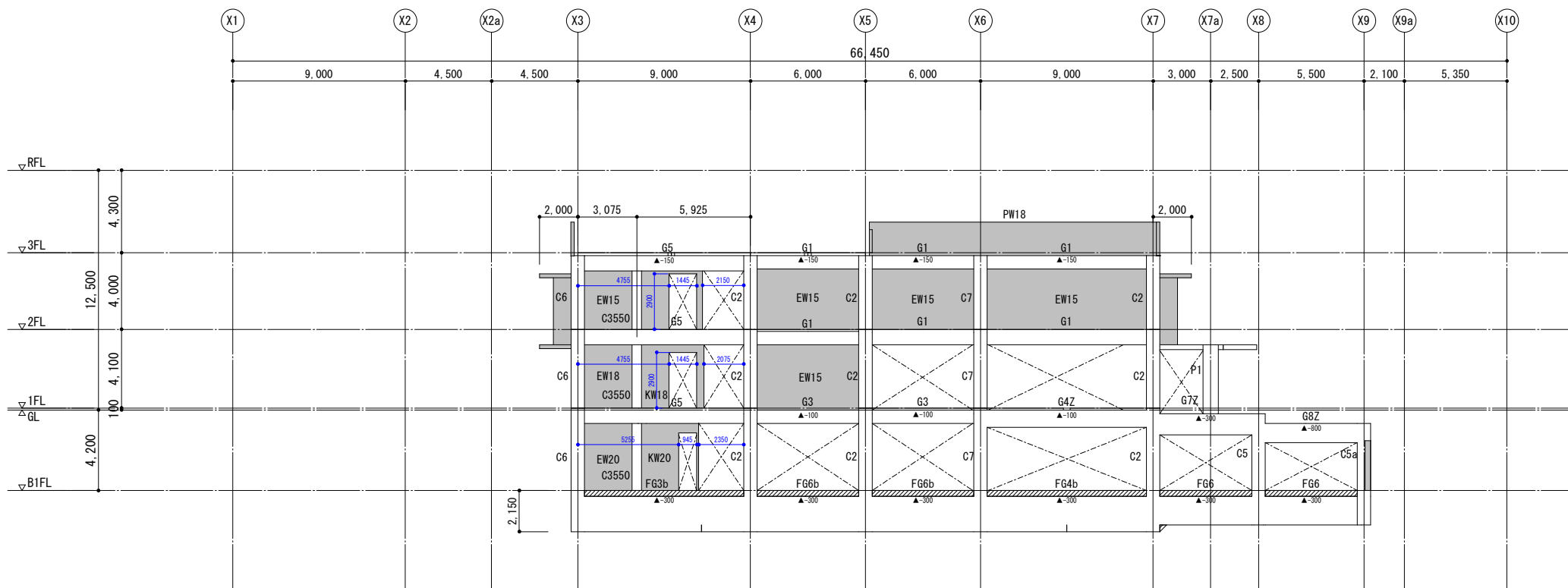


R階梁伏図 1 : 150

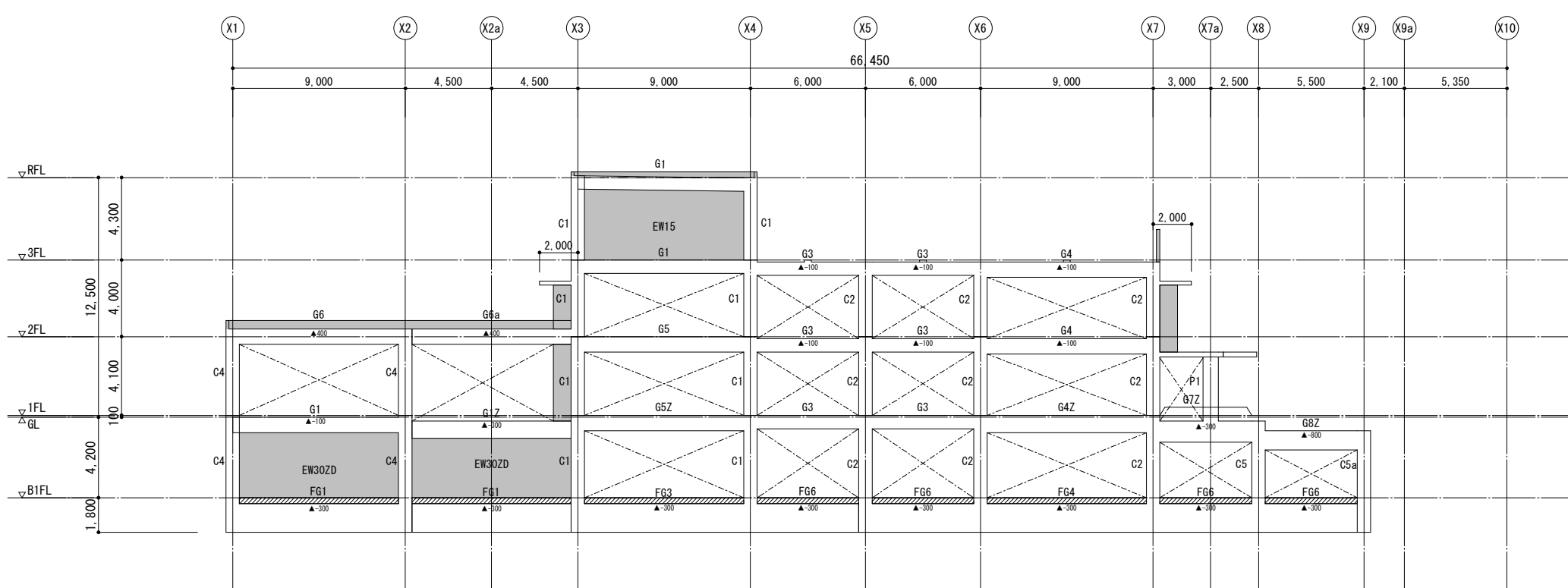
- 特記なき限り下記による。
- 1) は増打ちを示す。
 - 2) は機械基礎位置を示す。
 - 3) 小梁位置は均等割りとする。
 - 4) ▼ : 防災無線7m桁支柱位置とする。(想定)
 - 5) ▽ : 県情報通信7m桁支柱位置とする。(想定)

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	R階梁伏図	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-011	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一等建築士 (大田)登録第194989号 一等建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺



Y6通り軸組図 1 : 150

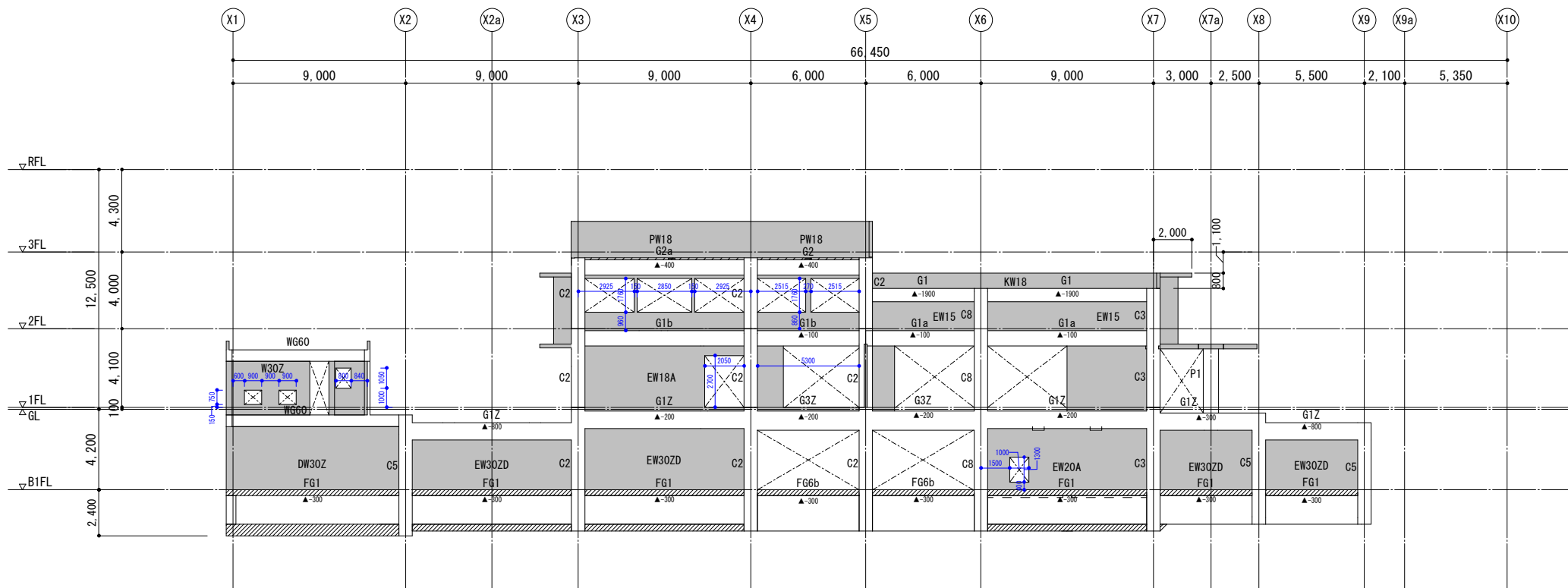


Y5通り軸組図 1 : 150

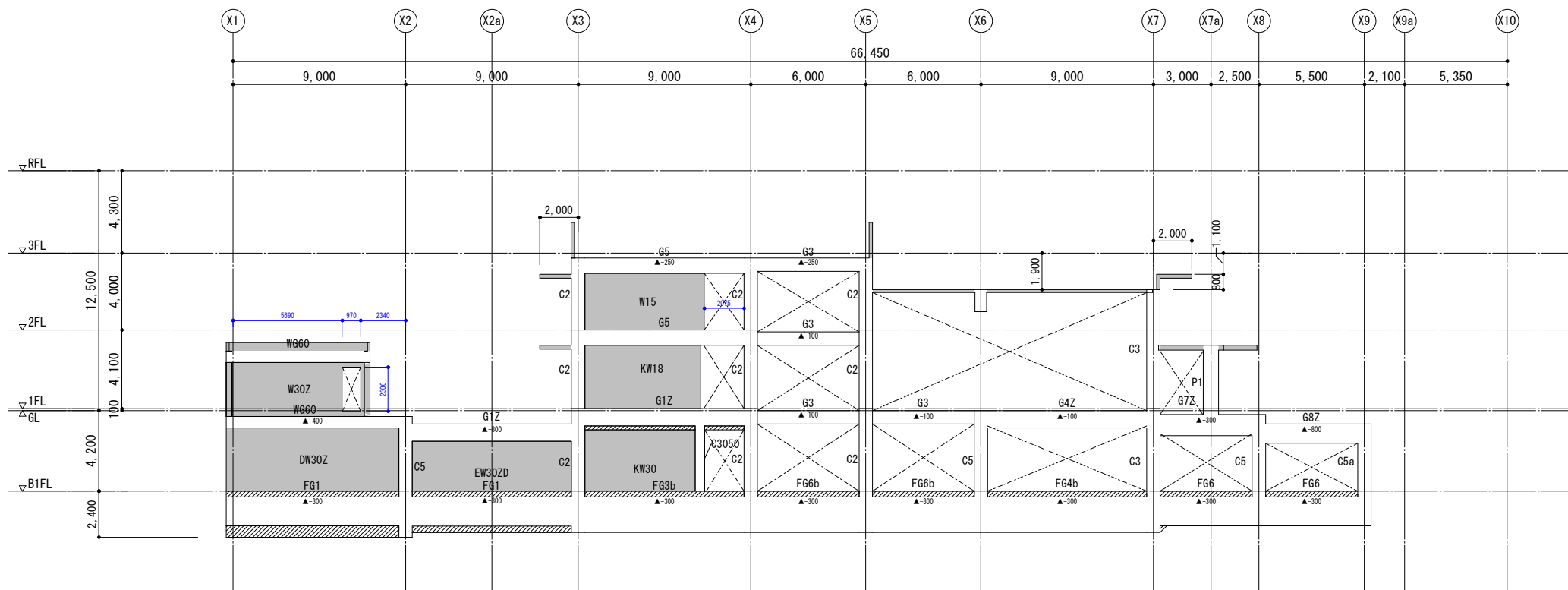
特記なき限り下記による。
 1) 設計GLはEL+24.3とする。
 2) 壁は「W15」とする。
 3) 斜線は増打ちを示す。

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	軸組図(3)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-014	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺



Y8通り軸組図 1 : 150

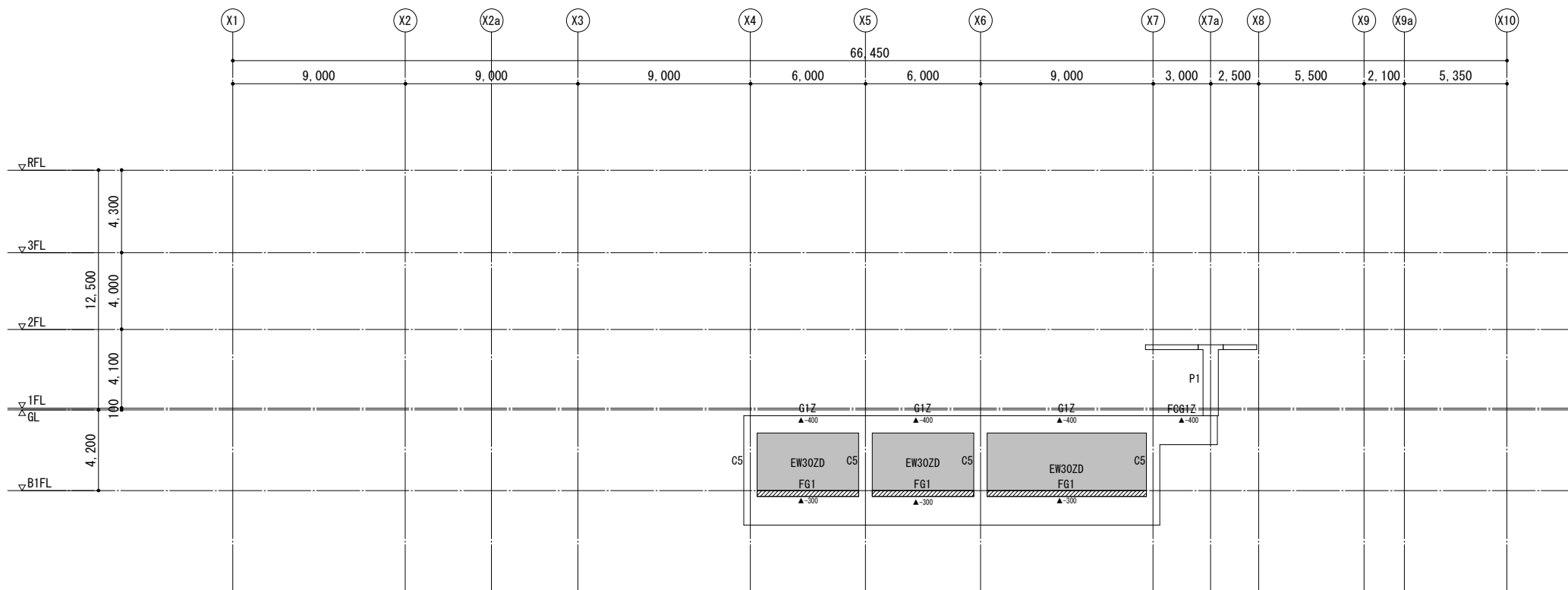


Y7通り軸組図 1 : 150

特記なき限り下記による。
 1) 設計GLはEL+24.3とする。
 2) 壁は「W15」とする。
 3) 斜線は増打ちを示す。

工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	軸組図(4)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-015	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

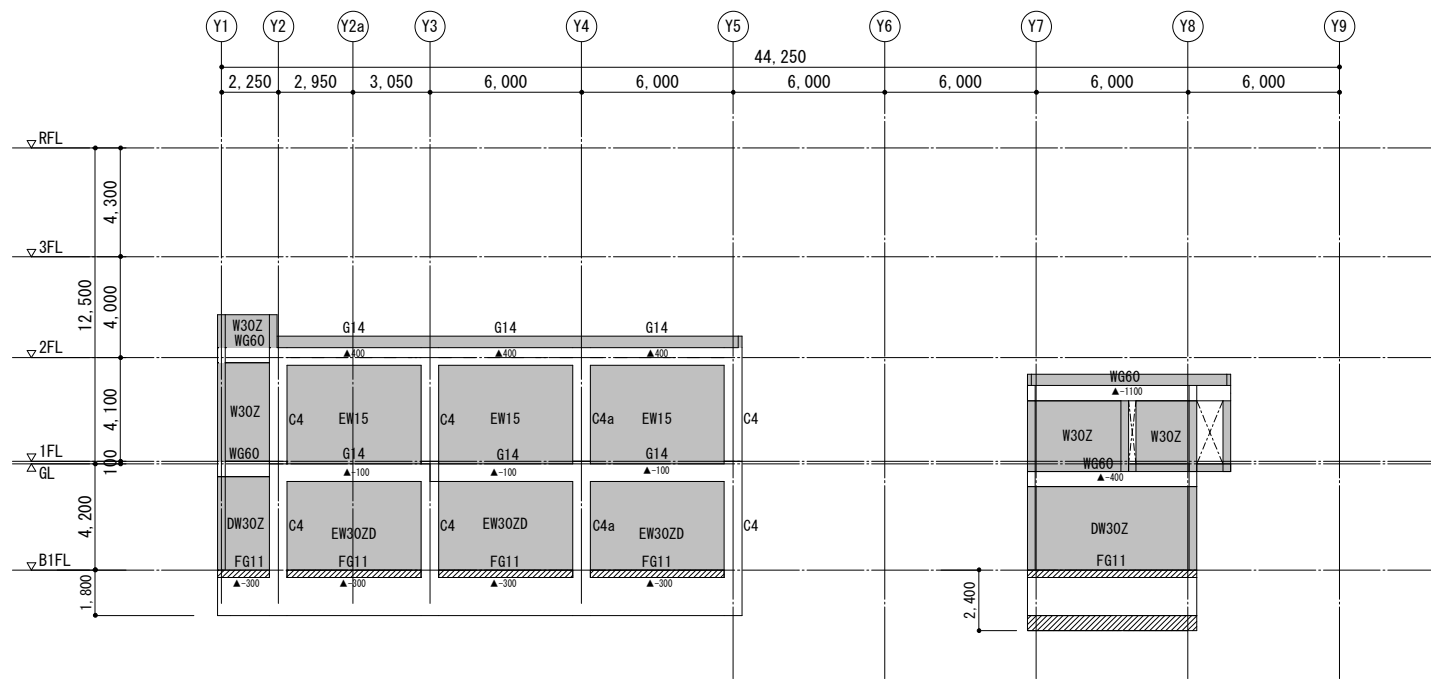


Y9通り軸組図 1 : 150

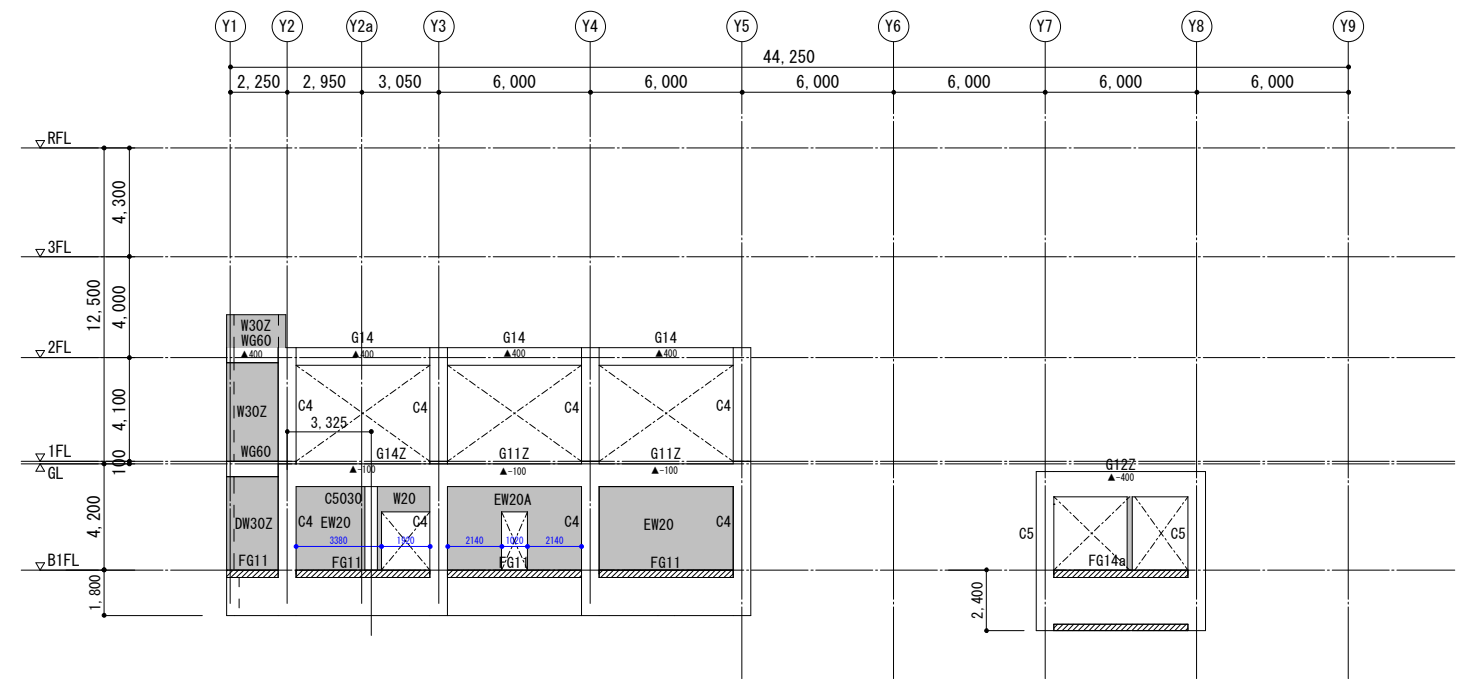
特記なき限り下記による。
 1) 設計GLはEL+24.3とする。
 2) 壁は「W15」とする。
 3) は増打ちを示す。

工事名称	与那国町庁舎及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同体
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	軸組図(5)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士専任所(建築)登録第144-71号
縮尺	S=1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-016	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士専任所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士専任所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

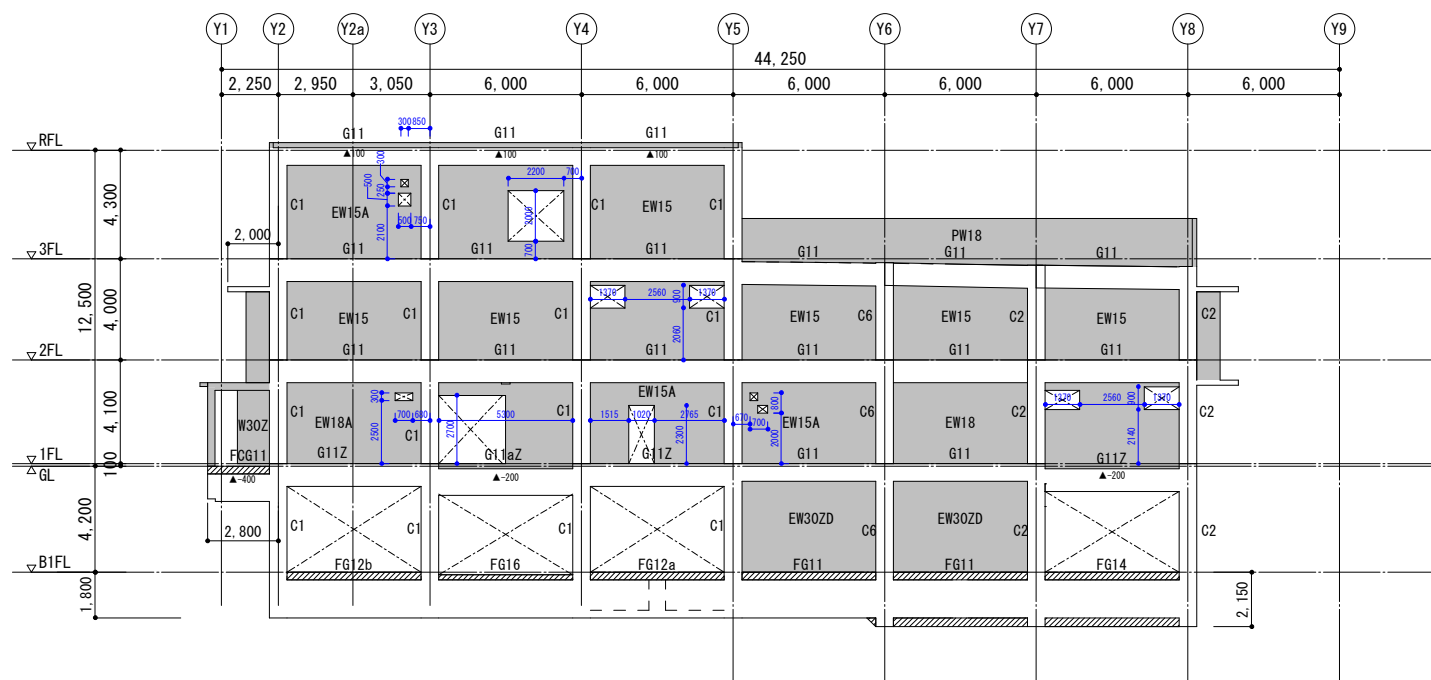
※()はA3版の縮尺



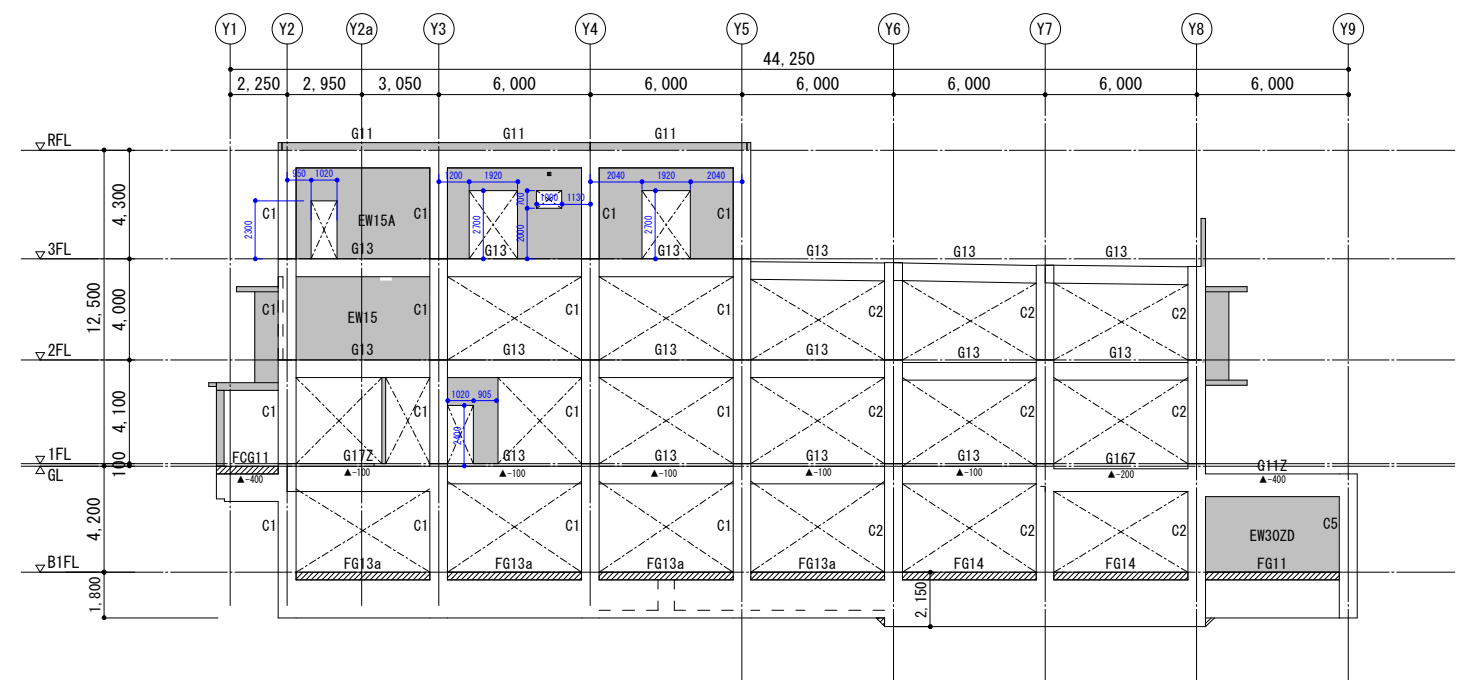
X1通り軸組図 1 : 150



X2通り軸組図 1 : 150



X3通り軸組図 1 : 150

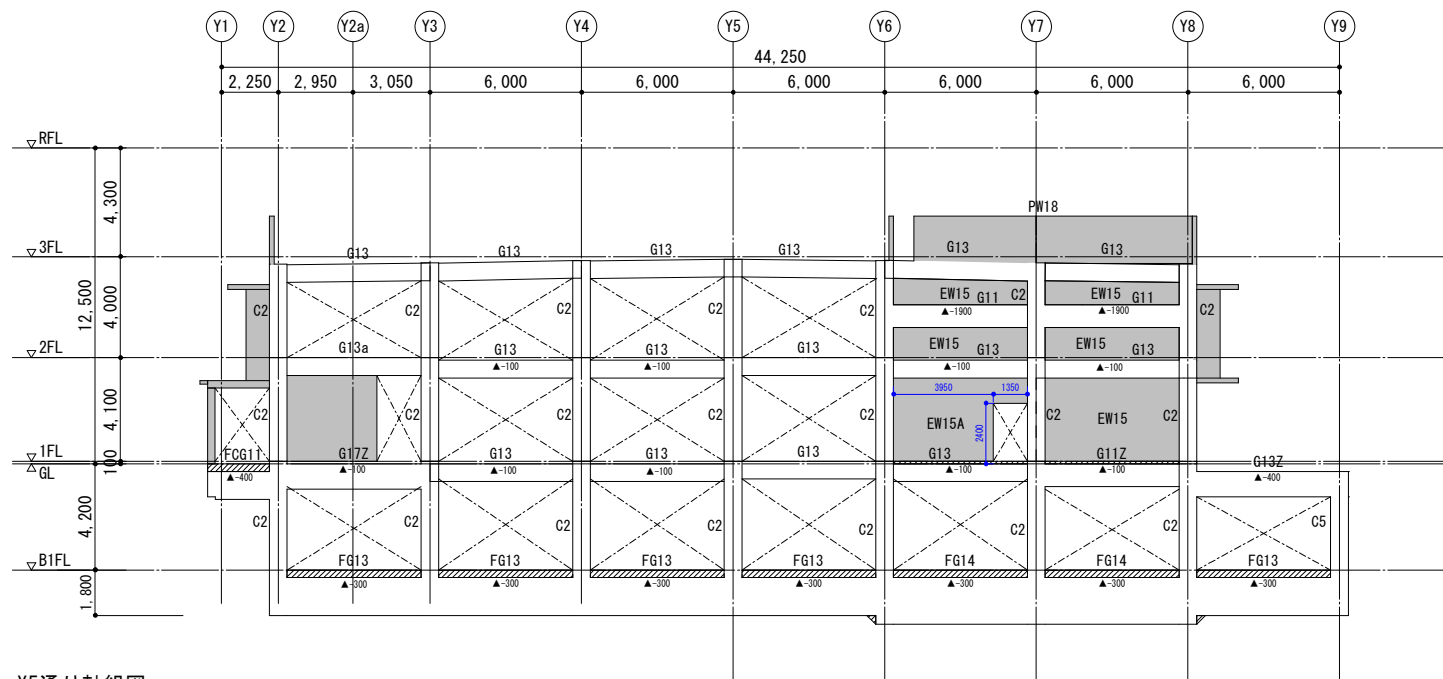


X4通り軸組図 1 : 150

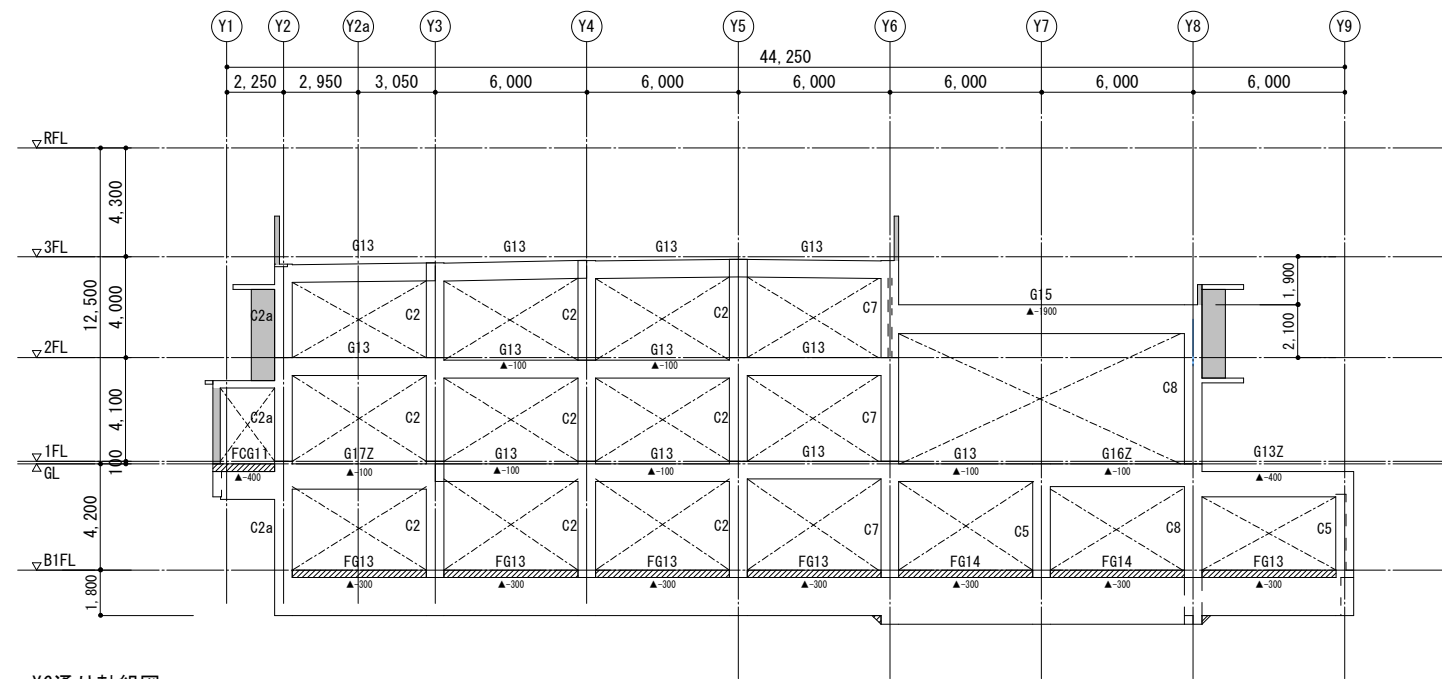
特記なき限り下記による。
 1) 設計GLはEL+24.3とする。
 2) 壁は「W15」とする。
 3) は増打ちを示す。

工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	軸組図(6)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(総務)登録第144-71号
縮尺	S=1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-017	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(総務)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(総務)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

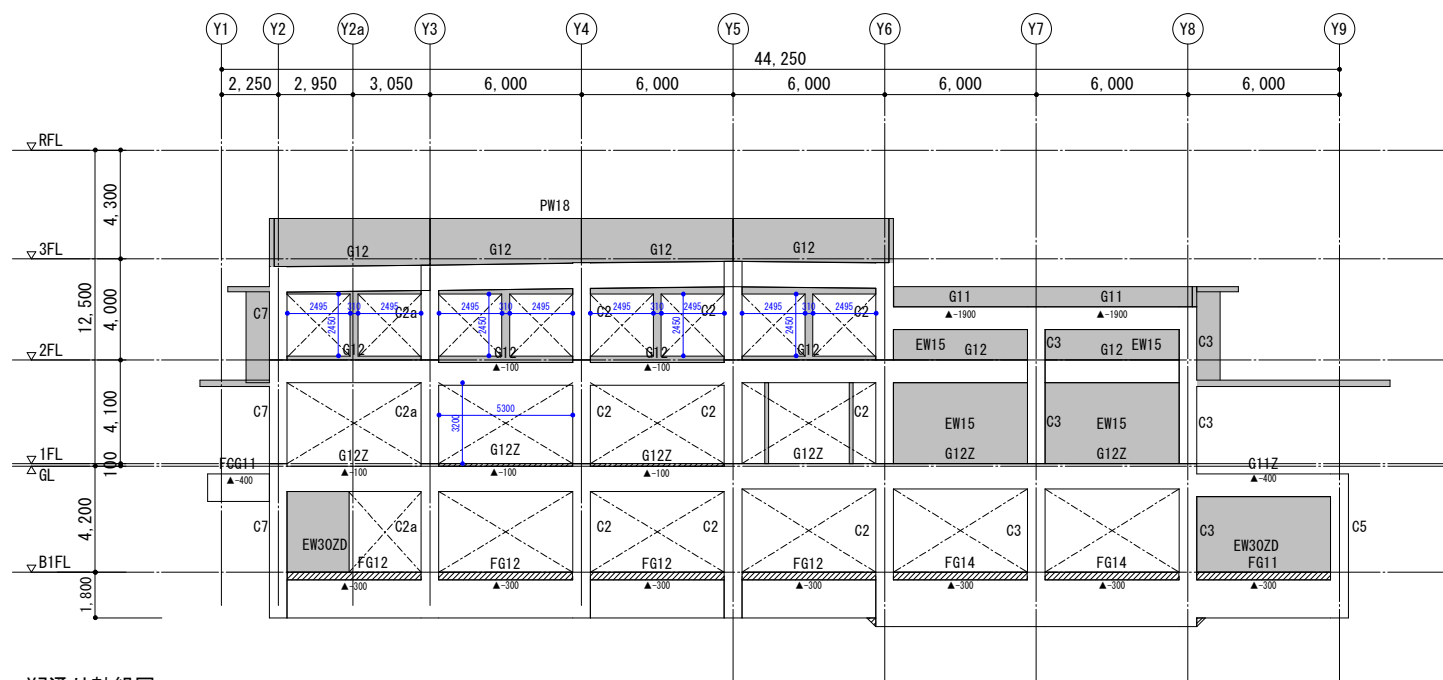
※()はA3版の縮尺



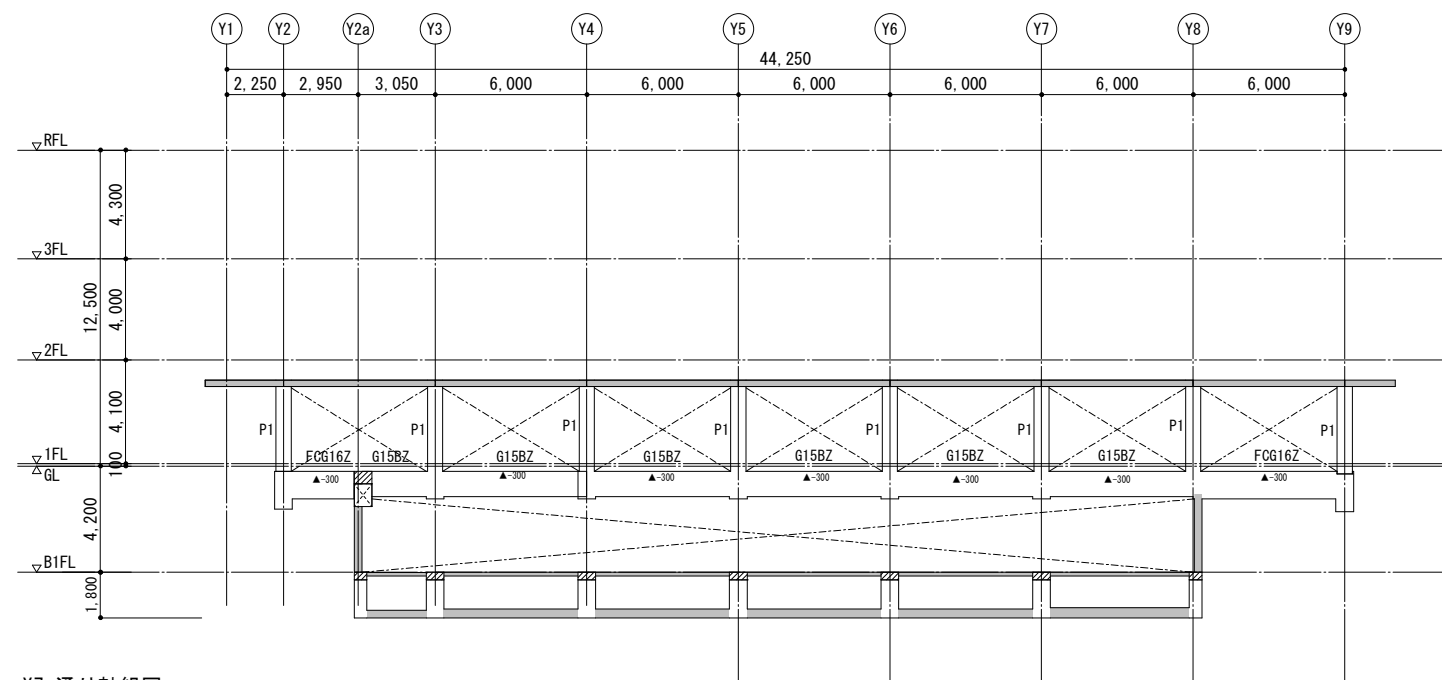
X5通り軸組図 1 : 150



X6通り軸組図 1 : 150



X7通り軸組図 1 : 150

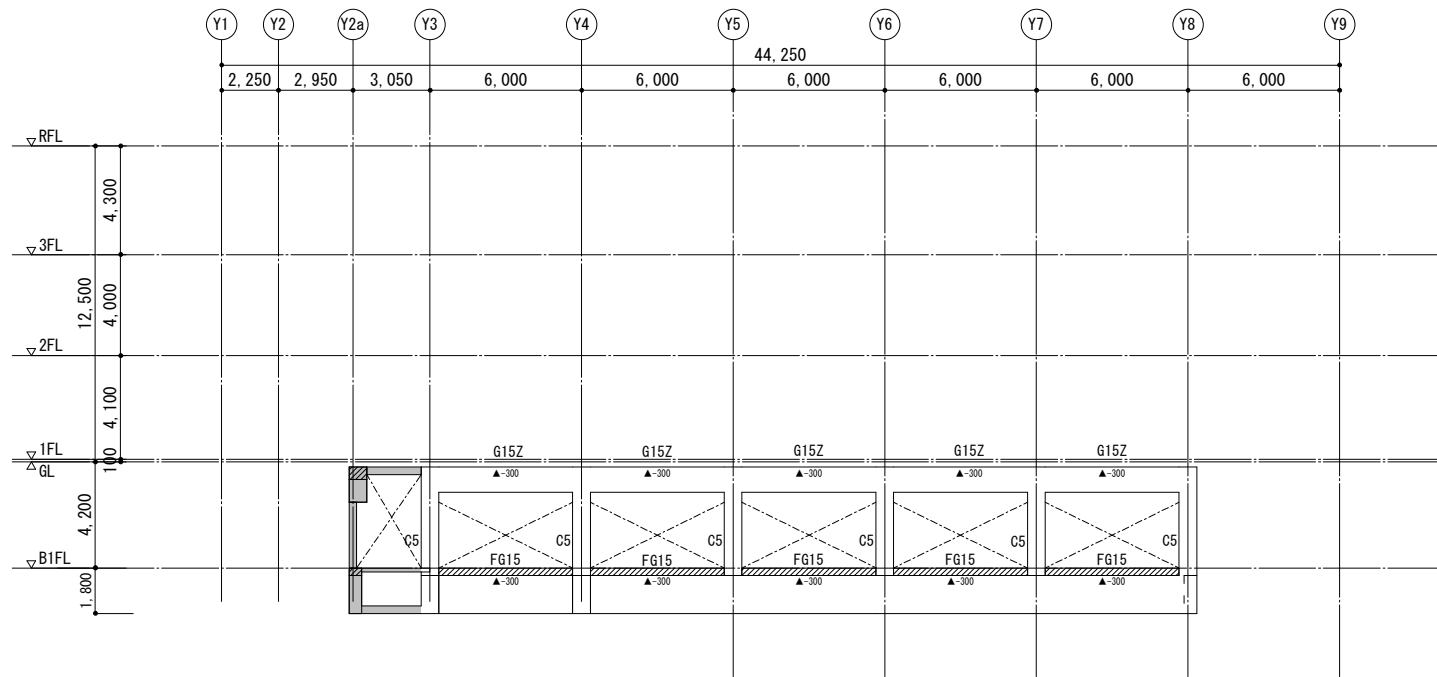


X7a通り軸組図 1 : 150

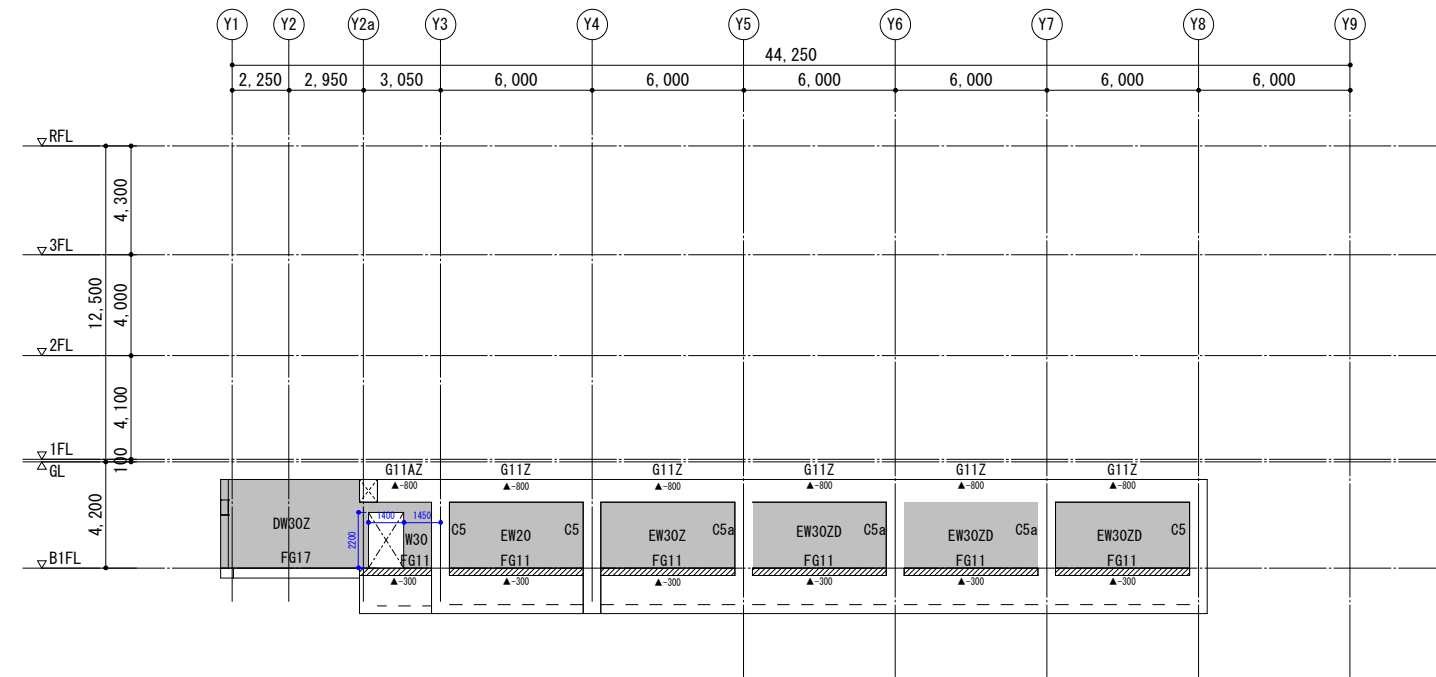
特記なき限り下記による。
 1) 設計GLはEL+24.3とする。
 2) 壁は「W15」とする。
 3) は増打ちを示す。

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同体
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	軸組図(7)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S-1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-018	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

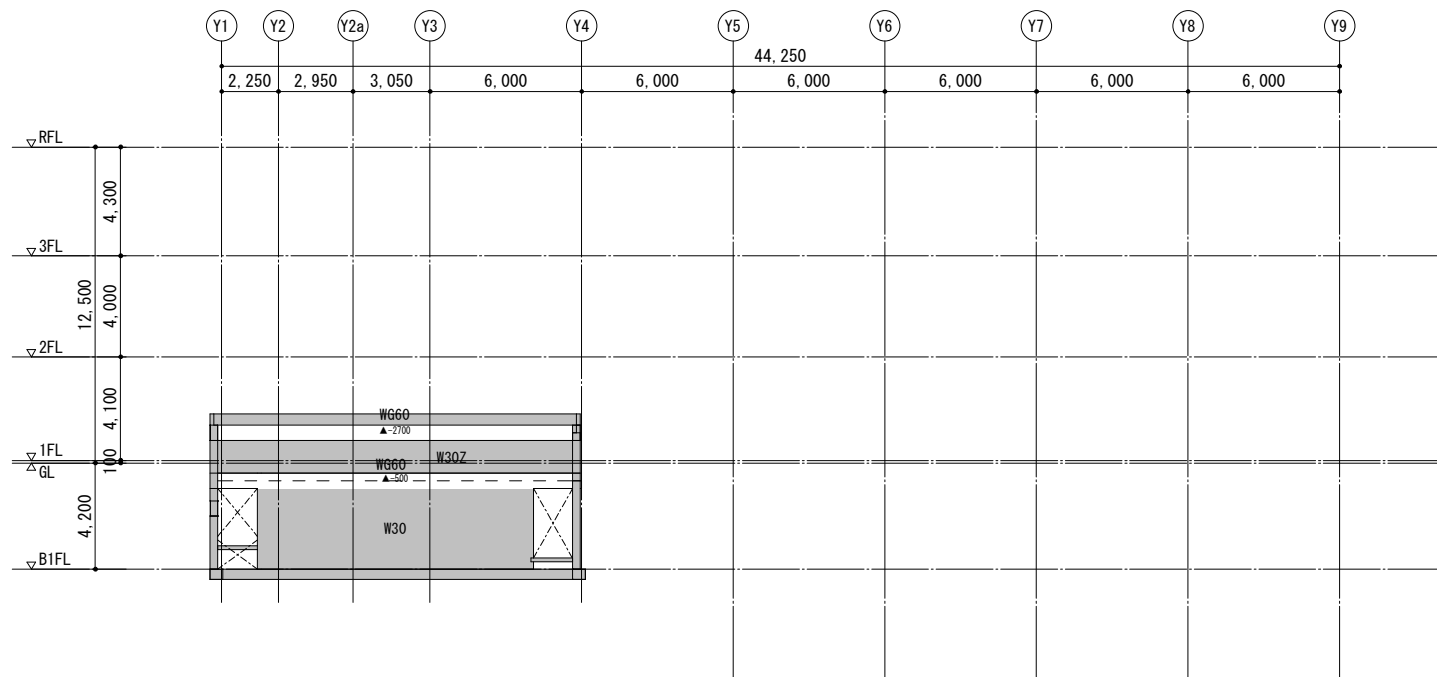
※()はA3版の縮尺



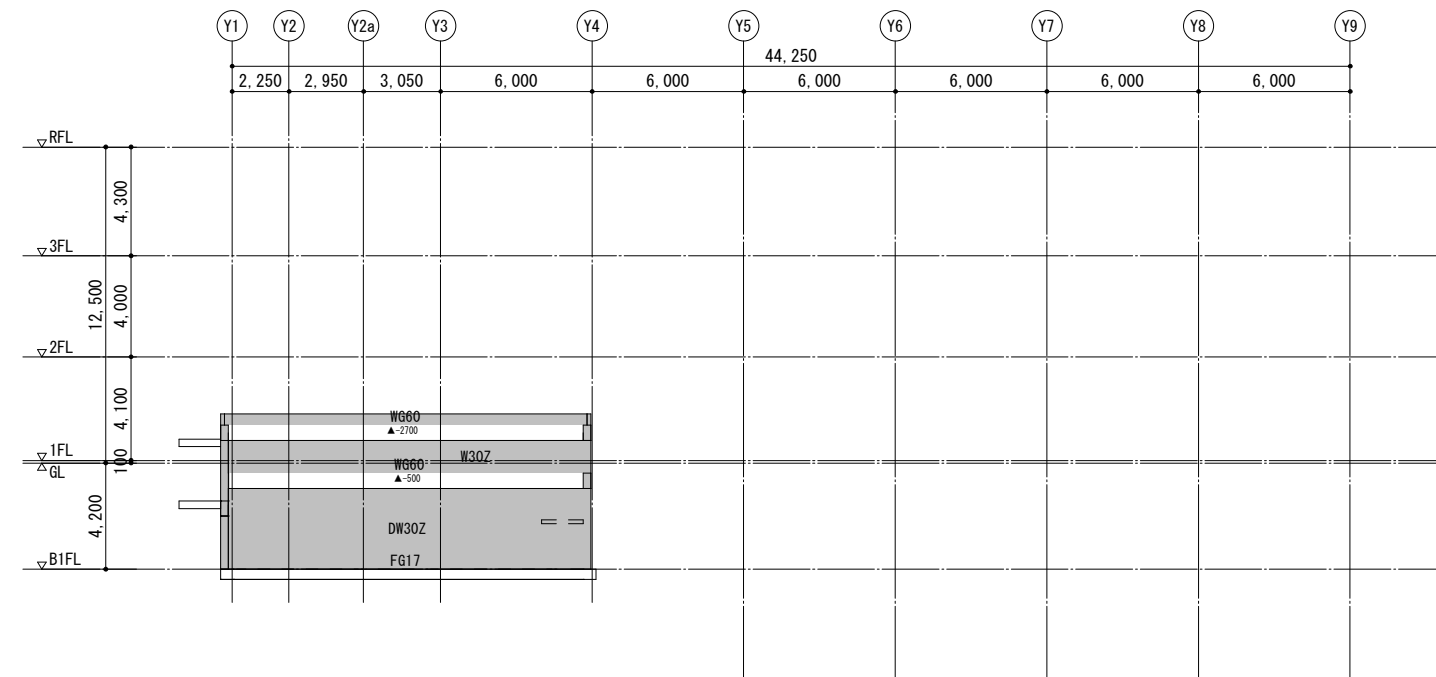
X8通り軸組図 1 : 150



X9通り軸組図 1 : 150



X9a通り軸組図 1 : 150



X10通り軸組図 1 : 150

特記なき限り下記による。
 1) 設計GLはEL+24.3とする。
 2) 壁は「W15」とする。
 3) 斜線は増打ちを示す。

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	軸組図(8)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(国庫)登録第144-71号
縮尺	S=1/150(1/300)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-019	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(国庫)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(国庫)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

基礎大梁断面リスト

S=1/50

捨てコン厚さ：50mm ※良好な砂礫層の場合、砂利地業60mmは省略して良い。

符号	F61	F62	F62a	F63	F63a	F63b	F64	F64a	F64b	F65
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面
断面										
B x D	500x1500	700x1500	700x1500	700x1500	700x1500	700x1850	700x1500	700x1500	700x1850	700x1500
上端筋	4-D25	8-D25	8-D25	8-D25	12-D25	8-D25	9-D25	9-D25	9-D25	10-D25
腹筋	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	8-D13	6-D13	6-D13	8-D13	6-D13
下端筋	4-D25	8-D25	16-D25	8-D25	12-D25	8-D25	9-D25	9-D25	9-D25	10-D25
あばら筋	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200
備考										
符号	F66	F66a	F66b	F67	F611	F612	F612a	F612b	F613	F613a
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面										
B x D	700x1500	700x1500	700x1850	500x400	500x1500	600x1500	600x1500	700x1500	600x1500	600x1500
上端筋	8-D25	6-D25	9-D25	4-D25	4-D25	7-D25	12-D25	14-D25	7-D25	10-D25
腹筋	6-D13	6-D13	8-D13	-	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13	6-D13
下端筋	8-D25	12-D25	4-D25	4-D25	9-D25	7-D25	12-D25	14-D25	7-D25	10-D25
あばら筋	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	2-D13 #125	3-D13 #200	3-D13 #200	3-D13 #200	4-D13 #100	3-D13 #200	3-D13 #200
備考										
符号	F614	F614a	F615	F616	F616A	F617				
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面				
断面										
B x D	700x1850	700x1850	500x1500	700x1500	600x1500	500x400				
上端筋	10-D25	12-D25	6-D25	13-D25	7-D25	4-D25				
腹筋	8-D13	8-D13	6-D13	4-D13	4-D13	-				
下端筋	10-D25	10-D25	6-D25	13-D25	7-D25	4-D25				
あばら筋	3-D13 #200	3-D13 #200	2-D13 #150	4-D13 #150	4-D13 #150	2-D13 #125				
備考										

共通事項

特記なき限り下記による。

(1) 使用材料
 鉄筋 D10~D16 : SD295
 D19~D25 : SD345
 D29~D35 : SD390
 D35~D51 : SD490

(2) 凡例

(3) 大梁主筋位置配筋要領図

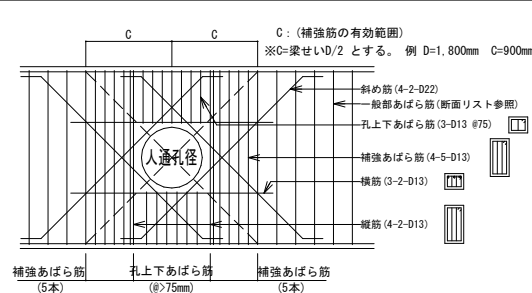
(4) リストの位置における外端、内端の区分は下図の要領とする。

(5) カットオフ長さ

※各鉄筋径・本数・間隔等はリストを参照とする。
 幅止筋はD10 #1,000とする。

※本工事は、主筋の方向は特別指定はしない事とする。

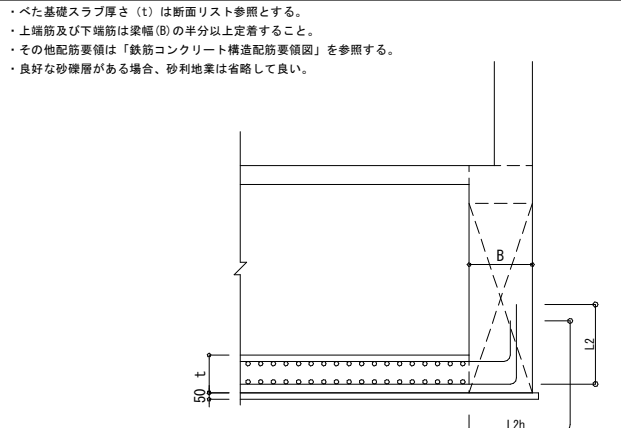
人通孔補強要領図 S=1/30



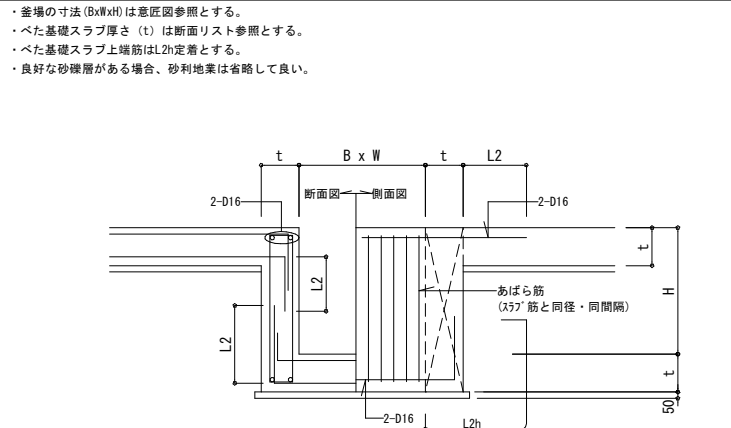
符号	人通孔径	斜め筋	縦筋	補強あばら筋	孔上下あばら筋	横筋
(例)	600φ	4-2-D22	4-2-D13	4-5-D13	3-D13 #75	3-2-D13
F611	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
F612	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
F613	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
F614	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
F615	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
F63b	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
F64b	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
F66b	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
FB185	500φ	4-2-D25	2-2-D13	2-2-D13	2-D13 #100	2-2-D13
凡例						
斜め筋	4-2-D22	4本のD22が2面入ることを示す。				
縦筋	4-2-D13	4本のD13があばら筋状に孔の両側(2箇所)にそれぞれ入ることを示す。				
孔上下あばら筋	3-D13 #75	孔の上下の部分にそれぞれ3本のD13があばら筋状に75mm間隔で入ることを示す。				
補強あばら筋	4-5-D13	4本のD13があばら筋状に補強筋の有効範囲(C)まで(5本)入ることを示す。				
横筋	3-2-D13	孔の上下の部分(2箇所)にそれぞれD13の軸方向筋が3本入ることを示す。				

※ 一般あばら筋は地中梁・大梁断面リスト参照とする。

べた基礎配筋要領 S=1/30



釜場配筋要領図 S=1/30



工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度	
工事場所	与那国町字 与那国854番地 1	設 計 者	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課		資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	基礎梁断面リスト		登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S=1/50(1/100)		資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-020		登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正	
検印	管理建築士 設計 製図	所在地	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号 那覇市久茂地1丁目2番20号	
		電話番号	098-862-1106	

※()はA3版の縮尺

柱断面リスト S=1/50

階	符号	C1	C2	C2a	C3	C4	C4a	C5	C5a	C6	C7	C8	C3050	C3550	C5030	P1	共通事項
3階	断面																特記なき限り下記による。 (1) 使用材料 鉄筋 D10~D16 : SD295 D19~D25 : SD345 D29~D35 : SD390 D35~D51 : SD490 帯筋 Sは高強度せん断補強筋 (大臣認定品)を示す。 降伏点強度 : 635N/mm ² 降伏点強度 : 785N/mm ² (2) 凡例 主筋 Y方向鉄筋 X方向鉄筋 Y方向 X方向 Y方向鉄筋 X方向鉄筋 Y方向 X方向 寄せ筋 : 最小鉄筋間隔を示す。 (3) 帯筋 リスト内表記例 2-3-D10 #100 Y方向 X方向
	B x D	700x700															
	主筋	12-D22															
	帯筋	2-2-D13 #100															
2階	断面																
	B x D	700x700	700x700	700x700	700x700					700x700	700x700			600x350			
	主筋	12-D22	12-D22	20-D22	12-D22					20-D22	24-D22			12-D16			
	帯筋	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100					2-2-D13 #100	2-2-D13 #100			2-2-D10 #100			
1階	断面																
	B x D	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700			700x700	700x700	700x700		600x350		800x600	
	主筋	12-D22	12-D22	20-D22	12-D22	12-D22	22-D22			20-D22	24-D22	30-D25		12-D16		14-D19	
	帯筋	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100			2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100		2-2-D10 #100		2-2-D13 #100	
B1階	断面																
	B x D	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	700x700	500x300	600x350	300x500		
	主筋	12-D22	12-D22	20-D22	12-D22	12-D22	22-D22	12-D22	14-D22	20-D22	24-D22	30-D25	12-D16	12-D16	8-D16		
	帯筋	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D13 #100	2-2-D10 #100	2-2-D10 #100	2-2-D10 #100		

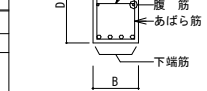
工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同体
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	柱断面リスト	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S=1/50(1/100)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-021	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

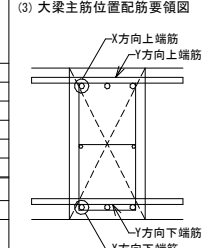
大梁断面リスト S=1/50

階	符号	G1	G3	G5			G11	G13	G14											
階	位置	全断面	全断面	外端	中央	内端	全断面	全断面	全断面											
1階	断面																			
	B x D	500x800	500x700	600x800			500x700	500x700	500x700											
	上端筋	4-D25	6-D25	5-D25	5-D25	10-D25	4-D25	4-D25	4-D25											
	腹筋	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10	2-D10	2-D10											
	下端筋	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25											
	あばら筋	2-D13 #200	2-D13 #200	3-D13 #200			2-D13 #150	2-D13 #200	2-D13 #150											
備考																				
1階	符号	G1Z	G2Z	G2aZ			G3Z	G4Z			G5Z			G6Z			G7Z	G8Z		
	位置	全断面	全断面	全断面			全断面	外端	中央	内端	X3端	中央	他端	外端	中央	内端	全断面	全断面		
	断面																			
	B x D	700x900	700x950	700x800			700x1000	700x900			700x900			700x900			700x1100	700x1100		
	上端筋	6-D25	11-D25	8-D25	11-D25	8-D25	11-D25	8-D25	6-D25	12-D25	10-D25	6-D25	6-D25	8-D25	6-D25	12-D25	11-D29	11-D29		
	腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10		
下端筋	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	8-D29	9-D29			
あばら筋	2-D13 #150	5-D16 #100	2-D13 #150			4-D13 #100	2-D13 #150			2-D13 #150			2-D13 #150			4-D16 #100	4-D16 #100			
備考									LD=2900						LD=2900					
1階	符号	G11Z	G11aZ	G11AZ			G12Z	G13Z			G14Z			G15Z			G15BZ	G16Z	G17Z	OG16Z
	位置	全断面	全断面	全断面			全断面	全断面			全断面			全断面			全断面	全断面	全断面	全断面
	断面																			
	B x D	700x900	700x1050	700x900			700x1000	700x1000			700x900			700x1000			700x900	700x1000		
	上端筋	6-D25	12-D25	6-D25	11-D29	6-D25	6-D25	11-D29	6-D25	9-D25	9-D25	9-D25	9-D25	8-D25	6-D25	8-D25	11-D25	8-D25		
	腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10		
下端筋	6-D25	6-D25	6-D25	8-D29	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25			
あばら筋	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150			2-D13 #150	5-D13 #100			2-D13 #150			4-D13 #100			4-D13 #100	4-D13 #100			
備考																				
1階	符号	FOG1Z	FOG11																	
	位置	全断面	基礎	先端																
	断面																			
	B x D	700x1500	700x1200																	
	上端筋	12-D25	12-D29	6-D29																
	腹筋	8-D13	4-D13																	
下端筋	6-D25	6-D29	6-D29																	
あばら筋	4-D13 #100	2-D13 #150																		
備考																				
階	符号																			
	位置																			
	断面																			
	B x D																			
	上端筋																			
	腹筋																			
下端筋																				
あばら筋																				
備考																				
階	符号																			
	位置																			
	断面																			
	B x D																			
	上端筋																			
	腹筋																			
下端筋																				
あばら筋																				
備考																				

特記なき限り下記による。
 (1) 使用材料
 鉄筋 D10~D16: SD295
 D19~D25: SD345
 D29~D35: SD390
 D35~D51: SD490
 帯筋 Sは高強度せん断補強筋(大臣認定品)を示す。
 降伏点強度: 685N/mm²
 降伏点強度: ※785N/mm²

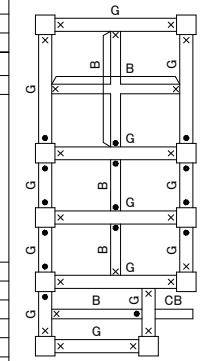


(2) 凡例
 ※各鉄筋径・本数・間隔等はリストを参照とする。
 幅止め筋はD10 #1,000とする。

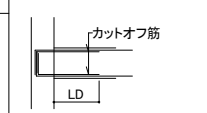


(3) 大梁主筋位置配筋要領図
 ※本工程は、主筋の方向は特別指定はしない事とする。

(4) リストの位置における外端、内端の区分は下図の要領とする。
 ●: 内端 G: 大梁
 ×: 外端 B: 小梁
 ○B: 片持小梁



(5) カットオフ長さ



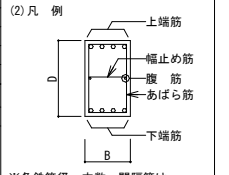
工事名称	与那国町庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同体
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	大梁断面リスト(1)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S=1/50(1/100)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-022	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

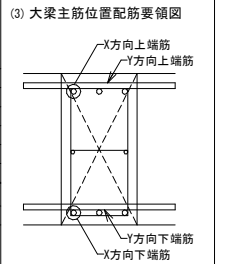
大梁断面リスト S=1/50

階	符号	G1		G11																						
階	位置	全断面		全断面																						
R階	断面																									
	B x D	400x700		400x700																						
	上端筋	4-D22		6-D22																						
	腹筋	2-D10		2-D10																						
	下端筋	4-D22		4-D22																						
	あばら筋	2-D10 #150		2-D10 #150																						
3階	符号	G1	G2			G3			G4			G5	G11	G12	G13	G15										
	位置	全断面	全断面			外端 中央 内端			全断面			全断面	全断面	全断面	端部	中央										
	断面																									
	B x D	400x700	500x850			500x700			500x800			600x800	400x900	400x950	400x700	600x1100										
	上端筋	4-D22	7-D22			8-D22			10-D22 5-D22 7-D22			8-D22	4-D22	4-D22	4-D22	10-D22	5-D22									
	腹筋	2-D10	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10	4-D10	2-D10	4-D10	4-D10										
	下端筋	4-D22	5-D22			5-D22			5-D22			8-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D22	10-D22									
	あばら筋	2-D13 #200	2-D13 #200			2-D13 #200			2-D13 #200			2-D13 #200	2-D13 #150	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #150										
	備考		LD=2800													LD=3800										
	符号	G1	G1a			G1b			G2			G3			G4			G5			G6			G6a		
	位置	全断面	全断面			全断面			全断面			全断面			外端 中央 内端			全断面			X1端 中央 X2端			X2端 中央 X3端		
	断面																									
B x D	500x800	500x800			500x800			600x1200			600x1200			500x800			600x800			500x800			500x800			
上端筋	4-D25	6-D25			6-D25			5-D25			6-D25			7-D25 5-D25 9-D25			7-D25			5-D22 8-D22			8-D22 5-D22 10-D22			
腹筋	2-D10	6-D16			2-D10			6-D10			6-D10			2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			
下端筋	4-D25	6-D25			6-D25			5-D25			5-D25			5-D25			5-D22 5-D22			5-D22 5-D22			5-D22			
あばら筋	2-D13 #200	4-D13 #150			2-D13 #150			2-D13 #200			2-D13 #200			2-D13 #200			2-D13 #200			2-D13 #150			2-D13 #150			
備考		腹筋は35d以上定着すること												LD=2600						LD=2800						
2階	符号	G11	G12		G13		G13a		G14																	
	位置	全断面	全断面		全断面		全断面		全断面																	
	断面																									
	B x D	500x900	500x900		450x700		450x700		400x700																	
	上端筋	6-D25	6-D25		4-D25		6-D25		6-D22																	
	腹筋	4-D10	4-D10		2-D10		2-D10		2-D10																	
下端筋	6-D25	6-D25		4-D25		4-D25		6-D22																		
あばら筋	2-D13 #150	2-D13 #150		2-D13 #200		2-D13 #200		2-D13 #150																		
1階	符号																									
	位置																									
	断面																									
	B x D																									
	上端筋																									
	腹筋																									
下端筋																										
あばら筋																										
備考																										

特記なき限り下記による。
 (1) 使用材料
 鉄筋 D10~D16 : S225
 D19~D25 : S345
 D29~D35 : S390
 D35~D51 : S490
 帯筋 Sは高強度せん断補強筋(大臣認定品)を示す。
 降伏点強度 : 685N/mm²
 降伏点強度 ※785N/mm²



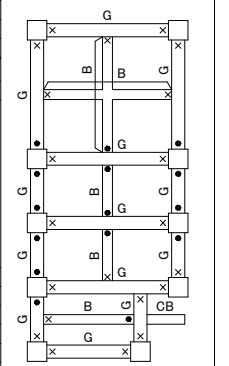
※各鉄筋径・本数・間隔等はリストを参照とする。
 幅止筋はD10 #1,000とする。



※ 本工事は、主筋の方向は特別指定はしない事とする。

(4) リストの位置における外端、内端の区分は下図の要領とする。

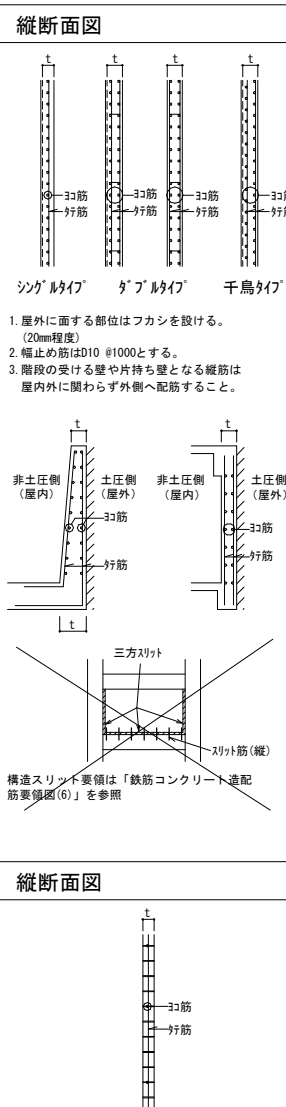
● : 内端 G: 大梁
 × : 外端 B: 小梁
 ○ : 片持小梁



工事名称	与那国町庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同体
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	大梁断面リスト(2)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S=1/50(1/100)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-023	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

スラブリスト					片持ちスラブリスト						
符号	厚さ	位置	主筋方向	配筋方向	備考	符号	厚さ	位置	主筋方向	配筋方向	備考
S15	150	上端筋	D10, D13 @200	D10 @200		CS15	150	上端筋	D10, D13 @200	D10 @200	
		下端筋	D10 @200	D10 @200				下端筋	D10 @200	D10 @200	
S15A	150	上端筋	D10, D13 @150	D10, D13 @150		CS20H	200~150	上端筋	D10, D13 @200	D10 @200	
		下端筋	D10, D13 @150	D10, D13 @150				下端筋	D10 @200	D10 @200	
S15C	150	上端筋	D13 @150	D13 @150	エントランス庇	CS25H	250~150	上端筋	D16 @150	D16 @150	
		下端筋	D13 @150	D13 @150				下端筋	D13 @150	D13 @150	
S18	180	上端筋	D13 @150	D13 @150				上端筋			
		下端筋	D13 @150	D13 @150				下端筋			
S25	250	上端筋	D16 @150	D16 @150	エントランス庇			上端筋			
		下端筋	D13 @150	D13 @150				下端筋			
S30	300	上端筋	D10, D13 @200	D10, D13 @200				上端筋			
		下端筋	D10, D13 @200	D10, D13 @200				下端筋			
S30Z	300	上端筋	D16 @100	D16 @100				上端筋			
		下端筋	D16 @100	D16 @100				下端筋			
FS30	300	上端筋	D16 @100	D16 @100				上端筋			
		下端筋	D16 @100	D16 @100				下端筋			
FS35	350	上端筋	D16 @100	D16 @100				上端筋			
		下端筋	D16 @100	D16 @100				下端筋			
FS40	400	上端筋	D16 @100	D16 @100				上端筋			
		下端筋	D16 @100	D16 @100				下端筋			
FS40A	400	上端筋	D19 @100	D19 @100				上端筋			
		下端筋	D22 @100	D22 @100				下端筋			
FS45	450	上端筋	D16 @100	D16 @100				上端筋			
		下端筋	D16 @100	D16 @100				下端筋			



壁リスト		配筋要領は鉄筋コンクリート造配筋標準図(5)~(6)を参照とする。									
符号	厚さ(t)	タイプ	壁主筋		開口補強筋			スリット筋(つなぎ筋)		備考	
			縦筋	横筋	縦筋	横筋	斜め筋	縦筋	横筋		
W15	150	シングル	D10 @150	D10 @150	1-D13	1-D13	1-D13				
W18	180	ダブル	D10 @200	D10 @200	2-D13	2-D13	2-D13				
W20	200	ダブル	D10 @200	D10 @200	2-D13	2-D13	2-D13				
W30	300	ダブル	D13 @200	D13 @200	4-D13	4-D13	2-D13				
W30Z	300	ダブル	D16 @150	D16 @150	4-D16	4-D16	2-D16				
KW18	180	ダブル	D13 @150	D10 @150	4-D13	4-D13	2-D13				
KW18A	180	ダブル	D13 @200	D10 @150	-	-	-				
KW20	200	ダブル	D13 @150	D10 @150	4-D13	4-D13	2-D13				
KW30	300	ダブル	D13 @150	D10 @150	4-D13	4-D13	2-D13				
EW15	150	シングル	D13 @150	D13 @150	-	-	-				
EW15A	150	シングル	D13 @100	D13 @100	2-D13	4-D16	2-D13				
EW18	180	ダブル	D13 @150	D13 @150	-	-	-				
EW18A	180	ダブル	D13 @100	D13 @100	4-D16	4-D16	4-D16				
EW20	200	ダブル	D13 @200	D13 @200	-	-	-				
EW20A	200	ダブル	D13 @200	D13 @200	2-D13	2-D13	2-D13				
EW30Z	300	ダブル	D16 @150	D16 @150	-	-	-				
EW30AZ	300	ダブル	D16 @150	D16 @150	2-D16	2-D16	2-D16				

土圧壁リスト		配筋要領は鉄筋コンクリート造配筋標準図(6)を参照とする。									
符号	厚さ(t)	タイプ	屋外(土圧側)		屋内(非土圧側)		開口補強筋			備考	
			縦筋(上部/下部)	横筋(上部/下部)	縦筋(上部/下部)	横筋(上部/下部)	斜め筋	縦筋	横筋		斜め筋
EW30ZD	300	ダブル	D19@100 / D19@100	D16@200 / D16@200	D19@200 / D19@200	D16@200 / D16@200	4-D19	4-D16	2-D16		
DW30Z	300	ダブル	D19@100 / D19@100	D16@200 / D16@200	D19@200 / D19@200	D16@200 / D16@200	4-D19	4-D16	2-D16		

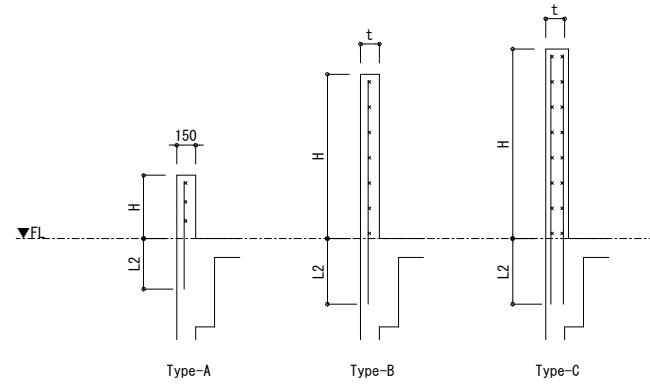
コンクリートロック壁		配筋要領は鉄筋コンクリート造配筋標準図(7)を参照とする。									
符号	厚さ	タイプ	壁主筋		開口補強筋			備考			
			縦筋	横筋	縦筋	横筋	斜め筋				
BW10	100	シングル	D10 @400	D10 @800	1-D13	-	-				
BW12	120	シングル	D10 @400	D10 @800	1-D13	-	-				
BW15	150	シングル	D10 @400	D10 @800	1-D13	-	-				

小梁リスト		B50	B60	B60a	B61a	B65	B65a	B65b	B70	B70b	B80	B80a	B80Z	B80Za
符号	位置	全断面	全断面	外端 中央 内端	端部 中央	全断面	端部 中央 外端 中央 内端	全断面	端部 中央 外端 中央 内端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面														
B x D		300 x 500	300 x 600	300 x 600	350 x 600	350 x 650	350 x 650	350 x 650	350 x 700	350 x 700	400 x 800	500 x 800	600 x 800	600 x 800
上端筋		3-D19	3-D19	3-D19 3-D19 5-D19	6-D19 4-D19	4-D22	4-D22 4-D22	4-D22 4-D22 7-D22	4-D22 4-D22	4-D22 8-D22	5-D22 5-D22	6-D22 6-D22	7-D25 5-D25	7-D25 10-D25
腹筋		-	-	-	-	1-2-D10	1-2-D10	1-2-D10	1-2-D10	1-2-D10	1-2-D10	1-2-D10	1-2-D10	1-2-D10
下端筋		3-D19	3-D19	3-D19 3-D19 3-D19	4-D19 6-D19	4-D22	4-D22 6-D22	4-D22 4-D22 4-D22	4-D22 8-D22	4-D22 6-D22 4-D22	5-D22 7-D22	6-D22 12-D22	5-D25 10-D25	5-D25 8-D25 5-D25
あばら筋		2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	3-D10 @200	2-D10 @150	2-D10 @150	2-D10 @150	2-D13 @200	2-D13 @150	2-D13 @100
備考														
符号		B85	B85a						WG60	WG61Z	WG85Z			
位置		全断面	外端	中央	内端				全断面	全断面	全断面			
断面														
B x D		500 x 850	500 x 850						300 x 600	200 x 600	200 x 850			
上端筋		11-D25	6-D25	6-D25	11-D25				2-D16	4-D16	4-D19			
腹筋		1-2-D10	1-2-D10						-	-	1-2-D10			
下端筋		6-D25	6-D25	8-D25	6-D25				2-D16	4-D16	4-D19			
あばら筋		2-D13 @150	2-D13 @150						2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @100			
備考														
符号		FB110		FB150	FB151	FB151a	FB152a	FB152b	FB153	FB185				
位置		外端	中央	内端	全断面	端部 中央	端部 中央	外端 中央 内端	端部 中央	端部 中央	端部 中央			
断面														
B x D		400 x 1100		350 x 1500	500 x 1500	500 x 1500	750 x 1500	750 x 1500	800 x 1500	600 x 1850				
上端筋		6-D22	4-D22	8-D22	3-D25	5-D25 8-D25	5-D25 10-D25	8-D25	8-D25 16-D25	8-D25 12-D25				
腹筋		3-2-D13		3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13	3-2-D13				
下端筋		4-D22	7-D22	4-D22	3-D25	5-D25 5-D25	5-D25 5-D25	8-D25	8-D25 10-D25	10-D25 8-D25	8-D25 8-D25	11-D25 6-D25		
あばら筋		2-D10 @150		2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @150	2-D13 @150	2-D13 @150	2-D13 @200				
備考														

工事名称	与那国町庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	スラブ・壁・小梁リスト	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	S=1/50(1/100)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	S-024	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

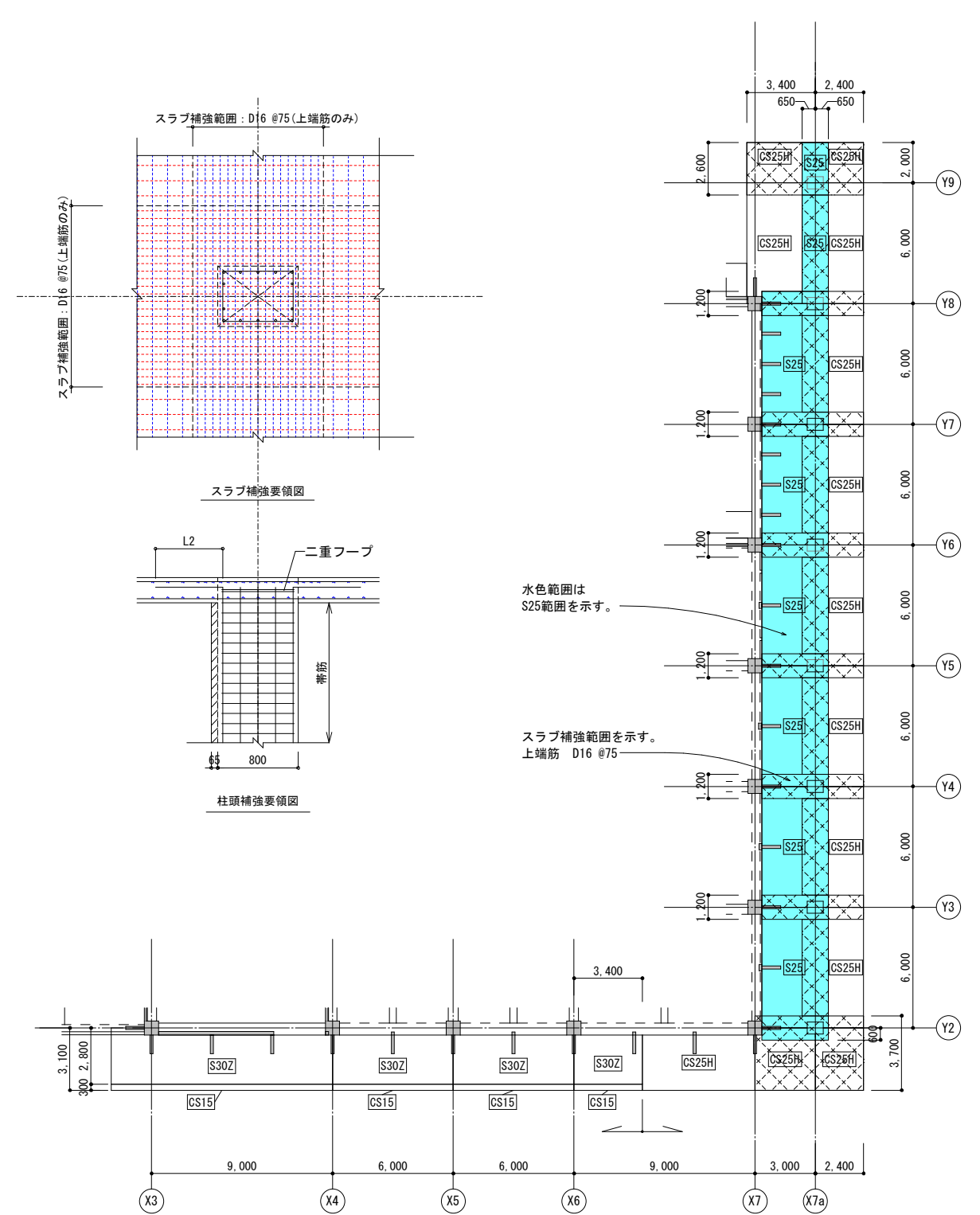
パラペット配筋要領図 S=1/30



符号	Type	厚さ(t)	高さ(H)	壁縦筋	壁横筋
PW15	A	150	450mm以下	D10 @150(S)	D10 @150(S)
PW16	B	150	1500mm以下	D10 @150(S)	D10 @150(S)
PW18	C	180	1800mm以下	D13 @200(W)	D13 @200(W)

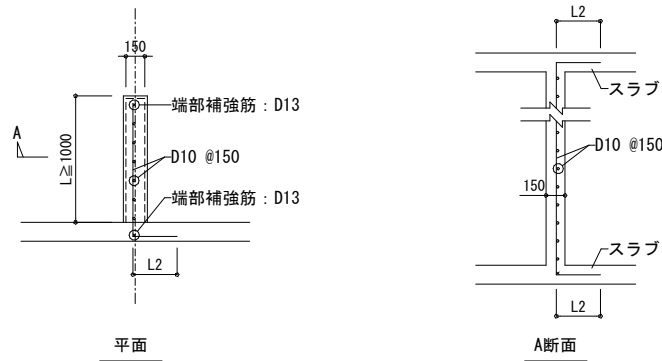
- ・パラペットの詳細高さは意匠図参照とする。
- ・パラペット下部に梁が無い場合は、スラブへ定着すること。
- ・パラペットにはひび割れ誘発目地を設けること。(位置：意匠図参照)

エントランス庇配筋要領図 S=1/30



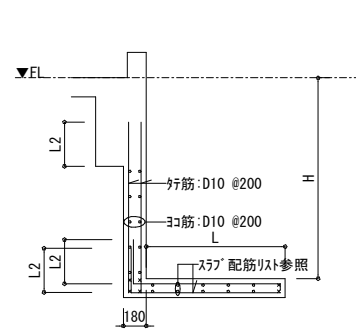
外部袖壁（マリオン）の配筋要領 S=1/30

- ・外部袖壁長さLは意匠図参照とする。
- ・仕上げ寸法は意匠図参照とする。参考：20mm程度

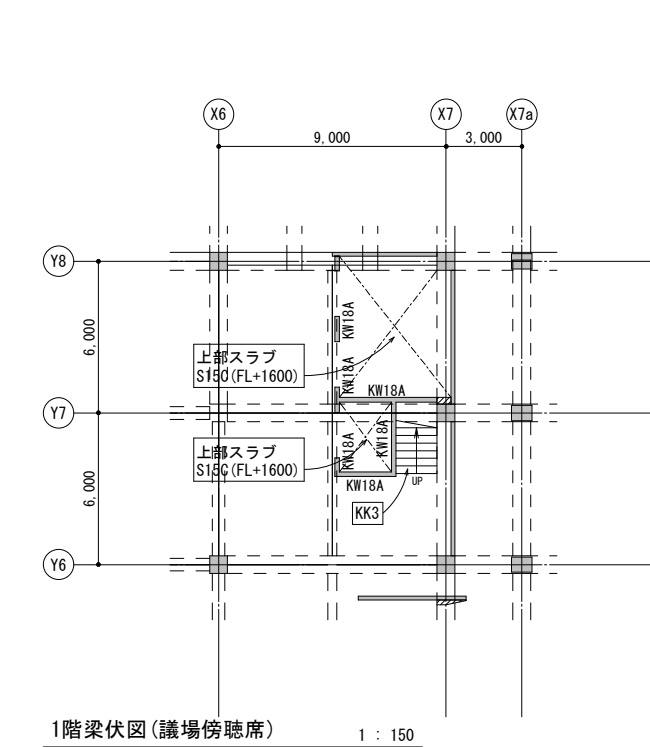


庇受け壁配筋要領図 S=1/30

- ・庇を受ける壁は180mm以上、ダブル配筋とすること。
- ・L、H寸法は構造伏図参照とする。
- ・庇と壁にはひび割れ誘発目地を設けること。

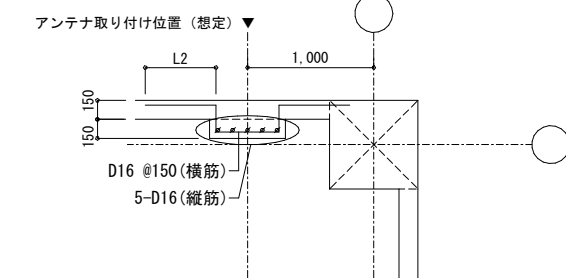


議場傍聴席躯体要領図 S=1/30



アンテナが取付く躯体要領図 S=1/30

- ・屋外に取り付くアンテナ支柱は原則、壁に取り付ける事。
- ・伏図内の位置は想定位置としているため、想定位置から異なる場合は構造再検討を行う必要がある。
- ・概算重量と異なる場合も構造再検討を行う必要がある。



工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所 <td>与那国町 与那国854番地 1</td> <td>名称</td> <td>(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同</td>	与那国町 与那国854番地 1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関 <td>与那国町 総務課</td> <td>資格者</td> <td>代表となる設計者 河野泰志</td>	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称 <td>雑詳細図(1)</td> <td>登録番号</td> <td>一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号</td>	雑詳細図(1)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺 <td>S=1/30(1/60)</td> <td>資格者</td> <td>その他の設計者 上原直樹</td>	S=1/30(1/60)	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号 <td>S-025</td> <td>登録番号</td> <td>一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号</td>	S-025	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

Rev.00

1 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号
 d: 異形棒鋼の公称直径又は丸鋼の直径 D: 部材の成 R: 直径
 @: 間隔 r: 半径 C: 中心線 Lo: 部材間の内法距離 ho: 部材間の内法高さ
 ST: あばら筋 Hoop: 帯筋 φ: 直径

【表1.1 鉄筋記号】

異形棒鋼	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
記号	○	×	◇	●	○	○	⊗	⊙	⊕	⊗

2 使用構造材料

適用は●印を記入する。

【表2.1 大臣認定等】

種別	種類	名称および認定番号	規格	
鉄筋	高強度せん断補強筋	□ 785	MSRB-0005	
		□ スロングフープ	MSRB-0007, MSRB-0015	
	RC梁貫通孔補強	● スーパーハープ	BCJ認定-R00224-05	
		● MAXウェブレ	GBRC性能証明-第06-14号	
		● ダイアレンS	BCJ認定-R00124-05	
		● リバーレン	BCJ認定-R00254-03	
		● リバーレン	MSRB-9006	
	鉄筋機械式定着	□ プレートネット工法	BCJ認定-R00152-09	
		□ DBヘッド定着工法	GBRC性能証明-第06-14号	
		□ Tヘッド鉄筋工法	GBRC性能証明-第03-07号	
		□ マイティヘッド工法	GBRC性能証明-第03-07号改4	
		□ EG定着板工法	GBRC性能証明-第01-13号改2	
		鉄筋機械式継手	□ ネジテツコングアウト継手	BCJ認定-R00021-08
			□ ネジテツコンタイプ継手	BCJ認定-R00112-08
			□ ボルトトップス鉄筋継手工法	BCJ認定-R00129-04
□ ネジテツコン打継手後方			BCJ-C1688	
□ 鉄筋用Fカブラー継手「EGジョイント」			BCJ認定-R00001	
□ 鉄筋用Fカブラー継手「EG打継ジョイント」			BCJ-C2269	
□ ネジエーコン無機グラウト継手			BCJ認定-R00010-03	
□ ネジエーコン樹脂グラウト継手			BCJ認定-R00004-08	
□ タフネジバーDタイプ	BCJ認定-R00019-03			
□ タフネジバーD/Sタイプ	BCJ認定-R00019-03			
□ タフネジバーWタイプ	BCJ認定-R0-198-02			
□ スリムスリーブ	RC0303-93, RC0460-91			
□ OSフックリップ工法	BCJ認定-R00077-02			
杭地業	□ 既製杭	□ 埋込杭工法 RODEX工法	BCJ-F319 (遠10)	
	場所打ちコナート杭	□ ハイエフイー (HiFB) 工法 (先端地盤: 砂質地盤)	TAQP-0257	
		□ ハイエフイー (HiFB) 工法 (先端地盤: 硬質地盤)	TAQP-0258	
		□ ハイエフイー (HiFB) 工法 (先端地盤: 粘土質地盤)	TAQP-0493	
		□ 先端掘削杭 OMR/B	BCJ認定-F00255-06	
	鋼管場所打ちコナート杭	□ KCTB場所打ち鋼管コンクリート杭	BCJ認定-F00356-01-03	
		□ G-EOSパイル工法	TAQP-0513	
	鋼管回転圧入杭	□ つばさ杭	TAQP-0413, TAQP-0395, GBRC性能証明第12-13号	
		□ テコットパイル工法 (先端地盤: 砂質地盤)	TAQP-0355	
		□ テコットパイル工法 (先端地盤: 粘土質地盤)	TAQP-0356	
		□ ガイアスーパーパイル (先端地盤: 砂質地盤)	TAQP-0513	
		□ ガイアスーパーパイル (先端地盤: 粘土質地盤)	TAQP-0514	

※鉄筋機械式定着及び鉄筋機械式継手は、設計監理者と協議の上決定する。
 ※上記の認定番号が最新の認定番号と異なる場合、最新の認定番号を適用する。

3 かぶり厚さ・鉄筋のあき・鉄筋間隔

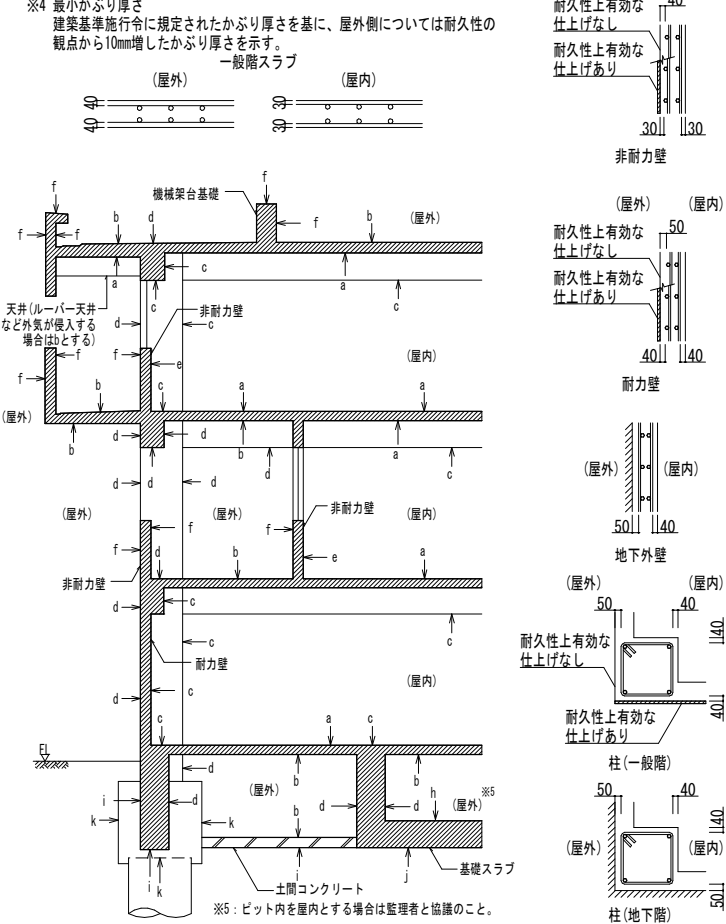
3.1 かぶり厚さ

- 各部位の設計かぶり厚さ及び最小かぶり厚さは、【表3.1】による。
- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定め、設計かぶり厚さは最小かぶり厚さに10mm加えた値とする。
- 配筋は構造体寸法(増打ちを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置にて行う。
- 耐久上有効な仕上げがある場合、【表3.1】の※1の値を10mm減じてよい。
 耐久上有効な仕上げの例
 ・タイル張り・モルタル塗り(10mm以上)・打増し(10mm以上)
 ・ひび割れ誘発目地・打継目地・化粧目地等がある場合は、目地底からのかぶり厚さを確保する。
- 柱・梁で打継目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。
 この打増しは上記(4)により、耐久上有効な仕上げと考えることができる。
- 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
- 軽量コンクリートを用いる場合は【表3.1】の※2の値に10mm加えた値とする。

【表3.1 設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ】 単位(mm)

構造部分の種類	コンクリートの種類		設計かぶり厚さ ^{※1}	最小かぶり厚さ ^{※2}	分類記号
	屋内	屋外			
土に接しない部分	スラブ	30	20	a	
	柱・梁	屋内	40 ^{※1}	30 ^{※1}	b
		屋外	40	30	c
	非耐力壁	屋内	50 ^{※1}	40 ^{※1}	d
		屋外	30	20	e
	土に接する	煙突内面	60	50	f
壁・柱・基礎スラブ(耐圧床版)		屋内	40 ^{※1}	30 ^{※1}	g
		屋外	50	40	h
連続基礎(布基礎)の立上がり部分		屋内	50 ^{※2}	40 ^{※2}	i
		屋外	70 ^{※2}	60 ^{※2}	j
基礎		70 ^{※2}	60 ^{※2}	k	

- ※3 設計かぶり厚さ
 施工誤差の割増10mmを標準として見込むことにより、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。
- ※4 最小かぶり厚さ
 建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。



【図3.3 かぶり厚さ概念図】

【図3.4 各部位のかぶり厚さ】

3.2 鉄筋のあき・鉄筋間隔と鉄筋の断面積

鉄筋のあきと鉄筋間隔の最小間隔は【表3.2】による。

【表3.2 鉄筋のあき・鉄筋間隔の最小値】

異形鉄筋	図	鉄筋のあき		鉄筋の間隔	
		呼び名の数値の1.5倍 ・粗骨材最大寸法の1.25倍 ・25mmのうち最も大きい数値	呼び名の数値の1.5倍 + 最外径 ・粗骨材最大寸法の1.25倍 + 最外径 ・25mm + 最外径のうち最も大きい数値	呼び名の数値の1.5倍 + 最外径 ・粗骨材最大寸法の1.25倍 + 最外径 ・25mm + 最外径のうち最も大きい数値	呼び名の数値の1.5倍 + 最外径 ・粗骨材最大寸法の1.25倍 + 最外径 ・25mm + 最外径のうち最も大きい数値

1)~5)に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける

- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
 - 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合(基礎梁を除く)
 - 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
 - 杭基礎のベース筋
 - 帯筋、あばら筋及び幅止り筋
- 右図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

4 鉄筋の加工形状

4.1 加工形状

鉄筋の折曲げの形状とその寸法は【表4.1】による。

【表4.1 鉄筋の折曲げ形状・寸法】

図	鉄筋の種類	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法直径(D)
180°	SD295 SD345	SD390	D16以下	3d以上
			D19~D41	4d以上
135°	SD390	SD490	D41以下	5d以上
			D25以下	6d以上
90°	SD490	SD490	D29~D41	6d以上

- 【注】(1)表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2)スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
 (3)片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
 (4)スラブ筋、壁筋には、溶接金鋼を除いて丸鋼を使用しない。
 (5)折曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障のないことを確認した上で、設計監理者の承認を得ること。
 (6)SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障のないことを確認した上で、設計監理者の承認を受けること。

5 定着と継手

5.1 定着長さ

- 鉄筋の定着の長さおよび方法は特記による。特記のない場合は、小梁、スラブの下端筋を除く異形鉄筋の直線定着の長さL2は【表5.1】(a)の数値以上とし、フック付き定着の長さL2hは同表(b)の数値以上とする。ただし、構造特記仕様書(2)5章3節7各節配筋 柱に取り付け梁の定着長さより「第73条3項による」が適用される場合は梁の定着長さを40dとする。

【表5.1 異形鉄筋の定着長さ】

コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	(a) 直線定着の長さL2			
	SD295	SD345	SD390	SD490
18	40d	40d	-	-
21	35d	35d	40d	-
24~27	30d	35d	40d	45d
30~36	30d	30d	35d	40d
39~45	25d	30d	35d	40d
48~60	25d	25d	30d	35d

(b) フック付定着の長さL2h

コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	30d	30d	-	-
21	25d	25d	30d	-
24~27	20d	25d	30d	35d
30~36	20d	20d	25d	30d
39~45	15d	20d	25d	30d
48~60	15d	15d	20d	25d

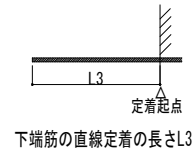
- 【注】(1)表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2)フック付きの鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
 (3)フックの折曲げ内法寸法直径Dおよび余長は、【表4.1】による。
 (4)Laかつ柱せいの3/4以上とする。

- 小梁・スラブの下端筋の定着の長さおよび方法は、特記による。特記のない場合は、小梁・スラブの下端筋の異形鉄筋の直線の定着長さL3は、【表6.2】(a)の数値以上とし、フック付き定着の長さL3hは同表(b)の数値以上とする。

【表5.2 小梁・スラブの下端筋の定着の長さ】

コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	鉄筋の種類	(a) 直線定着の長さL3	
		小梁	スラブ
18~60	SD295 SD345 SD390	20d [*]	10d [*] かつ 150mm以上

【注】※片持小梁・片持スラブの下端筋を直線定着とする場合は、25d以上とする。

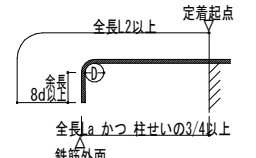


コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	鉄筋の種類	(b) フック付定着の長さL3h	
		小梁	スラブ
18~60	SD295 SD345 SD390	10d	-

- 【注】(1)表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2)耐圧スラブの下端筋の定着長さは【表5.1】による。
 (3)フック付鉄筋の定着長さL3hは、定着起点から鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
 (4)フックの折曲げ内法直径Dおよび余長は、【表4.1】による。

- 仕口内に90°折曲げ定着する鉄筋の定着長さが、【表5.1】(b)のフック付き鉄筋の定着長さL2hを満足しない場合の定着の方法は、下記の(1)~(2)による。

- 仕口内に90°折曲げ定着する異形鉄筋の定着長さは、【図5.1】に示すように、定着起点(仕口面)から鉄筋先端までの全長を直線定着の長さL2(【表5.1】(a)の数値)以上、かつ、余長を8d以上とし、定着起点から鉄筋外面までの投影定着長さLaまたはLbを指定する。

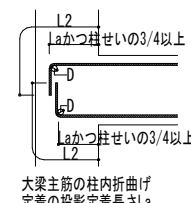


【図5.1 仕口内に90°折曲げ定着する鉄筋の投影定着長さ(LaまたはLb)】

- 鉄筋の投影定着長さLaまたはLbは、RC規準(2010年版)に従って計算し、設計図書に特記する。特記がない場合の投影定着長さは、大梁(基礎梁や片持梁を含む)の主筋の柱内定着については、【表5.3】(a)のLaの数値以上、小梁やスラブ(片持形式を除く)の上端筋の梁内定着については同表(b)のLbの数値以上とする。なお、片持形式の小梁やスラブの上端筋は、同表(a)のLaの数値以上とする。

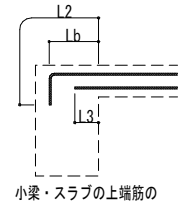
【表5.3 異形鉄筋の仕口内の折曲げ定着の投影定着長さ】

(a) 大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さLa				
コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	20d	20d	-	-
21	15d	20d	20d	-
24~27	15d	20d	20d	25d
30~36	15d	15d	20d	25d
39~45	15d	15d	15d	20d
48~60	15d	15d	15d	20d



(b) 小梁やスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さLb (片持の小梁・スラブを除く)

コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	15d	20d	-	-
21	15d	20d	20d	-
24~27	15d	15d	20d	-
30~36	15d	15d	15d	-
39~45	15d	15d	15d	-
48~60	15d	15d	15d	-



- 【注】(1)表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2)フックの折曲げ内法直径Dおよび余長は、【表4.1】による。
 (3)梁主筋を柱へ定着する場合、Laの数値は原則として柱せいの3/4以上とする。

- 機械式定着による場合は、定着具の寸法・品質・施工法およびその場合の定着長さを設計図に特記する。

【表5.3 鉄筋長さ早見表】

長さ	単位(mm)									
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
最外径	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43
断面積	71.3	127	199	287	387	507	642	794	957	1140
あき(粗骨材20mm)	25	25	25	29	33	38	44	48	53	57
あき(粗骨材25mm)	32	32	32	33	38	44	48	48	53	57
長さ	4d	40	52	64	76	88	100	116	128	140
	6d	60	78	96	114	132	150	174	192	210
	8d	80	104	128	152	176	200	232	256	280
	10d	100	130	160	190	220	250	290	320	350
	15d	150	195	240	285	330	375	435	480	525
	20d	200	260	320	380	440	500	580	640	700
	25d	250	325	400	475	550	625	725	800	875
	30d	300	390	480	570	660	750	870	960	1,050
	35d	350	455	560	665	770	875	1,015	1,120	1,225
	40d	400	520	640	760	880	1,000	1,160	1,280	1,400
	45d	450	585	720	855	990	1,125	1,305	1,440	1,575
	50d	500	650	800	950	1,100	1,250	1,450	1,600	1,750

工事名称	与那国町総合庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町宇与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野善志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-01	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-182号
		所在地	

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

Rev.00

5.3 ガス圧接材料・継手および特殊継手

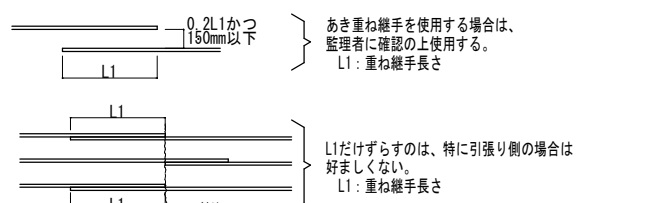
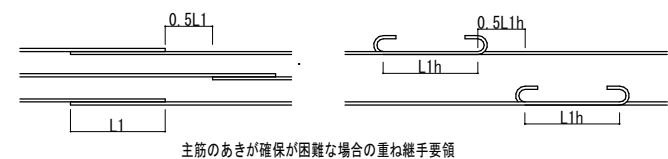
- ガス圧接継手の仕様は(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」(2017年版)による。
- 重ね継手の長さは設計図に特記する。特記のない場合は、柱・梁の主筋以外のその他の鉄筋を対象として、直線重ね継手の長さL1は【表5.4】(a)の数値以上とし、フック付き重ね継手の長さL1hは同表(b)の数値以上とする。ただし、D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手は用いない。
- 機械式継手・溶接継手を用いる場合は、構造特記仕様書に特記する。
- 継手は1か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。
- あき重ね継手は、原則としてスラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋に適用する。その場合、あき継手長さは重ね継手の表5.4のL1を確保し、あき寸法は0.2L1かつ150mm以下とする。

【表5.4 異形鉄筋の重ね継手の長さ】

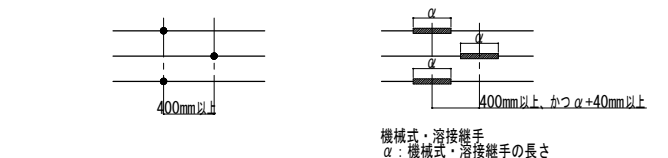
コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	45d	50d	-	-
21	40d	45d	50d	-
24~27	35d	40d	45d	55d
30~36	35d	35d	40d	50d
39~45	30d	35d	40d	45d
48~60	30d	30d	35d	40d

コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	35d	35d	-	-
21	30d	30d	35d	-
24~27	25d	30d	35d	40d
30~36	25d	25d	30d	35d
39~45	20d	25d	30d	35d
48~60	20d	20d	25d	30d

- 【注】(1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは細い方のdによる。
 (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折曲げ開始点間の距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は定着長に含まない。
 (4) フックの折曲げ内法直径Dおよび余長は、特記のない場合は、【表4.1】による。



【図5.9 重ね継手長さ・継手のずらし方】



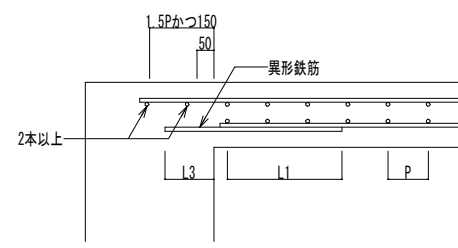
【図5.10 ガス圧接継手・機械式継手・溶接継手のずらし方】



【図5.11 機械式継手・溶接継手と重ね継手併用の場合】

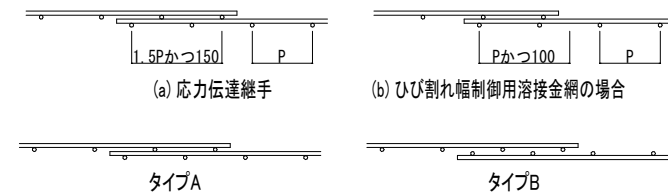
5.4 溶接金網の定着と継手

- 溶接金網の定着は、【図5.12】による。



【図5.12 溶接金網の定着】

- 溶接金網の継手は重ね継手とし、【図5.13】(a),(b)による。特記がない場合は(a)とする。溶接金網の合わせ面は、タイプA、タイプBいずれとしてもよい。

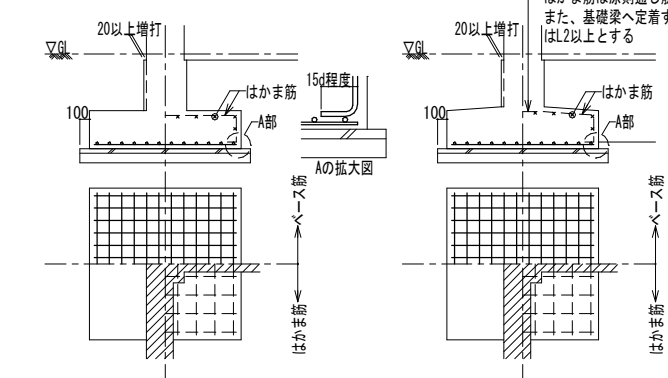


【図5.13 溶接金網の重ね継手】

6 基礎

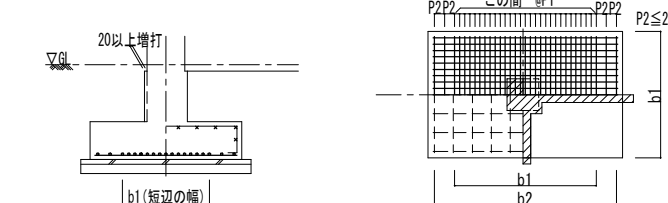
6.1 独立基礎

(1) 直接基礎



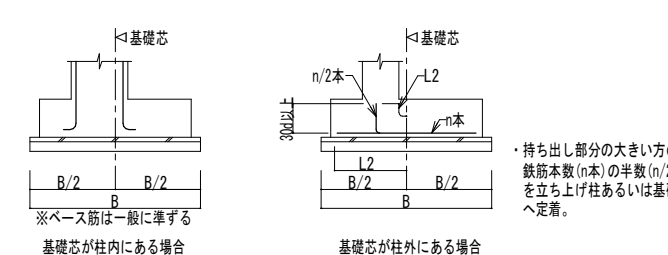
- 【注】・パーサポート @900程度。
 ・柱筋の重量が大きい場合は柱の四隅にもパーサポートを置く。
 ・はかま筋は図面指示のある場合にだけ設ける。

(2) 長方形基礎



- 【注】・b1の間に短辺方向の全所要鉄筋本数の2/(1+λ)の鉄筋を均等配置(ただしλ=b2/b1)、残りをその両側に等間隔の配置とする。
 ・等間隔に配筋する場合は、短辺方向の全所要鉄筋本数の2λ/(λ+1)倍を長辺幅に配置する。

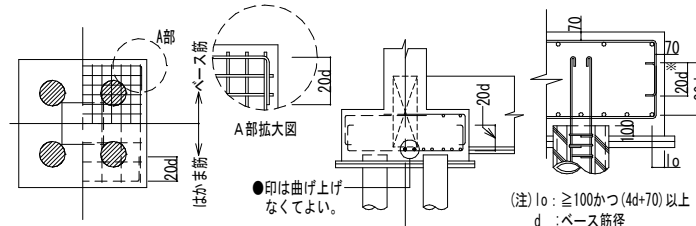
(3) 偏心基礎



- ・持ち出し部分の大きい方の鉄筋本数(n本)の半数(n/2本)を立ち上げ柱あるいは基礎梁へ定着。

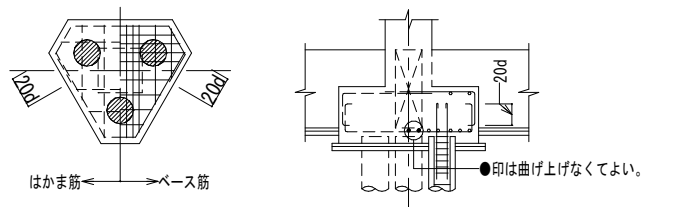
6.2 既製コンクリート基礎杭

(1) 独立基礎

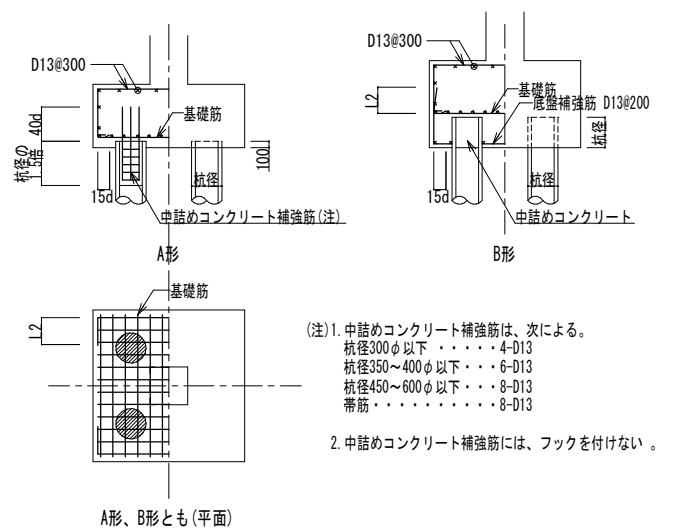


- 【注】・パーサポート @900程度。
 ・柱筋の重量が大きい場合は柱の四隅にもパーサポートを置く。
 ・はかま筋は図面指示のある場合にだけ設ける。

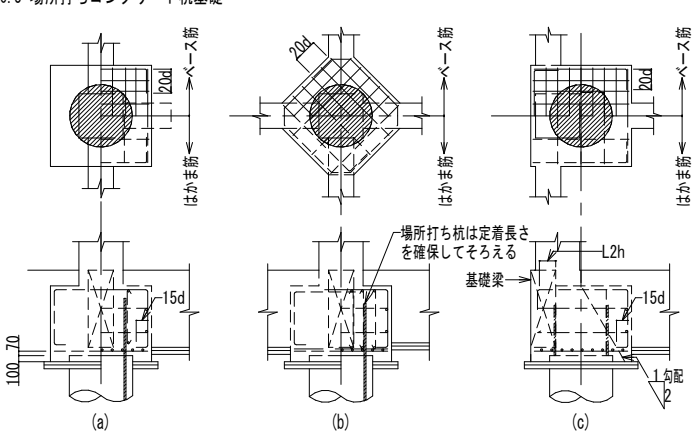
(2) 三角独立基礎



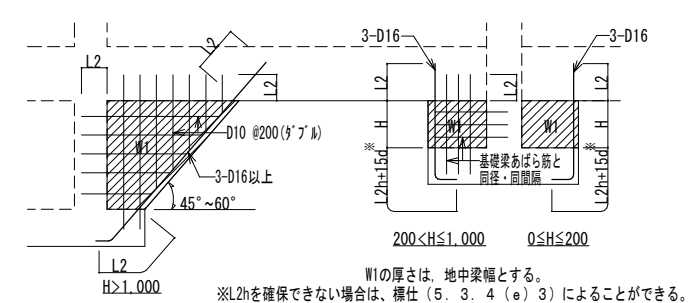
(3) 杭頭補強要領



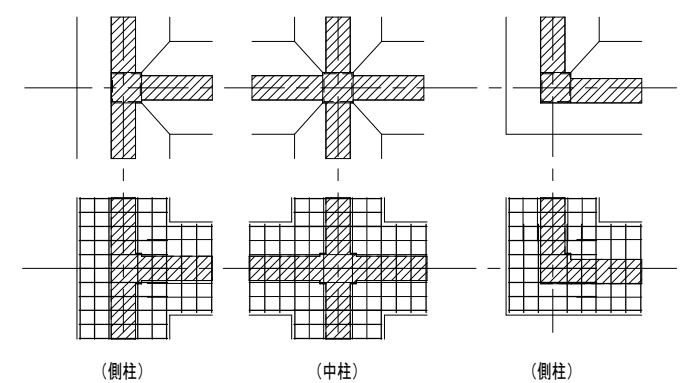
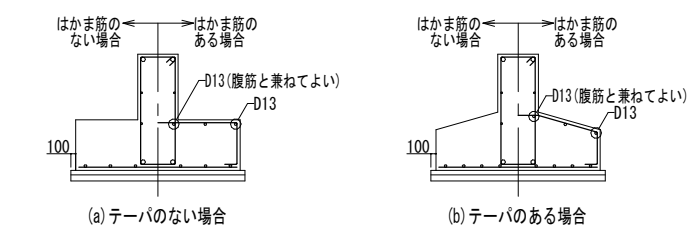
6.3 場所打ちコンクリート杭基礎



6.4 独立基礎と基礎梁の接合



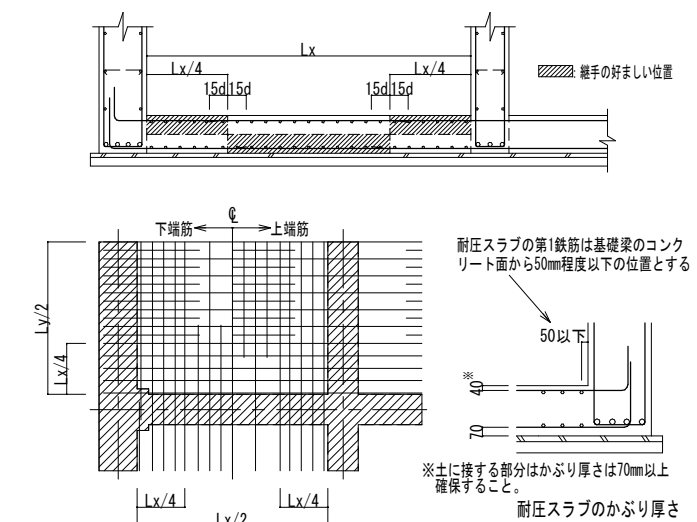
6.5 連続基礎



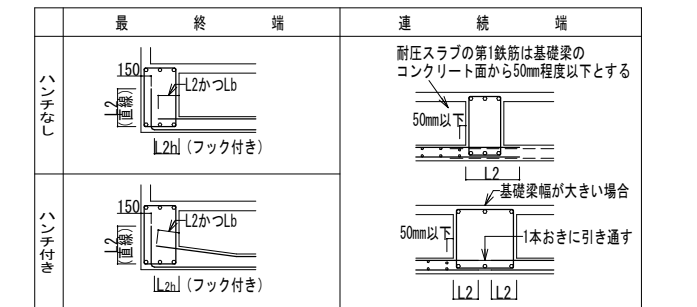
- 【注】(c) ベース筋とコンクリート上端のテーパのとり方
 配筋方法：連続基礎の配筋方法はa. 独立基礎(1)に準ずる。

6.6 ベタ基礎

(1) 耐圧スラブの配筋



(2) 基礎梁との定着



- 【注】・連続端の鉄筋は、定着が引き通し筋とする。定着長さは基礎梁面よりそれぞれ確保する。基礎梁の中には継手は設けない。

工事名称	与那国町総合庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町宇与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-02	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

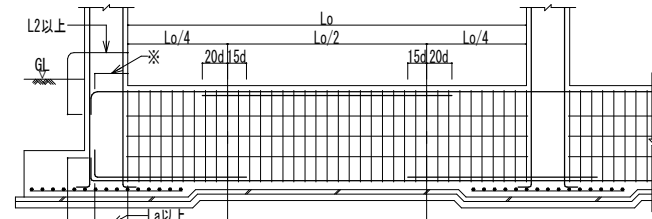
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

Rev.01

7 基礎梁

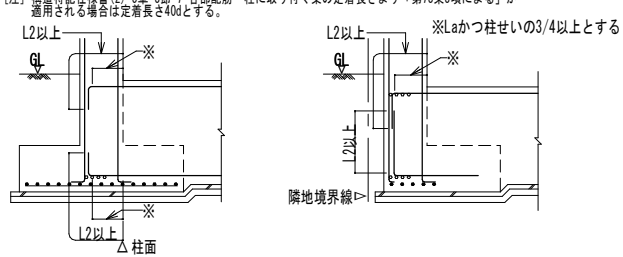
7.1 基礎梁筋の配筋と定着

(1) 基礎梁内の主筋カットオフ位置は設計図の特記による。特記のない場合は下記による。
※Laかつ柱せいの3/4以上とする



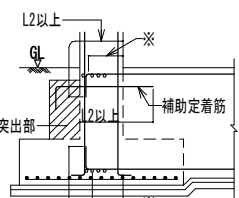
【図7.1 基礎梁筋の配置と定着】

(2) 基礎梁外端部の定着は設計図の特記による。特記が無い場合は下記による
【注】構造特記仕様書(2)5章3節7各節配筋 柱に取り付く梁の定着長さより「第73条3項による」が適用される場合は定着長さ40dとする。

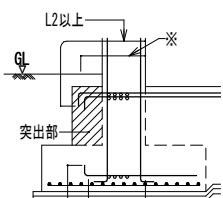


(1) 一般的な納まり

(2) 柱面と基礎外面が同じ場合(偏心基礎)



(3) 突出部上面が基礎梁よりも低い場合

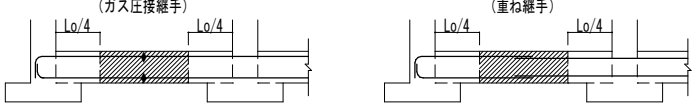


(4) 突出部上面が基礎梁と同じ場合

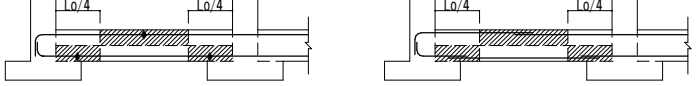
【図7.2 基礎梁外端部の納まり】

7.2 基礎梁筋の継手位置

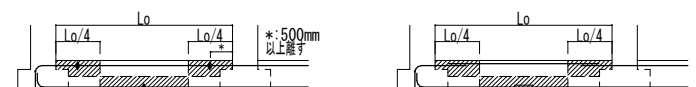
● ガス圧接位置
■ 継手の好ましくない位置
○ 継手の好ましくない位置



【図7.3 独立基礎で床スラブが取り付けられない場合】



【図7.4 独立基礎で床スラブが取り付けられる場合】

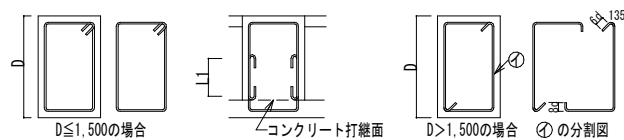


【図7.5 連続基礎及びべた基礎の場合】

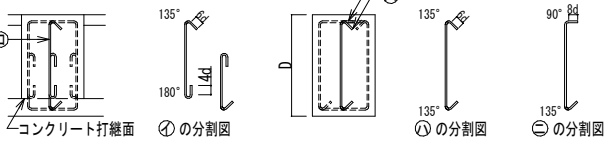
鉄筋の継手位置：鉄筋の継手位置は設計図書に特記する。原則として、コンクリートに常時圧縮応力が生じている部分、または応力の小さい部分に設ける。継手は1か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。継手を設けるために施工機械を用いるときは、施工上必要とするすき間がとれるように、継手位置および隣接する鉄筋間隔に留意する。鉄筋相互のずらし方は、【図5.9】【図5.10】および同解説による。

7.3 あばら筋・腹筋および幅止め筋

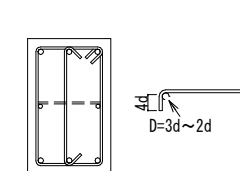
(1) あばら筋



(2) 副あばら筋



(3) 幅止め筋

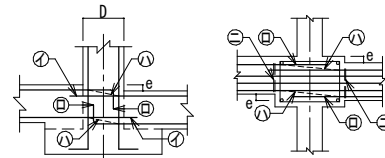


【注】腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
【注】幅止め筋など配筋組立て上必要とする補助筋は、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説の4章の鉄筋加工の規定に従わなくてもよい。

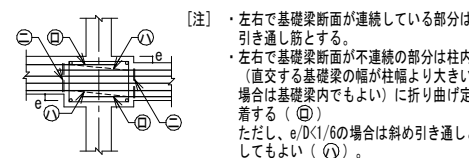
(4) 基礎梁腹筋の割付本数

梁せい	腹筋
D<600	不 要
600≦D<1,050	2-D10 (1段)
1,050≦D<1,500	4-D10 (2段)
1,500≦D<1,950	6-D13 (3段)
1,950≦D<2,400	8-D13 (4段)

7.4 段違いのある場合



【図7.6 断面的な段違い】



【図7.7 平面的な段違い】

【注】
・左右で基礎梁断面が連続している部分は引き通し筋とする。
・左右で基礎梁断面が不連続の部分は柱内(直交する基礎梁の幅が柱幅より大きい場合は基礎梁内でもよい)に折り曲げ定着する(○)。
・ただし、e/D<1/6の場合は斜め引き通しとしてもよい(△)。
・○△の場合は主筋折り曲げ起点○にスターアップ2本重ねて入れる。

【表7.1 あばら筋の形状】

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)
上スラブ付き					
下スラブ付き					
スラブなし					
上・下スラブ付き					

【注】(1) 基礎梁あばら筋の施工性は、概略以下の順となる。
梁せい 1.5m以下(イ)-(ロ)-(ハ)
1.5~2.0m(ハ)-(ロ)-(イ)
2.0m以上(ハ)または(ロ)-(ニ)-(ホ)

【表7.2 幅あばら筋の形状】

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)
上スラブ付き				
下スラブ付き				
スラブなし				
上・下スラブ付き				

幅止め筋は配筋施工上の組立て用鉄筋であるので、鉄筋の位置を確保することができればよい。したがって、曲げ加工は(2)の図中に示す程度でよく、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説の4章の鉄筋加工の鉄筋の末端部の折り曲げ形状に合わせてよく。

8 品質管理・検査

本項は、鉄筋工事における品質管理および検査について示している。検査には品質管理のために受注者が実施するものと、工事が設計図書に定められたとおりに行われているか否かを確認するために設計監理者が実施するものがあることから「品質管理・検査」を設けた。以下に具体的な検査方法などを示す。

- 品質管理のために受注者が実施する自主検査は、原則として全ての箇所について実施する。
- 鉄筋の材料性能は、ミルシート(鋼材規格証明書)によって試験の代替ができるものとする。
- 設計監理者が配筋検査を行う際は、事前に作成した自主管理検査シート等を提出し、報告する。
- 設計監理者による代表的な検査項目を下記に示す。検査対象は設計監理者が適宜に決定する。
 - かぶり厚さの確認。(品質向上のための結束線も権力内側へ納めることが望ましい)
 - 鉄筋の本数・間隔等、径の確認。
 - 壁の差筋等の確認。(あと施工アンカー等は原則不可)
 - 構造スリット位置・振れ止め筋の確認。
 - 構造計算上必要な補強鉄筋等の確認。(ねじれ補強筋など)
 - 鉄筋継手部の確認。(圧接部や機械式継手部)
 - 定着部の確認。(各部材の定着要領と照らしながら確認)
 - 鉄筋が清掃されているか確認。
 - その他。
- 検査の結果、不合格になった場合はその原因を早急に確かめるとともに、その後の措置について提案し、設計監理者と協議する。

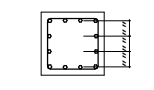
配筋精度は、配筋技術の差や型枠精度の差などによって異なるため、配筋精度向上を目的として目標値を下表に示す。ただし、基準法で定められたかぶり厚さを必ず確保すること。

部 位	項 目	許容値δまたはP
柱	柱の鉛直鉄筋(柱筋)の上下端間の倒れ	10mm
	柱の鉛直鉄筋(柱筋)の上下端間の曲がり	20mm
梁	梁筋の柱内法間(ピッチ)の20%以内	10mm
	梁筋の柱内法間(ピッチ)の20%以内	20mm
スラブ	スラブおよび壁の間隔	10mm
	スラブおよび壁の板厚方向の鉄筋位置	所定の位置から10mm
土圧・水圧壁	板厚30cm未満の場合	所定の位置から20mm
	板厚30cm以上の場合	所定の位置から20mm
壁	壁の鉄筋間隔	10mm
	壁の板厚方向の鉄筋位置	所定の位置から20mm
その他	上記の項目以外の鉄筋	上記に準ずる

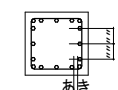
9 柱

9.1 柱筋

(1) 柱主筋の配置



【図9.1 均等割り付け】



【図9.2 寄せ筋配置】

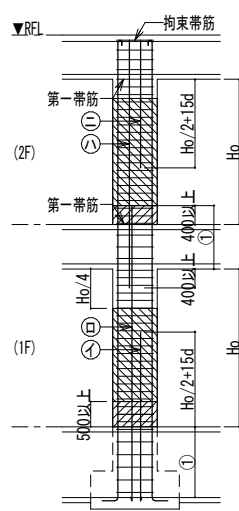
【表9.1 あき寸法の最小値】

呼び名	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
あき	25	29	33	38	44	48	53	57
あき	45							

1) 施工誤差を見込んで算定したあき寸法

【図9.1 均等割り付け】 【図9.2 寄せ筋配置】

(2) 柱主筋の定着



● 柱主筋4隅フック

径	L2
D16	480 560 640
D19	570 665 760
D22	660 770 880
D25	750 875 1,000
D29	870 1,015 1,160

メモ：梁主筋は拘束帯筋の下に位置すること。

● 柱主筋全数フック

径	L2h
D16	20d 25d 30d
D19	320 400 480
D22	380 475 570
D25	440 550 660
D29	500 625 750
D32	580 725 870

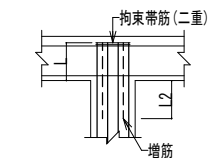
メモ：梁主筋は拘束帯筋の下に位置すること。

④は柱筋のみ配筋する場合
⑤は上階の鉄筋に連続しない場合
⑥は下階より上階に多く配筋する場合
⑦は柱脚より柱頭の鉄筋が多い場合
①寸法は基礎梁天端・上部梁下端からL2またはL2h寸法とする。

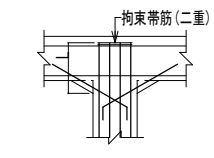
【注】④と⑤のカットオフ長さはH0/2+15dとし、設計図書に特記がある場合は設計図書を優先とする。
【注】1階柱のうち、連層耐震壁の付帯柱や連層耐震壁直下のピロティ柱は、原則として、1階の柱内法高さ内で主筋をカットオフしないこと。

(3) 柱頭(最上階)の配筋

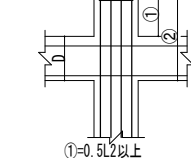
・定着長さ(L2)が梁内に納まらない場合(L<L2)
※Lの長さは上表L2hの長さ以上とする。
※設計図書に特記がない場合、下記の3法のいずれかとし、設計監理者と協議し決定すること。
※拘束帯筋は柱断面リストに示す一般部帯筋と同径・同材質とする。
※カゴ筋は柱断面リストに示す主筋と同径・同材質とする。



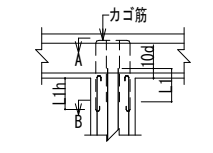
【図9.3 増筋法】



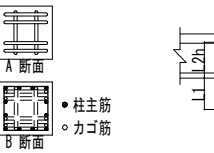
【図9.4 梁ハンチ法】



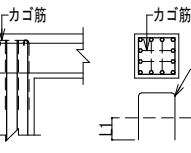
【図9.5 柱型延長法】



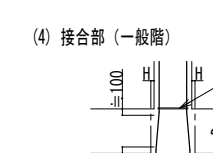
【図9.6 カゴ筋法】



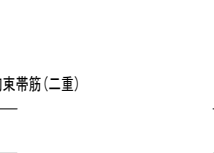
【図9.7 カゴ筋法(改)】



【図9.8 H≦50のしぼり寸法】



【図9.9 50<H≦150のしぼり寸法】



【図9.10 150<Hのしぼり寸法】



【図9.11 段違い梁が取り付けられる場合】

工事名称	与那国町総合庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町宇与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	代表となる設計者	河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-03	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (5)

Rev.00

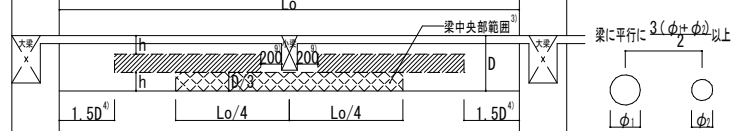
10.4 梁貫通補強筋

原則として既製品 (大臣認定品) を使用し、仕様は各認定品に準ずること。(鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) 参照) また、使用の際は、検査書及び認定書を設計監理者に提出し承認を得ること。なお、構造図面にスリーブの個数及び位置は記載がない場合は設備図面を参照とする。

上記の既製品 (大臣認定品) を使用しない場合の仕様は下記に準ずること。

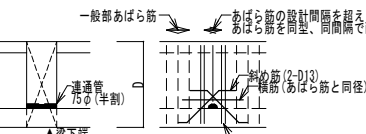
- 1) 梁貫通補強筋の名称等は、下図による。
- 2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- 3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下よりD/3 (Dは梁せい) の範囲に設けてはならない。
- 4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は柱面から1.0m以上離す。
- 5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 6) 縦筋及び上下筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 7) 補強筋は、主筋の内側とする。
- 8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 9) 200mmは直行する小梁主筋が干渉しない位置まで範囲を広げられる。

梁主筋が1段階の場合: $h \geq \phi$ のかつ175程度
梁主筋が2段階の場合: $h \geq \phi$ のかつ250程度



【図10.12 原則として、梁貫通孔を設けることができる範囲】

【図10.13 貫通孔の間隔】



【図10.14 連通管を設けた場合の補強要領】

【表10.1 梁に対して貫通孔を設ける事ができる場合の早見表】

梁せい(D)	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900
1/3以下	150φ	160φ	180φ	200φ	210φ	230φ	250φ	250φ	260φ	300φ

【表10.2 鉄筋補強による標準補強要領図】

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

【図10.14 貫通補強筋の定着長さのとり方】

10.5 梁貫通補強筋 (PC梁の場合)

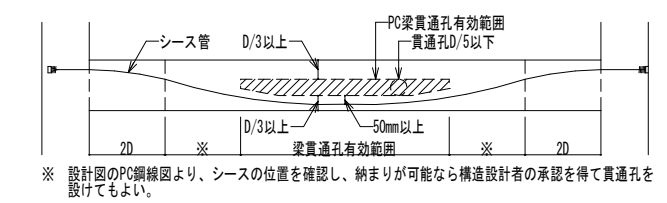
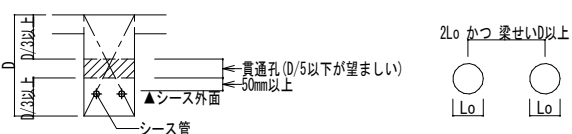
※PC梁に貫通孔を設ける場合は必ず構造設計者に承認を得ること。

PC梁貫通孔の最大径φはPC梁成Dの1/5以下とする。

【表10.3 梁に対して貫通孔を設ける事ができる場合の早見表】

梁せい(D)	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500
1/5以下	120φ	140φ	160φ	180φ	200φ	220φ	240φ	260φ	280φ	300φ

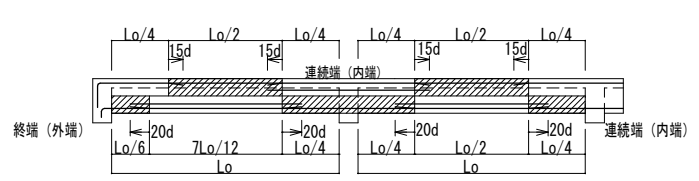
- 1) シース外面とのかぶり厚さは50mm以上とする。
- 2) PC梁貫通孔が並列する場合はPC梁貫通孔の中心距離を隣り合うPC梁貫通孔径の合計の2倍以上かつ梁成D以上とする。
- 3) PC梁の内法スパン両端から2Dの範囲に梁貫通孔は設けない。
- 4) PC梁貫通補強は既製品による補強ではなく、異形鉄筋による鉄筋補強とする。



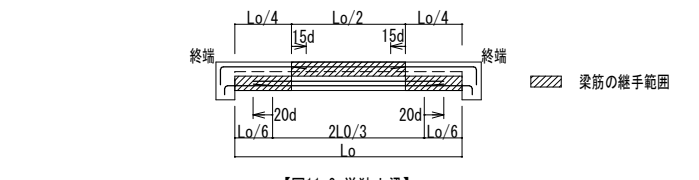
11 小梁・片持ち梁

11.1 小梁筋

(1) 小梁端部・中央部の範囲とカットオフ筋のカットオフ位置

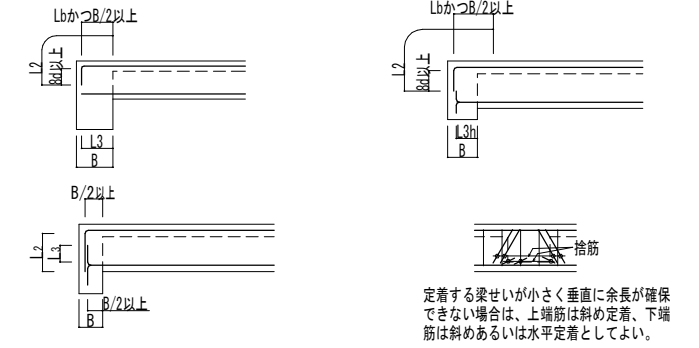


【図11.1 連続小梁】



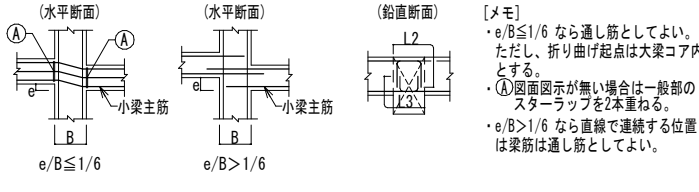
【図11.2 単独小梁】

(2) 定着

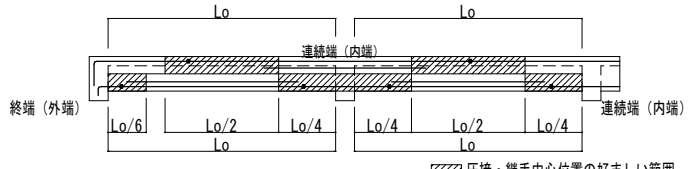


【図11.3 小梁終端部の定着】

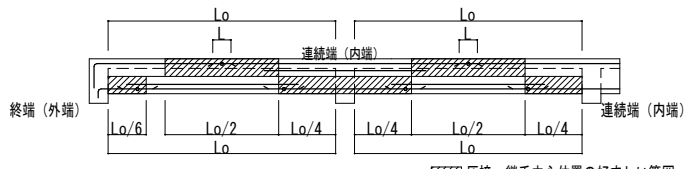
【注】 定着する梁幅Bが小さい場合は、上端筋は余長部でL2、下端筋はL3とする。このとき、投影定着長さを8d以上とすることが望ましい。
【メモ】: ほぼ等スパンで、ほぼ等しい荷重を受ける小梁の配筋は、一般に(1)の(a)の配筋でよいが、スパンの長さや荷重分布の異なる場合の小梁配置は設計図書に特記する。
あばら筋・腹筋および幅止め筋は【10.梁】c.に準ずる。



(3) ガス圧接継手位置



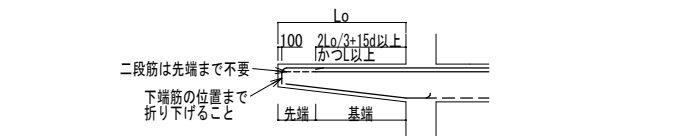
【図11.4 ガス圧接継手】



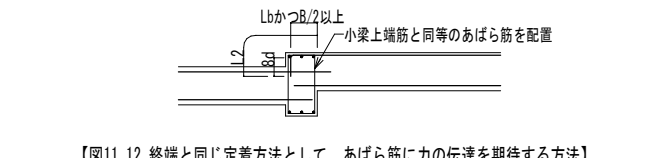
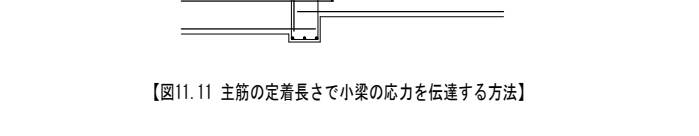
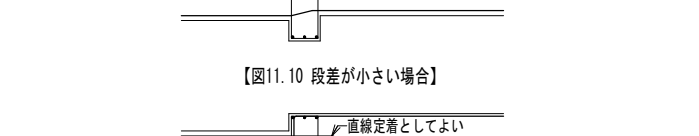
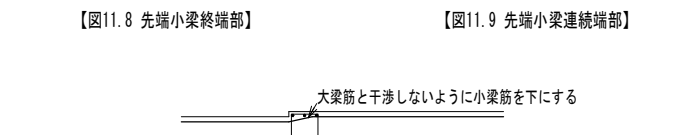
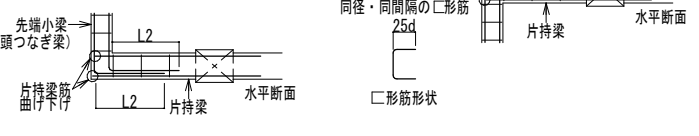
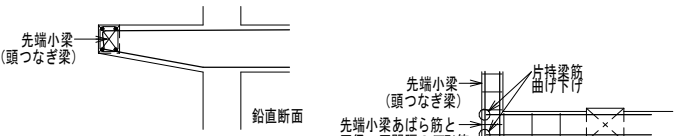
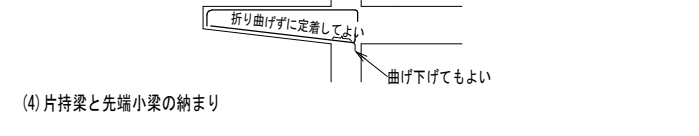
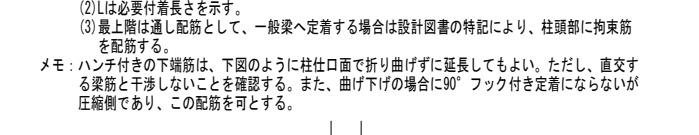
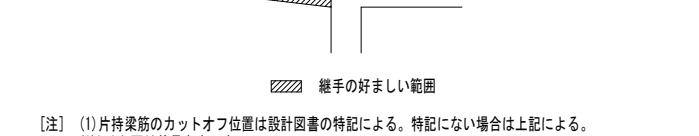
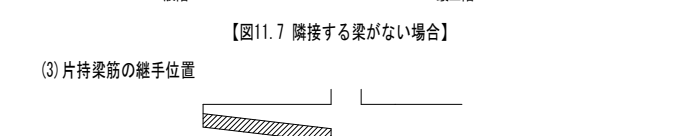
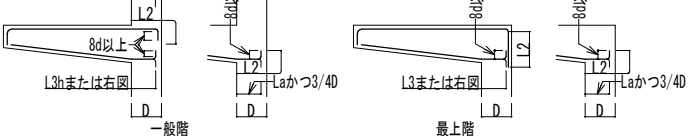
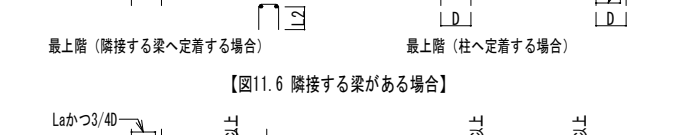
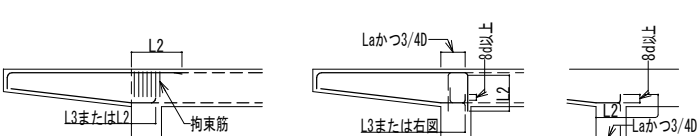
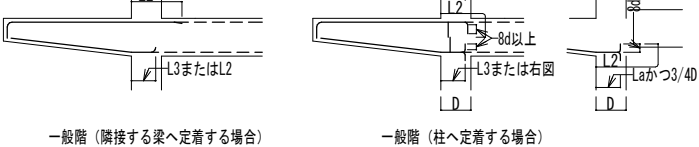
【図11.5 重ね継手】

11.2 片持梁筋

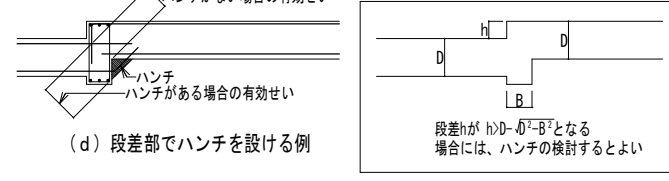
(1) 片持梁元端部・先端部の範囲とカットオフ筋のカット位置



(2) 定着



【図11.12 終端と同じ定着方法として、あばら筋に力の伝達を期待する方法】

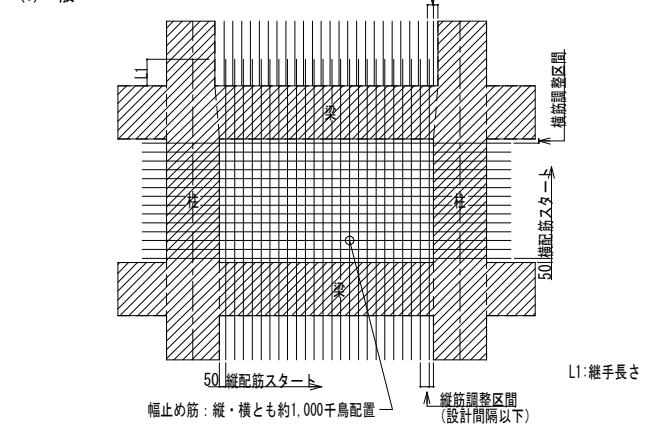


【図11.13 小梁連続端で段差のある場合の定着】

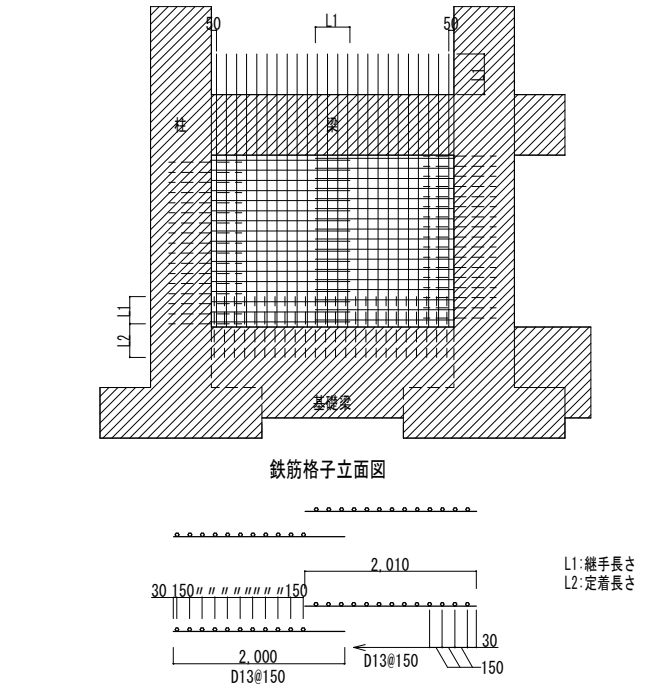
12 壁

12.1 配筋

(1) 一般



(2) 鉄筋格子 (例)



【図12.1 鉄筋格子水平面割付け】

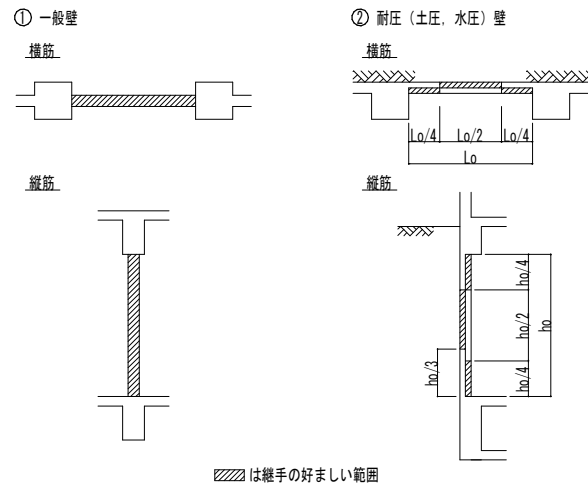
工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時建設施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(5)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-05	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194889号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (6)

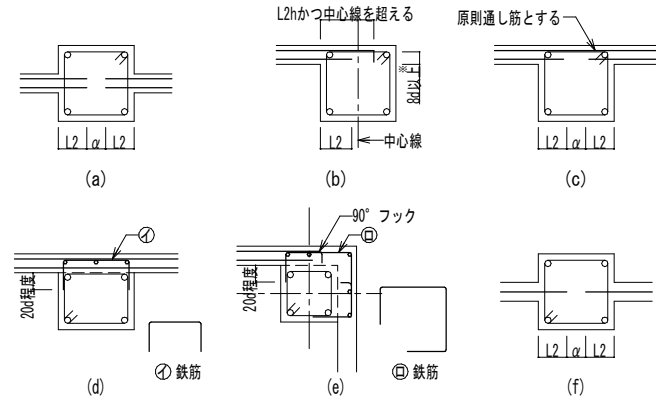
Rev.01

12.2 壁筋の継手位置



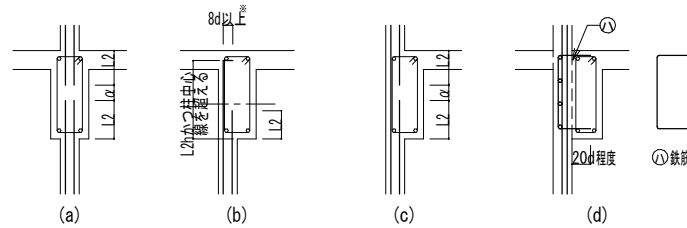
12.3 定着

(1) 柱への定着



- 【注】 (1) a区間の部分は通し配筋でもよい。
 (2) ①、② 鉄筋の径および間隔は設計図書の特記による。
 (3) (d)、(e)は増打ちコンクリートのある非耐力壁の場合、耐力壁の場合は設計図書の特記による。
 (4) (b)で耐力壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長を8dかつ150mm以上とすること(※印)

(2) 梁への定着



- 【注】 (1) a区間の部分は通し配筋でもよい。
 (2) (d)は増打ちコンクリートのある非耐力壁の場合、耐力壁の場合は設計図書の特記による。
 (3) ① 鉄筋の径および間隔は設計図書の特記による。
 (4) (b)で耐力壁の壁筋を定着する場合は、コア内定着長を8dかつ150mm以上とすること(※印)

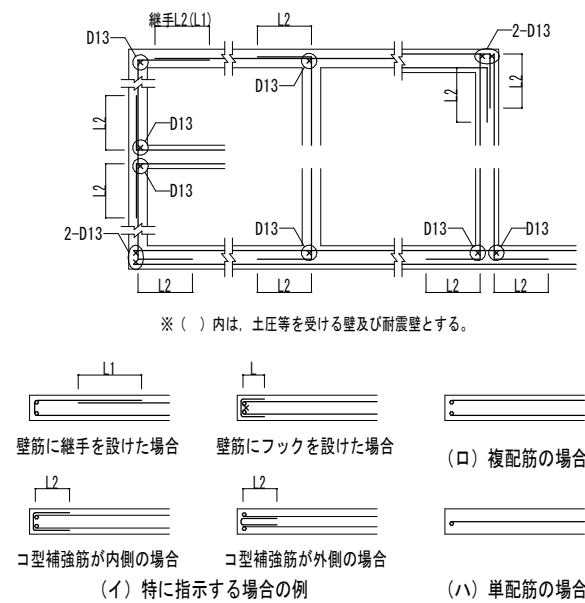
(3) スラブへの定着(非耐力壁とスラブが取り合う場合)



- (a) スラブに上端筋がある場合 (b) スラブに上端筋がない場合

【注】 ①の補強筋は設計図書の特記による、一般に、D10を壁縦筋と同間隔に配筋すればよい。

(4) 壁の交差部



- 1) 鉄筋径および間隔は壁横筋による。
 2) L寸法は構造図による。構造図に記載がない場合は15dとする。
 3) 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

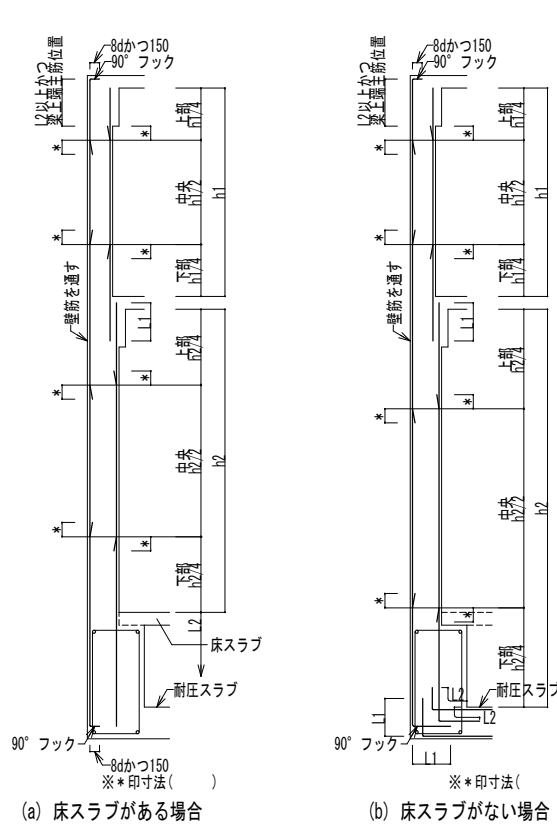
【注】 〇印鉄筋(コーナー筋)は設計図書の特記による。

【図12.2 壁端部の納まり】

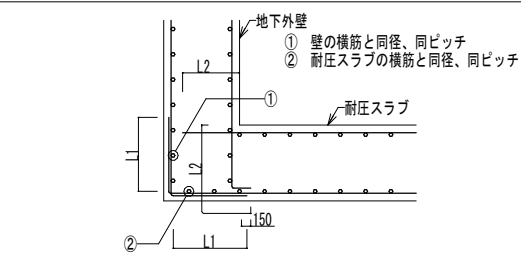
メ モ: 図12.2で設計上、非常に重要な耐力壁の場合には、(イ)の納まりとし、設計図書で支持する、一般の場合は、(ロ)でよい。なお、耐力壁内の比較的小さな開口部のコーナーは(ロ)でよい。ただし、開口部補強は設計図書に別途指示する。

12.4 土圧壁

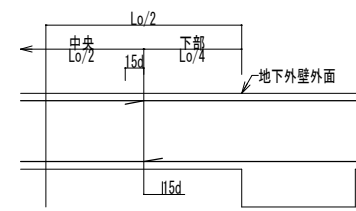
(1) 地下外壁の配筋要領



- 【注】 (1) 地下外壁は縦筋を通すことを原則とする。但し施工上梁内に定着する場合は設計監理者と協議する。
 (2) 地下外壁の壁筋は縦筋を外側に配筋する。
 (3) *印はトップ筋の止め位置を示す。*印の寸法の特記がない場合は15dとする。

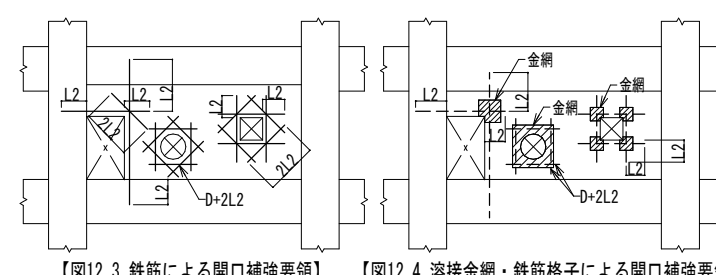


(c) 地下外壁と耐圧スラブとの交差部に基礎梁配筋がない場合

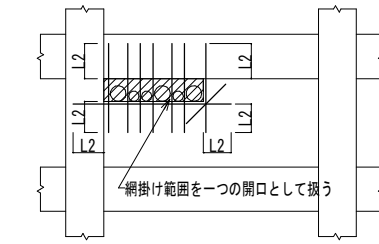


(d) 平面

12.5 開口補強



【図12.3 鉄筋による開口補強要領】 【図12.4 溶接金網・鉄筋格子による開口補強要領】

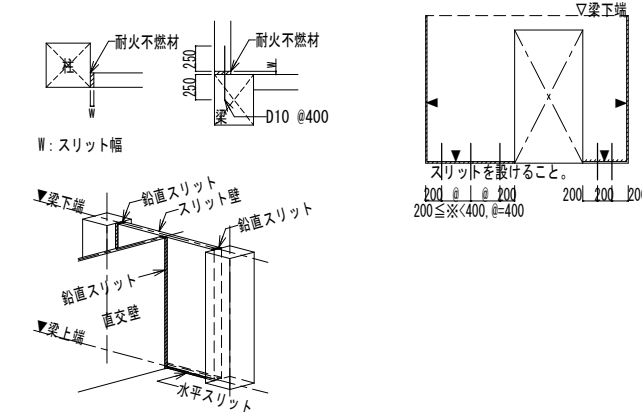


【図12.5 小開口が密集している場合の開口補強要領】

メ モ: 開口部の補強筋は設計図書の特記による。

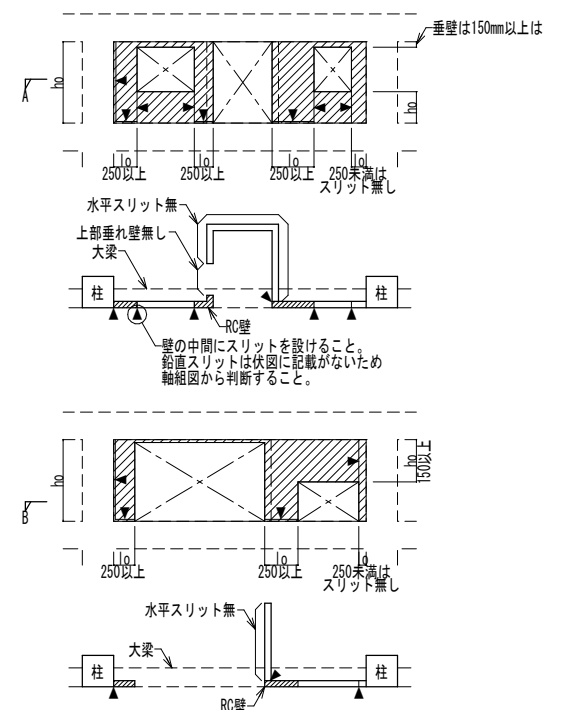
12.6 構造スリット

- 構造スリットは完全スリット型とし、使用製品については設計監理の承認を受ける。
- 構造スリットに使用する耐火材は、ISO 834-1に従った必要な耐火性能試験を実施したものを使用する。
- スリット鉄筋(つなぎ筋)の材質は、エポキシ樹脂鉄筋または錆止め塗装鉄筋とする。
- 住戸間界壁に用いる構造スリットは、日本住宅性能表示基準の「(界壁)の投下損失等級」の等級4(Rr-55)同等以上のスリットとする。
- 構造スリット位置は伏図、軸組図による。
- 長さが250mm以上の袖壁が取り付く場合にはスリットを設け、250mm未満は不要とすることができる。
- 腰壁・垂壁部分の開口際に沿った位置にスリットを設ける。
- スリット壁に取り付く直交壁は鉛直スリットを設ける。
- 鉛直スリットの幅は、W=25mm かつ 鉛直長さh_o/100 以上とする。
- 水平スリットの長さが250mm以上の方立壁の下端に設ける。
- 水平スリットの幅は、W=25mm とする。
- 階段スリットの幅は、W=25mm かつ 水平長さL/100以上とする。



①鉛直・水平スリット設置要領(出窓・花台等は別図による)

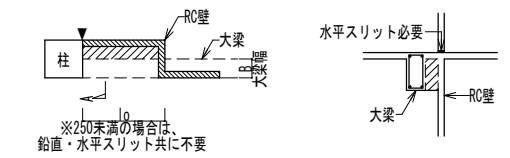
- (注1) 非耐力壁の構造壁は下記のように設置すること。
 (注2) 斜線部分は水平スリット設置位置を示す。



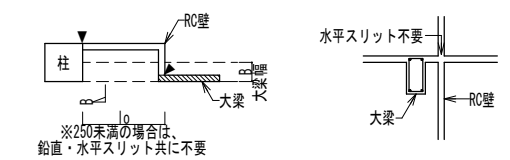
②大梁直下でない梁と平行な壁の構造スリット配置について

- (注1) 斜線部分は水平スリット設置位置を示す。

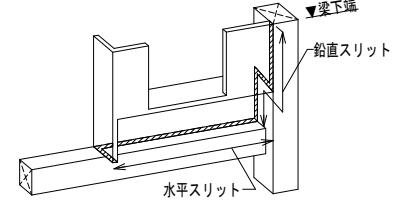
②-1 斜線部分を梁フカシとする場合



②-2 梁フカシしない場合

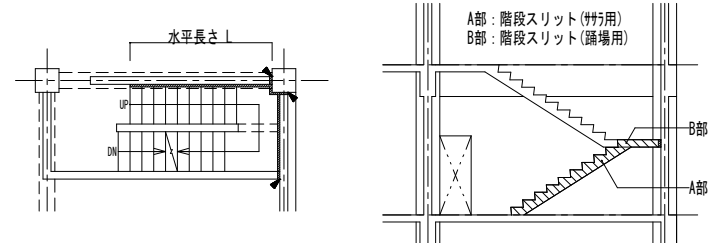


③花台タイプ スリット設置要領



③階段スリット設置要領

※使用の有無は設計図書に特記が無い場合は適用しない。



工事名称	与那国町複合庁舎 及び 特定臨時建設施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(6)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-06	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (7)

Rev.01

12.7 コンクリートブロック帳壁

ブロック帳壁は地盤面より20mを超える外壁部分に用いてはならない。(有孔ブロック、花ブロックも同様)
コンクリートブロックは原則「C種」を用いる。

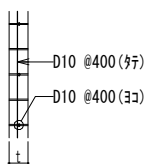
(1) 壁厚さ

【表12.1 壁厚さ】

帳壁の種類	壁厚(mm)	
	図12.6 (a)の場合	図12.6 (b)の場合
間仕切壁	120 ^{※1} 、かつ、L/25	120、かつ、L/11
外壁	地盤面からの高さ10m以下の部分 120、かつ、L/25	120、かつ、L/11

(注) 1. 地盤面からの高さ10m以下の部分にあっては100とすることができる。
2. Lは主要支間距離、L2はブロック積み部分の持ち出し長さを表す。

(2) 配筋

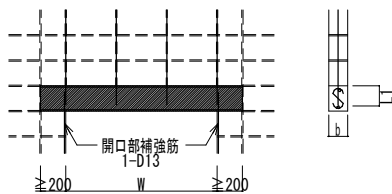


特記の無い場合、左図に示す配筋とする。
t: コンクリートブロックの厚さ (t=120~180)
梁・スラブへの定着は35d以上とする。

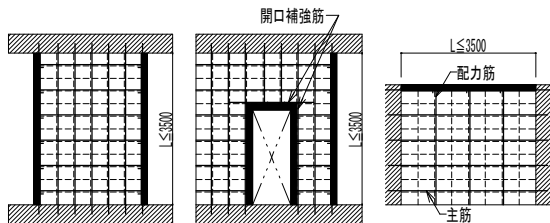
(2) 開口補強

【表12.1 開口補強】

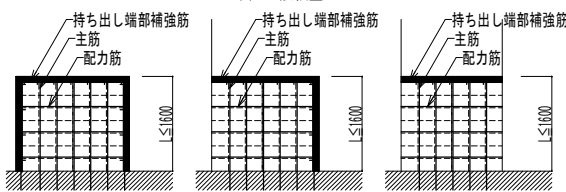
W	まぐさのせい	上筋	下筋	スターラップ
W ≤ 1,000	200	1-D13	1-D13	D10 @ 200
1,000 < W ≤ 2,000	400	1-D13	1-D13	D10 @ 200



b: ブロック厚以上
スターラップフックは180°



(イ) 上下の部材に支持される帳壁 (ロ) 上下の部材に支持される有開口帳壁 (ハ) 左右の部材に支持される帳壁

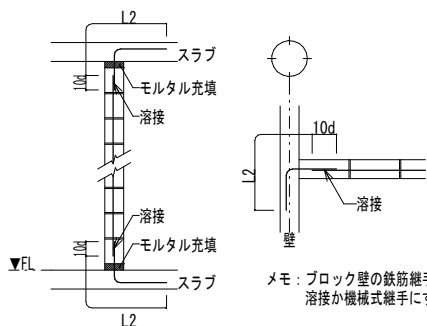


(イ) 一辺で支持される帳壁 (ロ) 一辺で支持される帳壁 (ハ) 一辺で支持される帳壁

(b) 小壁帳壁

メモ: 持ち出し端部補強筋及び開口補強筋等は鉄筋径D13以上とすること。
補強筋等の定着長さは主要支持辺へL1以上定着とし、他はL2以上とする。

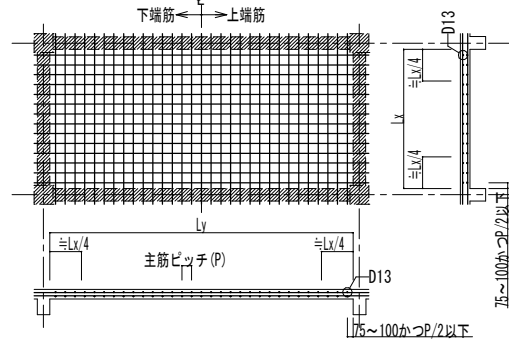
【図12.6 ブロック帳壁の種類・鉄筋名称・主要支間・主要支持辺等】



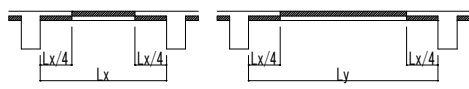
メモ: ブロック壁の鉄筋継手に好ましくないため、溶接か機械式継手とすること。

13 スラブ

13.1 配筋

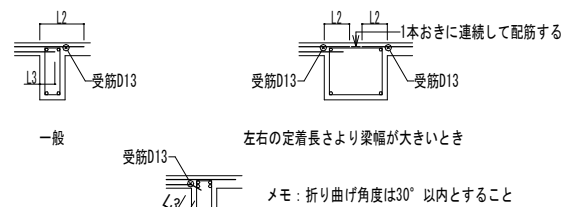


13.2 継手位置

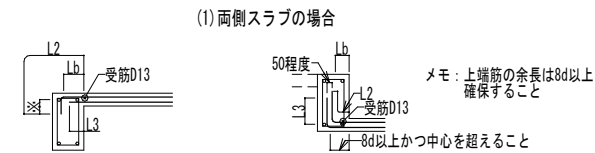


(注) 継手位置の範囲。梁幅内には継手を設けず、梁内法間を1本の鉄筋を通し配筋とするか、あるいは梁端から定着する。スラブ内法が小さい場合はスラブ筋を隣接するスラブに通して配筋してよい。片持スラブ筋は片持部分で継いでならない。

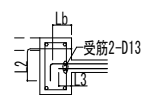
13.3 定着



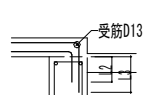
梁の主筋が2段筋であり、スラブの下端筋が干渉する場合



(2) 片側スラブの場合



(3) 逆スラブの場合

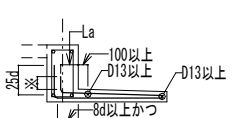


(4) 梁の中間にスラブ取り付く場合

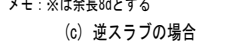
13.4 片持ちスラブ



(a) 隣接スラブと同レベルの場合



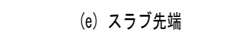
(b) 梁の中間にスラブが付く場合



(c) 逆スラブの場合



(d) 壁や幅の狭い梁に付く場合

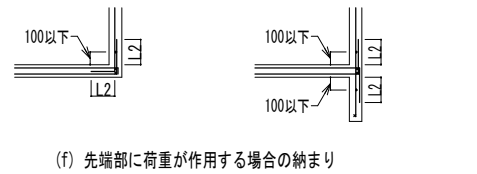


(e) スラブ先端



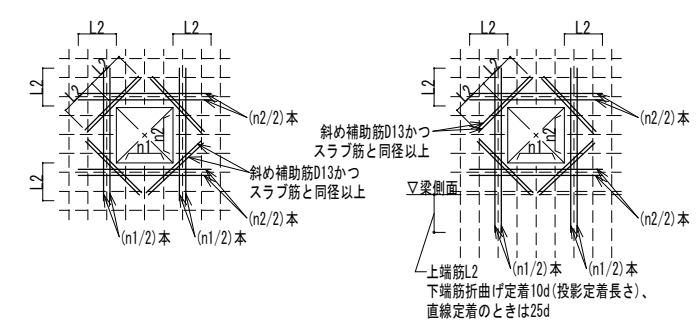
メモ: 段差が生じたスラブ筋は折り曲げて引き通さず、それぞれ梁内に定着させること

Lはスラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。



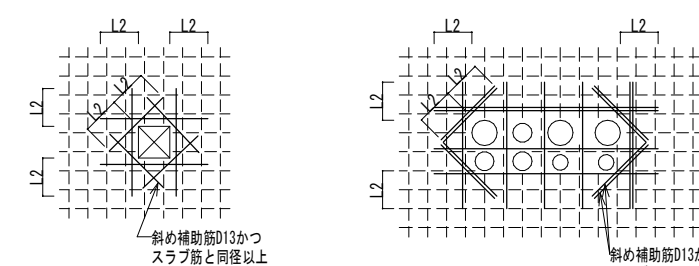
(f) 先端部に荷重が作用する場合の納まり

13.5 開口補強



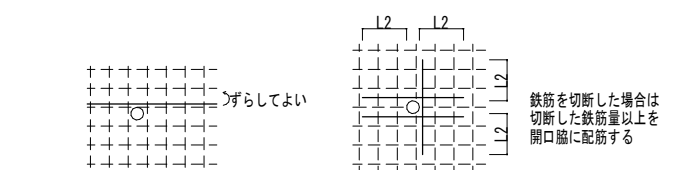
(a) 開口の最大径が700mm程度以下の例

(b) 片持ちスラブの開口補強の例



(c) 開口の最大径が300mm程度以下の例

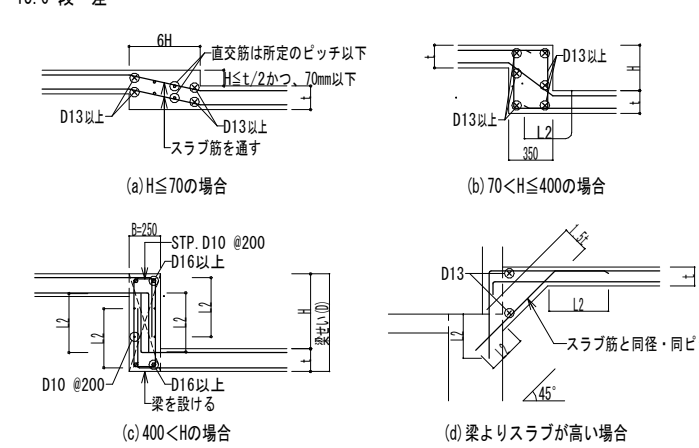
(d) 小開口を連続して設けた例



(e) 単独円形小開口の例

【注】 (1) 開口によって切断される鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強する(上下筋とも)。
(2) 補強筋は鉄筋の間隔を50mm程度あけて配筋する。
(3) 斜め補助筋は上下筋の内側に配筋する。
(4) 開口が梁に接している場合は、補強筋の定着長さは梁面からの長さとする。

13.6 段差



(a) H ≤ 70の場合

(b) 70 < H ≤ 400の場合

(c) 400 < Hの場合

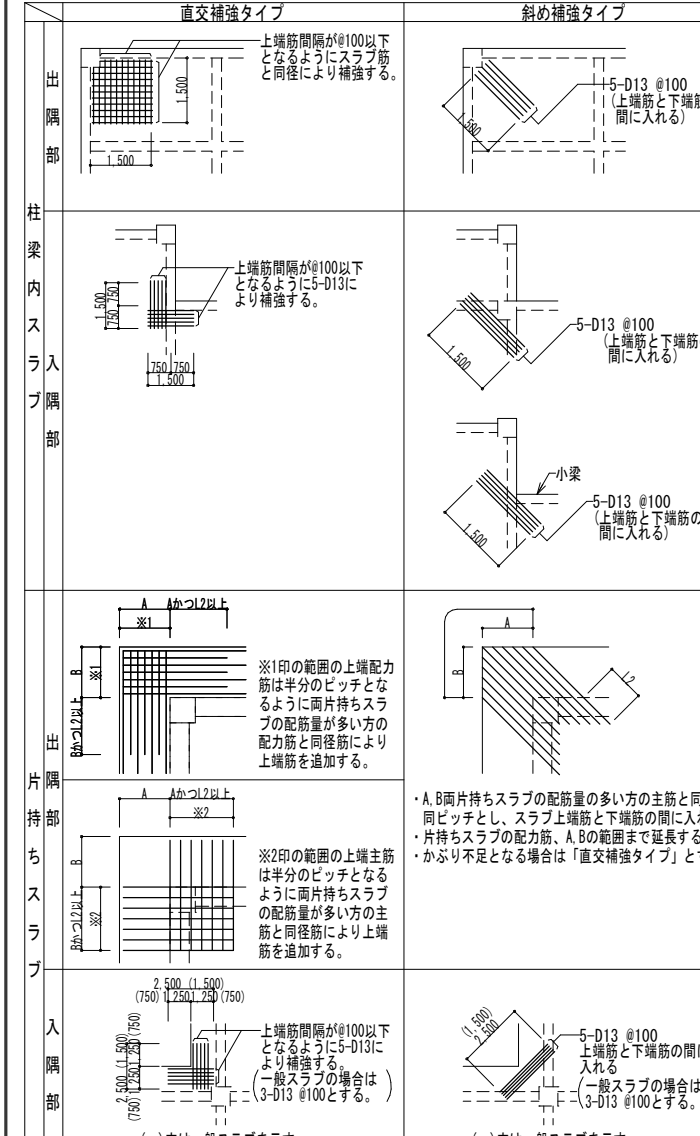
(d) 梁よりスラブが高い場合

スラブ上筋と同サイズ同ピッチ・逆U字型

(E) A ≥ 2tの場合

13.7 屋根スラブの補強

(1) 構造図面に特記がない場合は下図による。
(2) 構造特記仕様書(2) 5.7節「各部配筋」にて選択した配筋で納まりが悪い場合は、設計監理者と協議の上、変更しても良い。(例) 斜め補強タイプから直交補強タイプへ変更など。



工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町宇那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(7)	登録番号	一般建築士 (大田)登録第235341号 一般建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-07	登録番号	一般建築士 (大田)登録第235341号 一般建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一般建築士 (大田)登録第194989号 一般建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

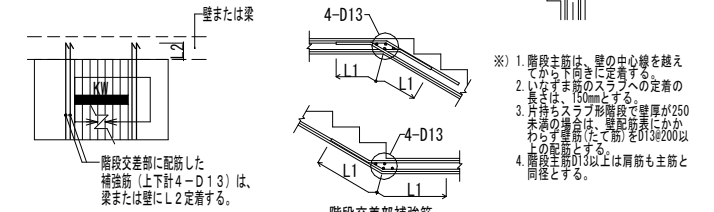
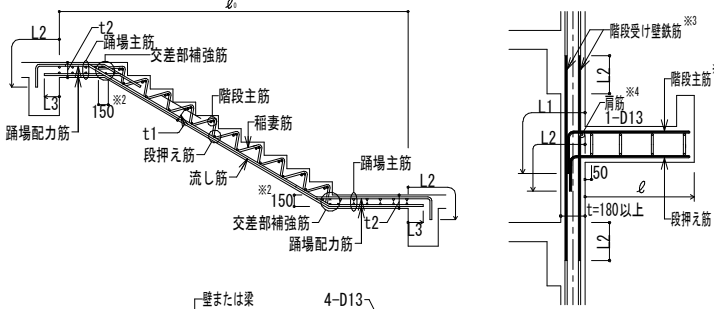
※()はA3版の縮尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (8)

Rev.00

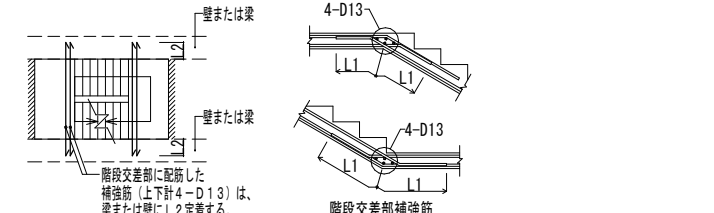
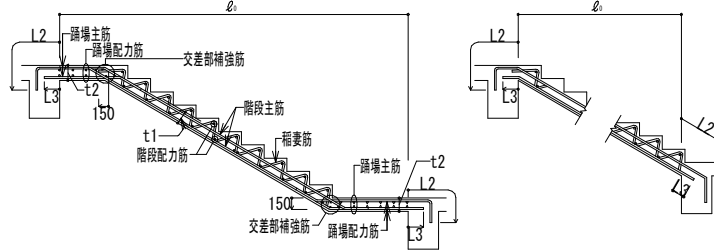
1.4 階段

14.1 片持階段 (KK=KATAMUCHI KAIKAN)



階段符号	厚さ t1	厚さ t2	階段主筋	階段配力筋	階段差部補強筋	階段差部補強筋	階段差部補強筋	片持長さ ℓ
KK1	150	150	2-D13	D13	D10 @200	D10 @200	D13 @200	ℓ ≤ 1500 ℓ = 1500

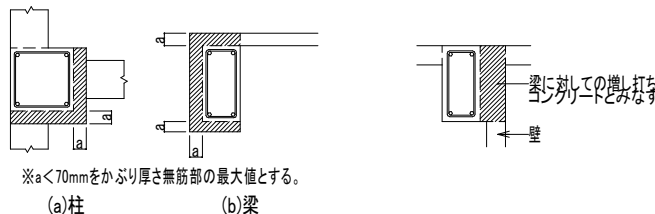
14.2 スラブ階段 (SK=SULABU KAIKAN)



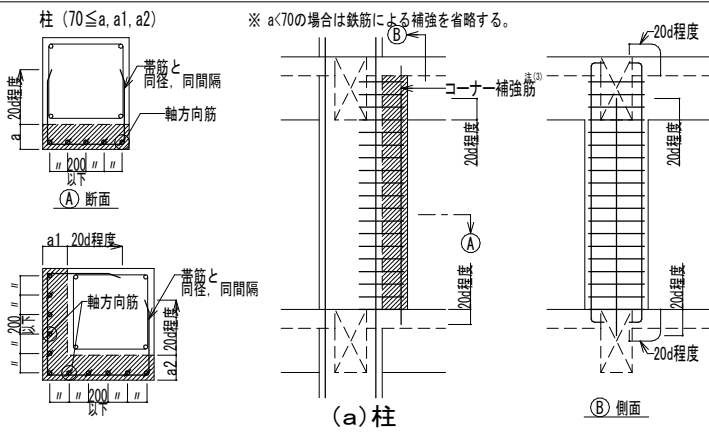
階段符号	厚さ t1	厚さ t2	階段主筋	階段配力筋	階段差部補強筋	階段差部補強筋	階段差部補強筋	備考
SK1	200	150	D13 @200	D13	D10 @200	D13 @200	D10 @200	

1.5 柱・梁の増打ちコンクリート

- 構造図に記載のない増打ちを行う場合は事前に監理者と協議すること。
 - 柱・梁の増打ち部に耐力壁が取り付く場合の増打ち配筋要領は構造図による。
 - 増打ち寸法 a, a1, a2 が 70mm 未満の場合は補強筋不要とする。
- 増打ち寸法 a, a1, a2 が 70mm ≤ a ≤ 200mm の場合の増打ち部補強要領は図 15.1、図 15.2 による。
- 増打ち寸法 a, a1, a2 が 200mm を超える場合の増打ち部詳細事項は構造図による。



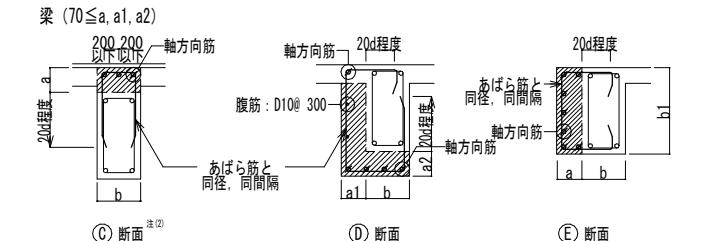
【図 15.1 かぶり厚さ無筋部の最大値(単位:mm)】 【図 15.2 梁・壁の増打ち】



【表 15.1 柱の増打ちコンクリートの補強筋】
柱 軸方向筋 増打ちコンクリート断面の 0.8% 以上、かつ D16 以上、鉄筋間隔 200 以下とする。(下表参照)
帯筋 実断面の帯筋と同径、同間隔とする。

- 増打ち部に構造耐力上主要な耐力壁などが取り付く場合は設計図書に特記する。
- 梁断面内へ定着できる場合は定着長さ L2 以上とし、スラブ定着の場合は 20d 以上定着すること。
- コーナー補強筋は軸方向筋の隅角部に位置する鉄筋を示す。

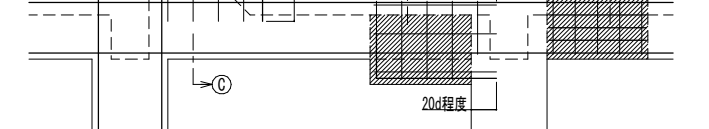
【図 15.3 柱の増打ちコンクリート補強筋要領図】



【表 15.2 増打ちコンクリートの補強筋】
梁 軸方向筋 増打ちコンクリート断面の 0.4% 以上、かつ D16 以上、鉄筋間隔 200 以下とする。(下表参照)
あばら筋 実断面のあばら筋と同径、同間隔とする。

- 増打ち部に構造耐力上主要な耐力壁などが取り付く場合は設計図書に特記する。
- 下部増打ちも上部増打ちと同様な配筋とする。

【図 15.4 梁の増打ちコンクリート補強筋要領図】



【表 15.2 増打ちコンクリートの補強筋】
柱 軸方向筋 増打ちコンクリート断面の 0.8% 以上、かつ D16 以上、鉄筋間隔 200 以下とする。(下表参照)
帯筋 実断面の帯筋と同径、同間隔とする。

- 増打ち部に構造耐力上主要な耐力壁などが取り付く場合は設計図書に特記する。
- 下部増打ちも上部増打ちと同様な配筋とする。

【図 15.4 梁の増打ちコンクリート補強筋要領図】

軸方向筋算定表

増打ち打ちの場合	70 < a ≤ 200 の場合				200 < a ≤ 300 の場合				300 < a ≤ 400 の場合				400 < a ≤ 500 の場合			
	D16	D19	D22	D25	D16	D19	D22	D25	D16	D19	D22	D25	D16	D19	D22	D25
b ≤ 450	4	-	-	-	6	4	3	-	6	4	3	-	6	4	3	-
450 < b ≤ 600	5	5	-	-	7	5	4	-	7	5	4	-	7	5	4	-
600 < b ≤ 850	7	6	-	-	8	6	5	-	8	6	5	-	8	6	5	-
850 < b ≤ 950	8	6	-	-	9	7	5	-	9	7	5	-	9	7	5	-
950 < b ≤ 1,000	9	6	-	-	10	7	5	-	10	7	5	-	10	7	5	-

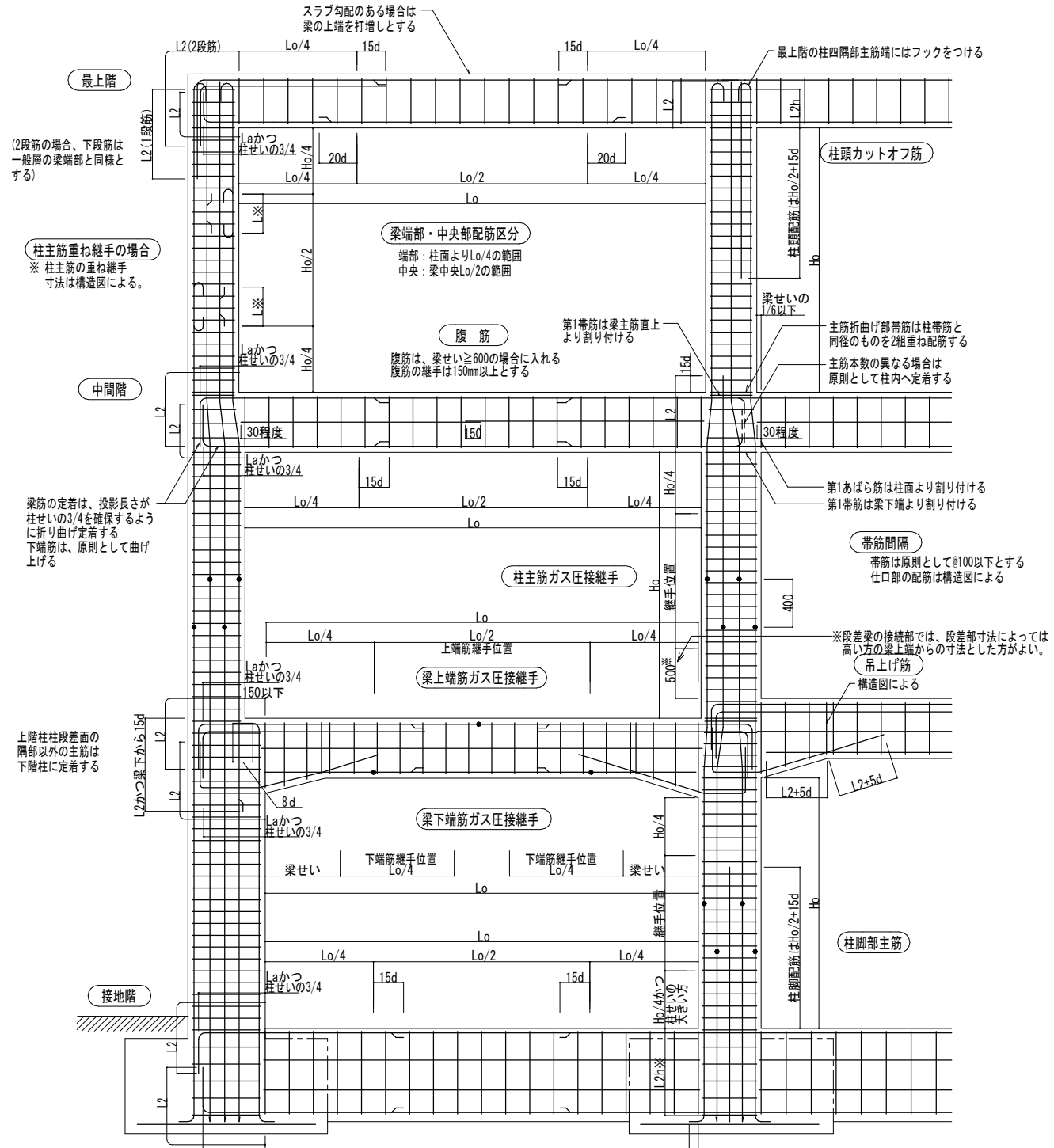
増打ち打ちの場合(地中梁も含む)

増打ち打ちの場合	70 < a ≤ 200 の場合				200 < a ≤ 300 の場合				300 < a ≤ 400 の場合				400 < a ≤ 500 の場合			
	D16	D19	D22	D25	D16	D19	D22	D25	D16	D19	D22	D25	D16	D19	D22	D25
b, b1 ≤ 450	3	-	-	-	4	3	3	-	4	3	3	-	4	3	3	-
450 < b, b1 ≤ 600	3	-	-	-	4	3	3	-	4	3	3	-	4	3	3	-
600 < b, b1 ≤ 750	4	-	-	-	5	4	3	-	5	4	3	-	5	4	3	-
750 < b, b1 ≤ 900	5	-	-	-	6	5	4	-	6	5	4	-	6	5	4	-
900 < b, b1 ≤ 1,000	5	-	-	-	7	5	4	-	7	5	4	-	7	5	4	-

- 上部表内の算定本数は参考とし、配筋間隔が広がる場合(≧200)は、任意で本数を追加し、所定の間隔を保つこと。配筋の際は事前に設計監理者に確認を得ること。
- 梁側面増打ちの場合は増打ち内に位置する腹筋も軸方向筋に含めてよい。

1.6 柱梁配筋概要図

- 本図は 7~10 に示す規定をラメン形に集約したものである。
- 最上階大梁は中央カットオフ筋、中間階大梁は端部カットオフ筋、基礎梁は端部カットオフ筋(タイプ C)の配筋を示す。
- 柱梁接合部に機械式定着工法を適用する場合、各機械式定着工法に定める規定を満足すること。



【図 16.1 柱梁配筋概要図】

工事名称	与那国町総合庁舎 及び 特定臨時建設施設新築工事(建築)	工事年度	令和 8 年度
工事場所	与那国町 与那国 854 番地 1	名称	(株) 国建 (株) 総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(8)	登録番号	一級建築士 (大田) 登録第 235341 号 一級建築士事務所(建築) 登録第 144-71 号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-08	登録番号	一級建築士 (大田) 登録第 235341 号 一級建築士事務所(建築) 登録第 144-71 号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	所在地	一級建築士 (大田) 登録第 194989 号 一級建築士事務所(建築) 登録第 144-71 号 那覇市久茂地 1 丁目 2 番 20 号
		電話番号	098-862-1106

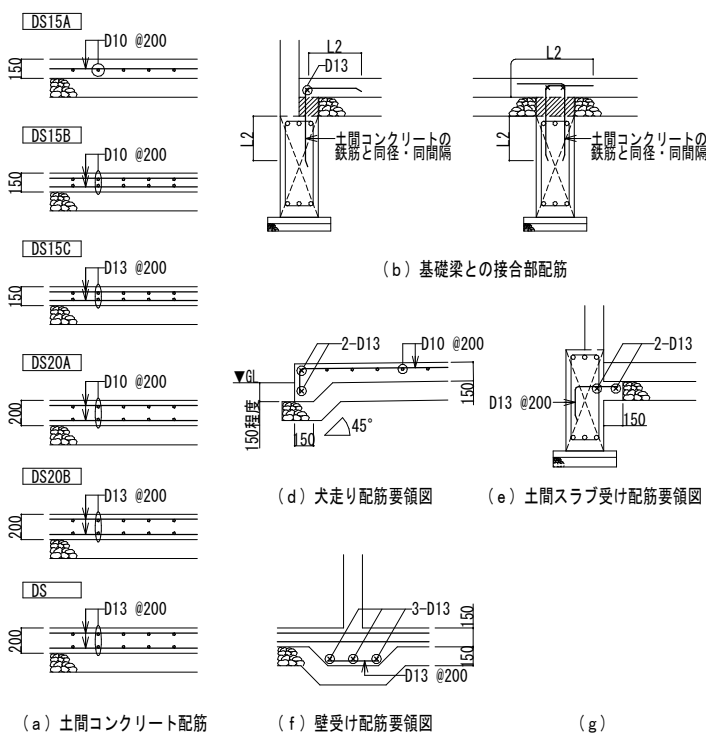
※() は A3 版の縮尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (9)

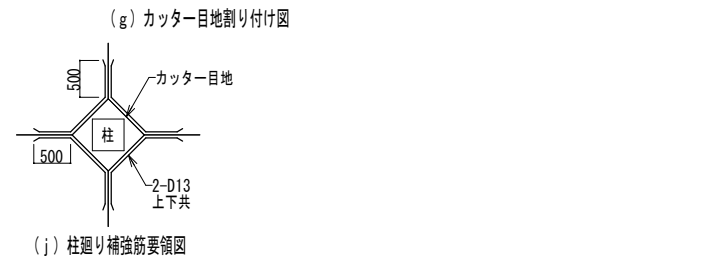
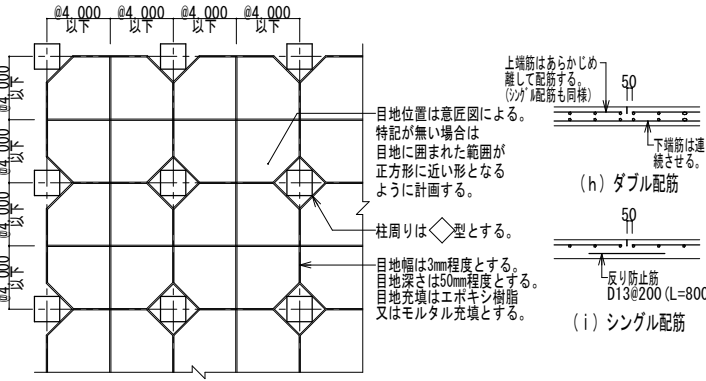
Rev.00

17 標準詳細図

17.1 土間コンクリート



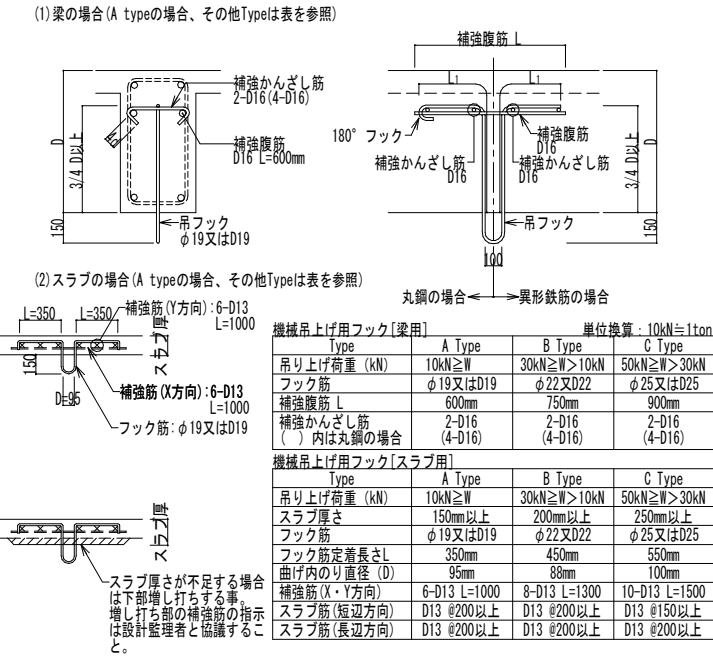
※ひび割れ防止のためカッター目地を設ける。配筋工事着手前に目地位置を決定し、設計監理者の承認を得る。



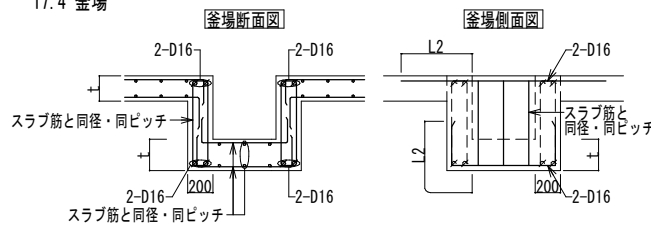
・W, H, その他寸法は意匠図参照とする。
 ・屋根の片持ち長さ(L)は1.0以下とすること。
 ・屋根は重量物を載せないこと。
 ・構造図に特記がある場合は構造図を優先させる。

17.3 吊りフック

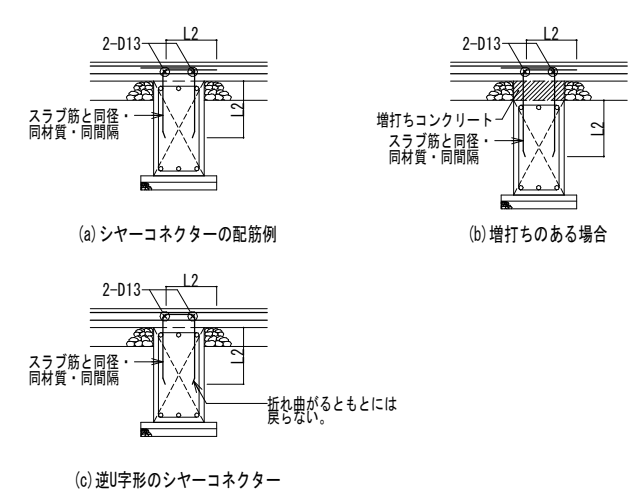
※露出する吊りフック部は防錆処理を施すこと。



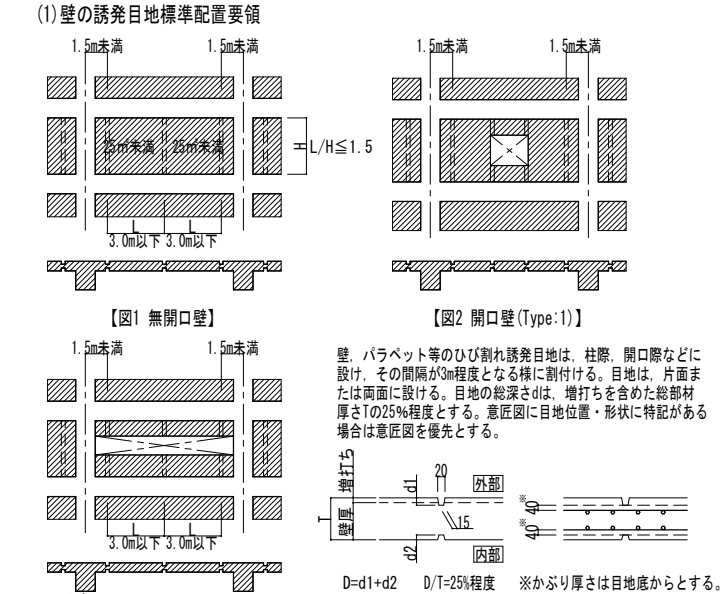
17.4 釜場



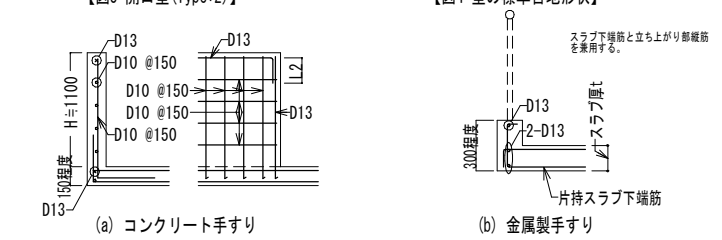
17.5 シヤーコネクター (置スラブと基礎梁のシヤーコネクター)



17.6 コンクリート誘発目地配置要領

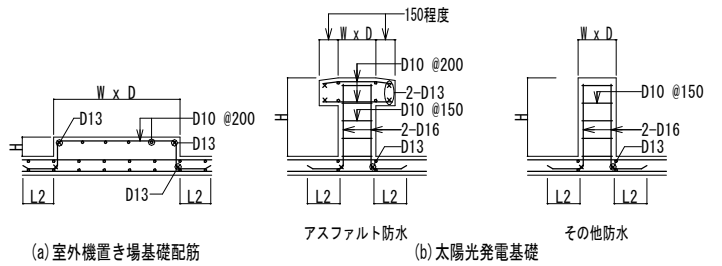


17.6 手すり

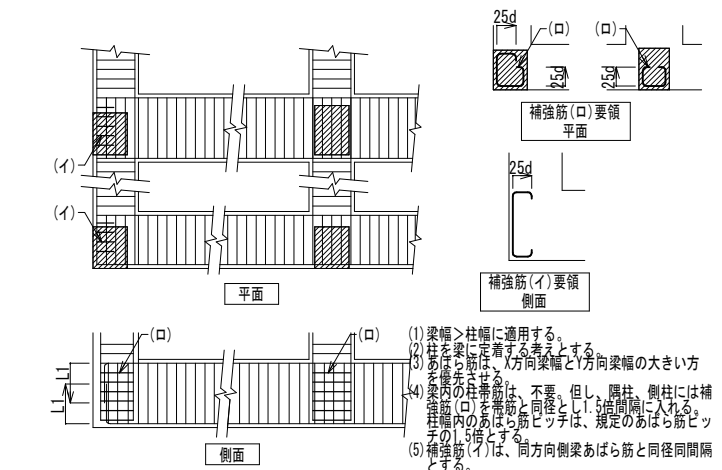


17.7 機械基礎

・W, D, Hは意匠図参照とする。

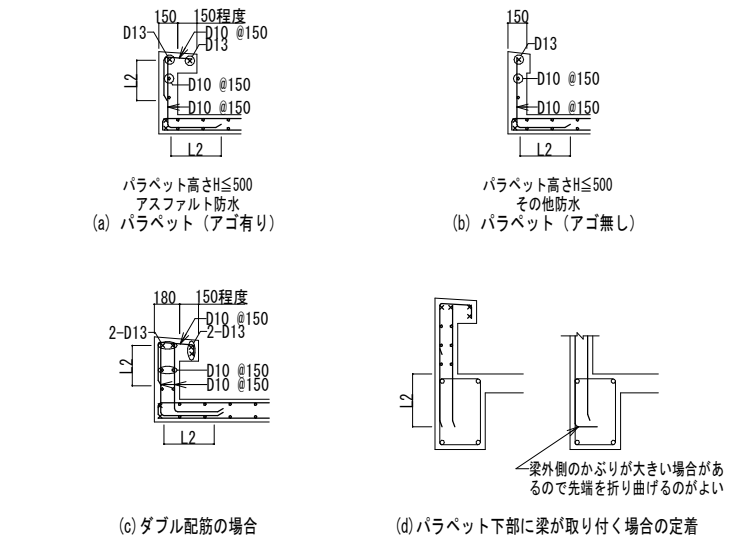


17.8 柱幅が梁幅よりも小さい場合の補強要領

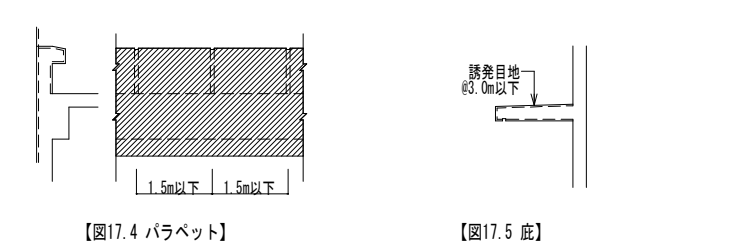


(1) 梁幅 > 柱幅に適用する。
 (2) 柱を梁に定着する要領とする。
 (3) 梁筋は、X方向梁幅とY方向梁幅の大きい方を基準とする。
 (4) 梁内の柱筋は、不要。但し、隅柱、側柱には補強筋(□)を補強筋と同径とし、増間隔に入れる。柱幅内のあはら筋ピッチは、規定のあはら筋ピッチの1.5倍とする。
 (5) 補強筋(イ)は、同方向側梁あはら筋と同径同間隔とする。

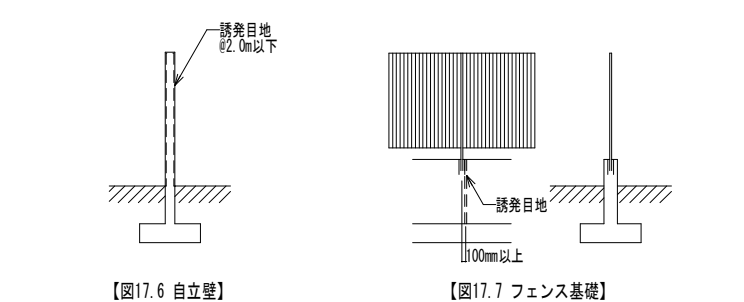
17.9 パラベット



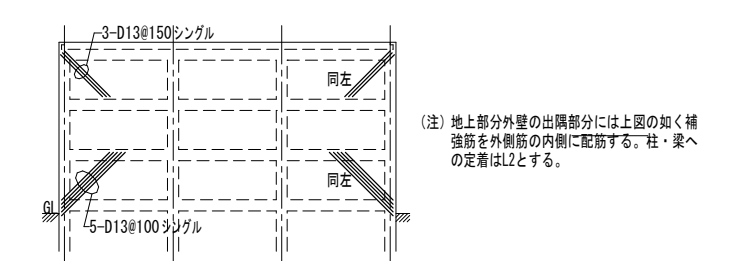
17.10 パラベット・庇の誘発目地配置要領図



17.11 自立壁及びフェンス基礎



17.12 ひび割れ防止のための鉄筋による補強 (外壁補強配筋)



工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町宇与那国854番地1	名称	(株) 藤建・(株) 総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(9)	登録番号	一級建築士 (大田) 登録第235341号 一級建築士事務所(建築) 登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-09	登録番号	一級建築士 (大田) 登録第235341号 一級建築士事務所(建築) 登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	所在地	一級建築士 (大田) 登録第194989号 一級建築士事務所(建築) 登録第132-1823号 那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (10)

Rev.00

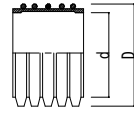
18 躯体内埋込み配管等の補強及び配管要領

(1) CD管・PF管の管外径

CD管およびPF管の外径を表に示す。外径に留意し、埋設する躯体の厚さ、あき等を検討することが必要である。

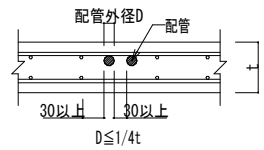
【表18.1 CD管、PF管の内径と外径の関係】

呼称	外径 D (mm)	
内径 d (mm)	CD管	PF管
14	19	22
16	21	23
22	28	31
28	34	37

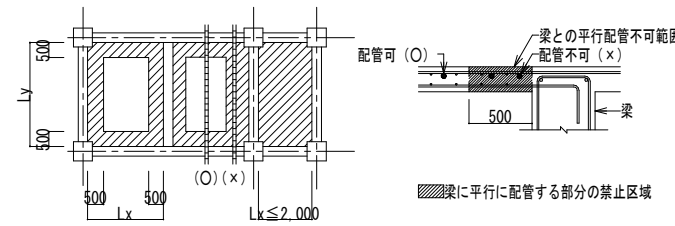
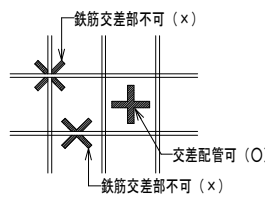


(2) 床・屋根スラブへの埋込み

- 1) 屋根スラブには、ひび割れによる漏水を防止する意味から埋込み配管は行わない方が望ましい。やむをえず打ち込む場合は溶接金網による補強筋を入れてひび割れ防止に努める。
- 2) 埋設する配管の外径は、スラブの有効厚さの1/4以下とすることが望ましい。
- 3) 配管と平行する鉄筋とのあきは図のように30mm以上とする。
- 4) 梁の近傍で、梁と平行に配管する場合は、図のように梁より500mm以上離す。
- 5) 配管は、鉄筋の内側に配管し、原則として上端筋直下で1m間隔程度で結束する。また、アウトレットボックスや配管継手部では結束間隔を30cm程度とし、直近の上端筋に結束する。上端筋に結束できない場合は、支持金物により固定する。
- 6) 交差配管は図のようにスラブ筋の交差部を避けた位置で、1段交差までとする。



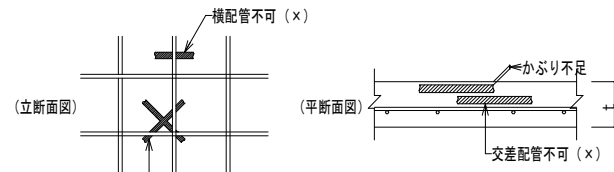
【図18.1 配管と平行する鉄筋とのあき】



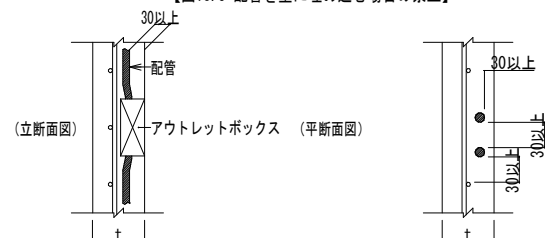
【図18.2 梁ぎわ配管の禁止位置】

(3) 壁への埋込み

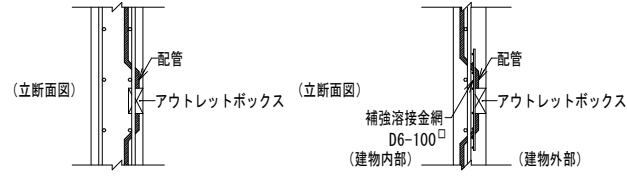
- 1) 耐震壁・地下の外壁（ドライエリア壁を含む）への埋込み配管は絶対行わない。
- 2) ひび割れによる漏水を防止するために、原則として外壁には配管の埋設は行わない。ただし、やむをえず打ち込む場合は構造担当者の承認を受け下記のいずれかの処理を行う。配管の外径は壁厚の1/5以下とする。
- 3) 一般壁への埋込み配管の外径は壁厚の1/4以下とする。
- 4) 配管は、縦配管のみとし、横渡り配管および交差配管は行わない。また、配管長さは最小になるように配置する。
- 5) 配管相互のあきおよび配管のコンクリートのかぶり厚は、30mm以上とする。ただしアウトレット廻りは除く。
- 6) ダブル配筋壁の場合は、アウトレットボックス廻りを除き、内外の鉄筋間に配置する。
- 7) 外壁シングル配筋壁の場合は、アウトレットボックス廻りを溶接金網等で補強することが望ましい。また、アウトレット部分を除き、配管位置は建物内部側とする。
- 8) アウトレットボックスは壁の両側の同じ位置に設けることは避ける。



【図18.3 配管を壁に埋め込む場合の禁止】



【図18.4 配管相互のあきとかぶり】

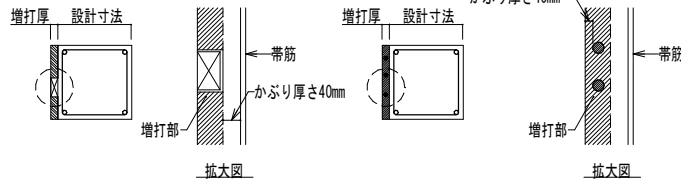


【図18.5 ダブル配筋壁の場合の配管】

【図18.6 シングル配筋壁の場合の配管】

(4) 柱への埋め込み

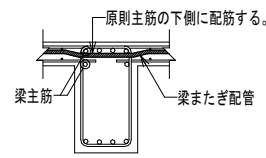
- 1) 柱断面内への埋め込み配管は絶対に行わない。意匠設計者に相談し仕上げ（部材剛性が変わらない仕上げ）で配管等を目隠しする方法を優先して提案すること。ただし、やむをえず打ち込む場合は、構造設計者に承認を得て躯体を増打し、増打断面内に配管及びアウトレットボックスを納めることとする。また、増打断面に対して適切に補強筋を配筋すること。



増打厚はコンセント深さと同じ厚さとする。ただし、仕上げ無しの場合は+10mmとする。

(5) 梁への埋め込み

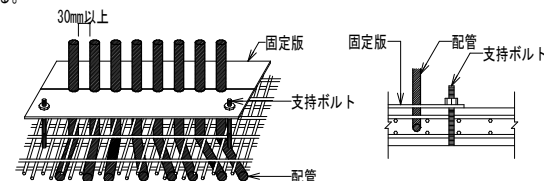
- 1) 梁スラブレベルでの梁のまたぎ配管は、梁に直交するように配管する。また、平面上柱面から、1m以上離し、配管相互のあきを50mm以上確保する。



【図18.7 梁またぎ配管の場合】

(6) EPS等配管が集中する部分

EPS廻りは配管が集中するため、配管の本数・ピッチを考慮してEPSの大きさ、スラブ厚さを計画する必要がある。また、配管立上り部の精度確保のため、固定ジグを設けて支持する。配管同士のあきが確保できない集中配管や、梁上端に集中する配管は避けるべきである。

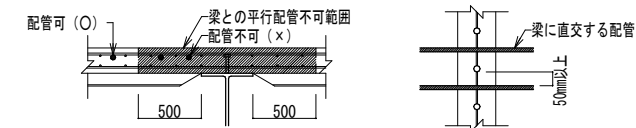


【図18.8 配管の固定】

(7) スラブ工法による埋込み

フラットデッキスラブ他共通

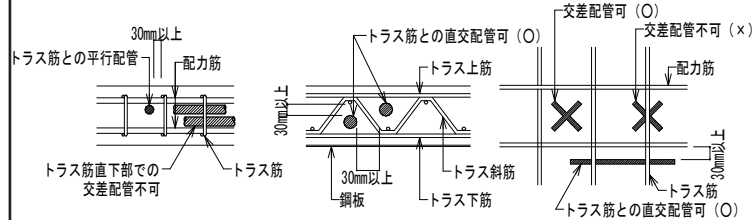
- 1) 鉄骨梁上のスタッドジベル部分で、梁に直交する配管とスタッドジベルのあきは、50mm以上とする。また、梁に平行する配管はフランジ面から500mm以上離す。また、スラブ筋の交差部での配管の交差は避ける。



【図18.9 配筋とスタッドジベルのあき】

トラス組込みデッキスラブ

- 1) トラスの上端筋、下端筋に添わせて配管しない。
- 2) トラス筋に平行して配管する場合はトラス筋上下筋とのあきを30mm以上とする。
- 3) トラスに直交して配管する場合はトラス斜筋の間に配管する。
- 4) 交差配管はトラス筋を避けた位置で1段重ねまでとする。

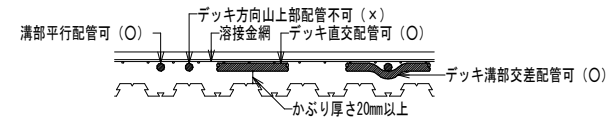


【図18.10 配管とトラス上下筋のあき】 【図18.11 トラスに直交して配管する場合】 【図18.12 交差配管の場合】

合成デッキスラブ

合成スラブは原則としてセルラーデッキ等とし、埋込み配管は行わない。やむをえず埋込む場合は図のように配管する。

- 1) デッキ方向に平行な配管および交差配管（1段交差まで）はデッキ溝部に限る。
- 2) 埋設可能な配管の最大外径は、デッキ山高さの1/4以下とする。
- 3) 配管下端とデッキのあきは、交差配管部を除き20mm以上とする。
- 4) 配管は溶接金網の直下で結束支持する。
- 5) 鉄骨梁上部、梁際には配管しない。



【図18.13 合成スラブへの配管】

工事名称	与那国町庁舎庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(10)	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	共-10	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第132-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

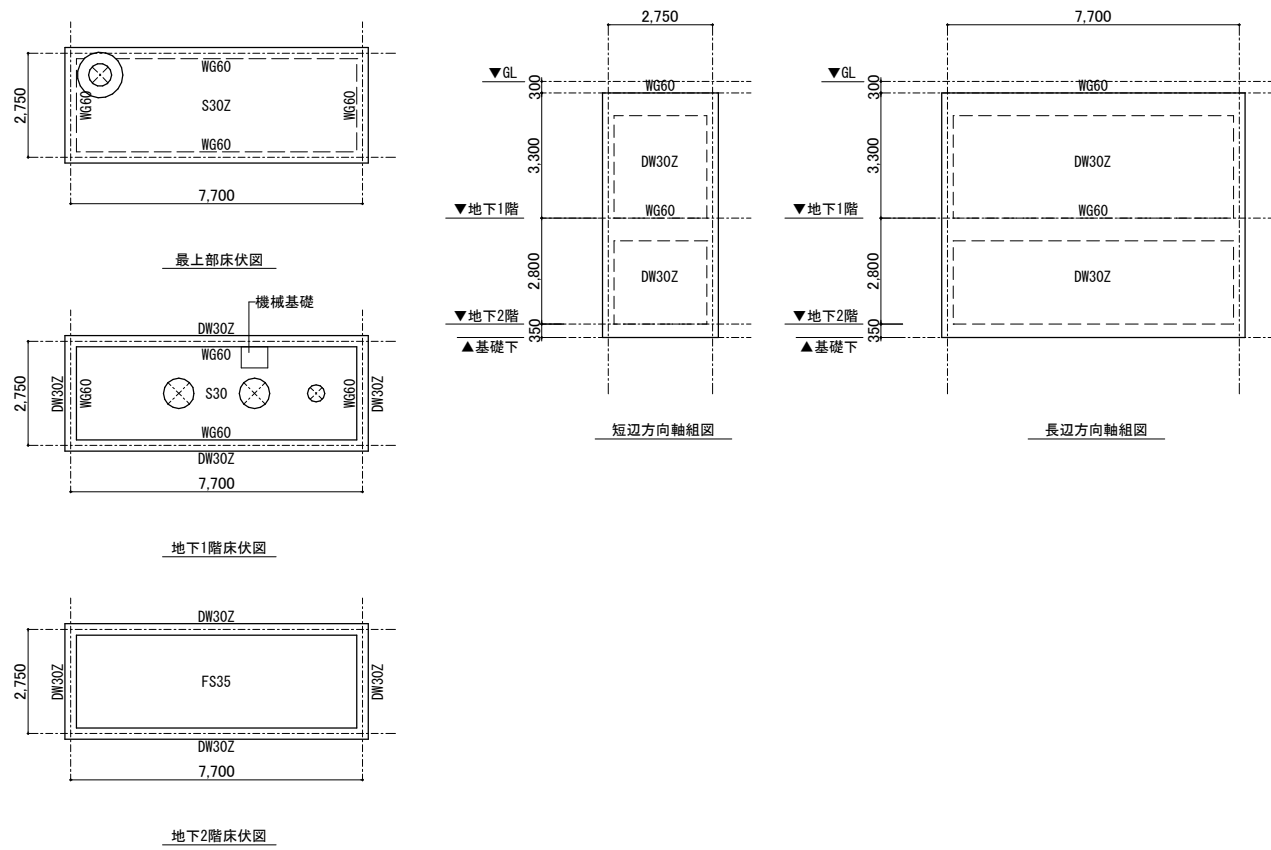


表 鉄筋のかぶり厚さ (単位mm)

部位	設計 ※2		最小 ※3	
	かぶり厚さ	かぶり厚さ	かぶり厚さ	かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ	屋内	30	20
		屋外	40	30
	柱・梁耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50	40
	非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40	30
土に接する部分	煙突内面	60	50	
	擁壁・基礎スラブ	50	40	
	柱・梁・壁・スラブ連続基礎の立上り部分	50	40	
	基礎スラブ・擁壁	70	60	
基礎	70	60		

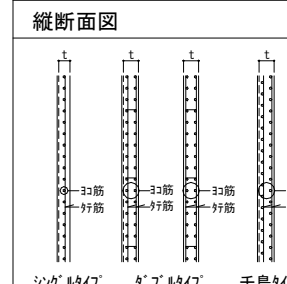
※2 設計かぶり厚さ
施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。

※3 最小かぶり厚さ
建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。

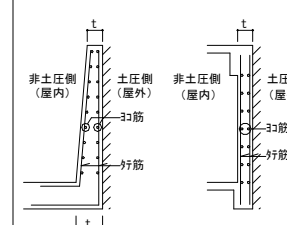
符号	厚さ	位置	主筋方向	配力筋方向	備考
S30Z	300	上端筋	D16 @100	D16 @200	
		下端筋	D16 @100	D16 @200	
S30	300	上端筋	D13 @200	D13 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @200	
FS35	350	上端筋	D16 @100	D16 @200	
		下端筋	D16 @100	D16 @200	

符号	位置	断面	上端筋	腹筋	下端筋	あばら筋	備考
WG60	全断面						
			2-D16	-	2-D16	2-D10 @200	

- 特記なき限り下記による。
- ・コンクリート設計基準強度 $F_c=24N/mm^2$ とする。
 - ・構造体補正値は $+3N/mm^2$ とし、暑中時は $+6N/mm^2$ とする。
 - ・スラブ値は $SL=15cm$ とする。
 - ・水セメント比は55%以下とし、AE剤若しくはAE減衰剤を用いること。
 - ・鉄筋 D10~D16 SD295とする。
 - ・告示第4条の50より鉄筋の降伏点強度は規格最小降伏点の60%を採用。
 $f_t=177N/mm^2$ (常時) $f_t=266N/mm^2$ (地震時)
 - ・長期設計地耐力 $L_{fe}=150kN/m^2$ とする。
 - ・支持層は「玉石混じり砂礫層」とする。
 - ・捨てコンクリート厚さは50mmとする。
 - ・捨てコン下の砂利地層は支持層が硬い岩盤層であることから、省略する。
 - ・土質柱状図は付近の「No. 8」を参照とする。
 - ・躯体上部は舗装+土かぶりとする。(意匠図参照)
 - ・土圧荷重時の上載荷重は $10kN/m^2$ を見込み、土圧係数は $KA=0.5$ とする。
 - ・土質調査報告書より、地下水位はないため、水圧は考慮しない。
 - ・土質調査報告書より、地下水位はないため、液状化の発生はない。
 - ・本工事の仕様については、原則、庁舎棟本体の各種規準・仕様書・標準図消防法によるものとする。
 - ・燃料タンク周囲は砂で充填する。(荷重考慮する砂の概算体積: 28.5m³)
- ・燃料タンクの重量は約16.8tonとする。(内部液体込み)



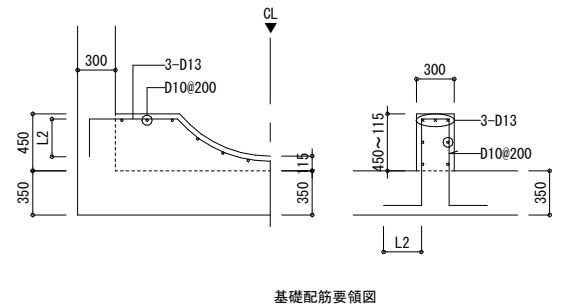
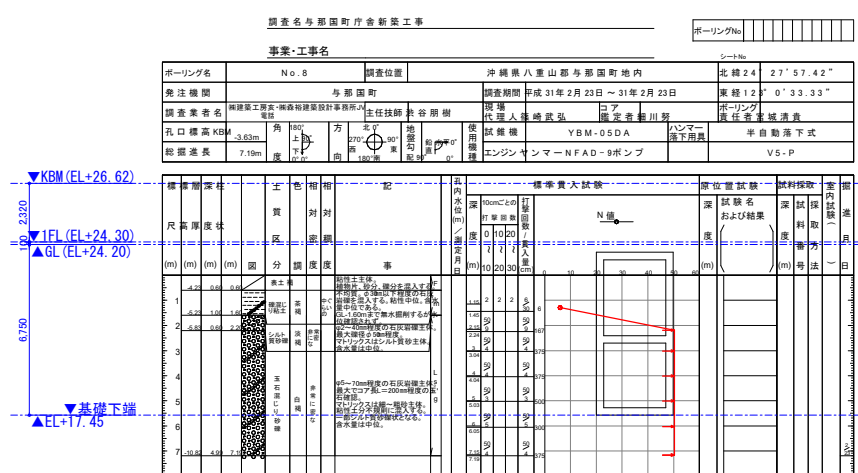
1. 屋外に面する部位はフカシを設ける。(20mm程度)
2. 幅止め筋はD10 @100とする。
3. 階段の受ける壁や片持ち壁となる鉄筋は屋内外に関わらず外側に配筋すること。



符号	厚さ(t)	タイプ	配筋要領は鉄筋コンクリート造配筋標準図(5)~(6)を参照とする。				備考
			縦筋	横筋	開口補強筋	スリット筋(つなぎ筋)	

符号	厚さ(t)	タイプ	屋外(土圧側)		屋内(非土圧側)		開口補強筋		備考	
			縦筋(上部/下部)	横筋(上部/下部)	縦筋(上部/下部)	横筋(上部/下部)	縦筋	横筋		
DW30Z	300	ダブル	D16@100 / D16@100	D16@100 / D16@100	D13@200 / D13@200	D13@200 / D13@200	2-D16	2-D16	2-D16	壁端部補強筋: 4-D16

ボーリング柱状図



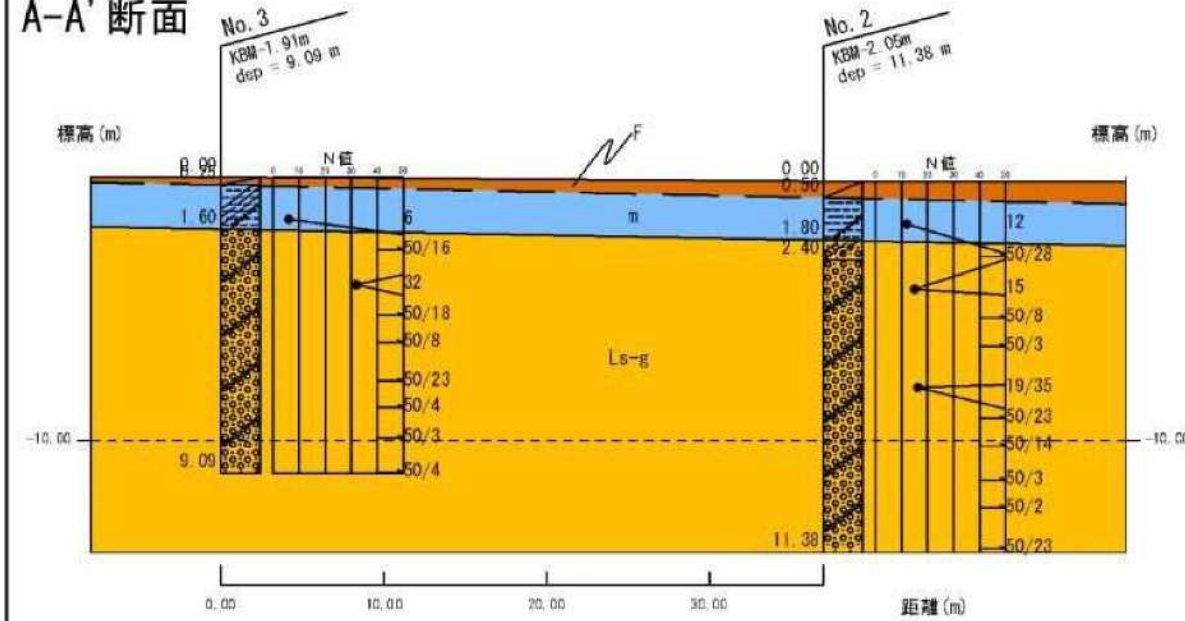
工事名称	工事年度	令和8年度
与那国町庁舎及び特定臨時避難施設新築工事(建築)	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
燃料タンク構造図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
S-1/30, 100(1/60, 200)	資格者	その他の設計者 上原直樹
S-051	登録番号	一級建築士 (大田)登録第235341号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
	資格者	その他の設計者 川平恵正
管理建築士 設計 製図	登録番号	一級建築士 (大田)登録第194989号 一級建築士事務所(建築)登録第144-71号
	所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
	電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺

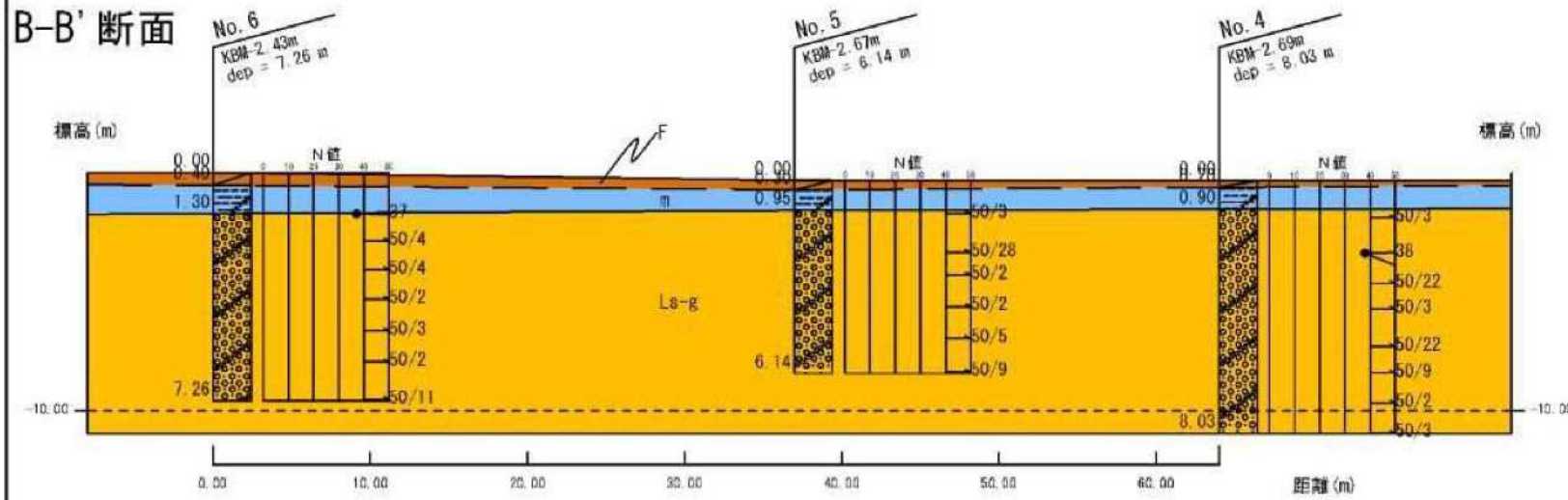
推定地質断面図

Scale V=1:200 H=1:400

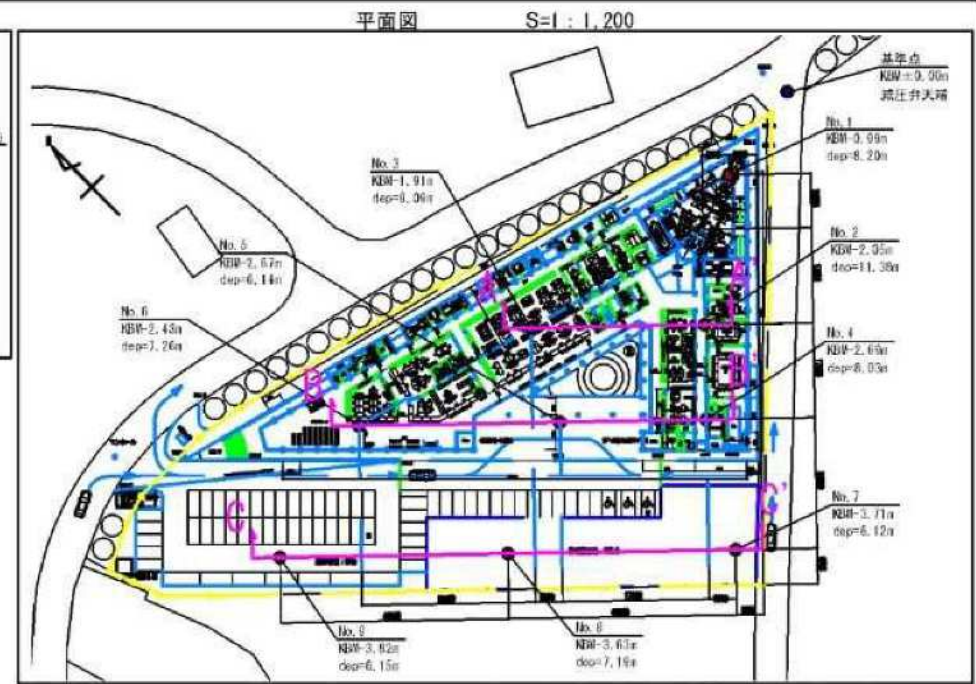
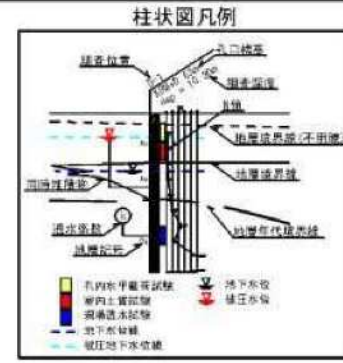
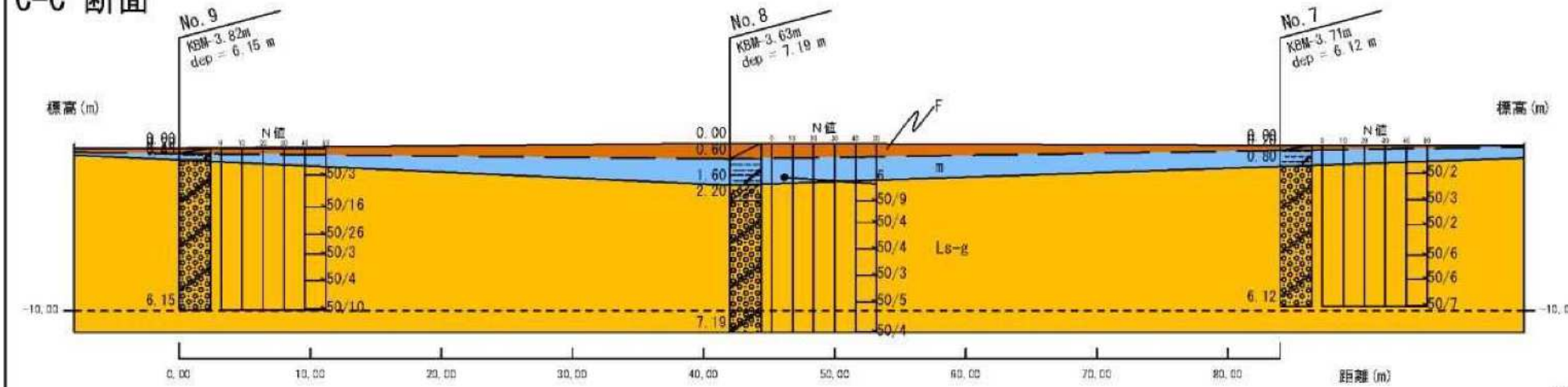
A-A' 断面



B-B' 断面



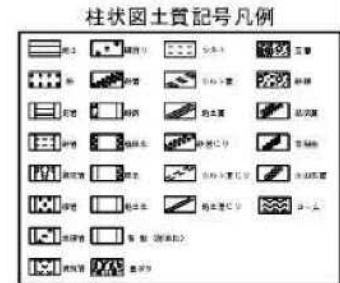
C-C' 断面



設計用土質定数提案値

土質	土質記号	土質定数	圧縮率	せん断力	せん断係数	せん断角	せん断係数
表層土	50	1.0	0.15	10	0.1	30	0.1
中層土	50	1.0	0.15	10	0.1	30	0.1
底層土	50	1.0	0.15	10	0.1	30	0.1

※F層は、土質・強度にばらつきがあるものと判断し、単位体積重量のみを表記とした。
 ※地下水水位は元の単位体積重量は10kN/m³を引く。
 ※N値はN=50を上限とし、平均値及び標準偏差を考慮したN値を採用した。



工事名	与那国町庁舎新築工事
図面名	推定地質断面図
年月	平成31年 3月
尺 度	図 枠 図面番号 2/3
会社名	那覇建築工業 那覇地質設計事務所
事務所	与那国町
作成者	藤崎 武弘 飯田 朝

※柱状図に示す深さは、GLの数値である。

工事名称	与那国町庁舎新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	土質断面図(1)	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(建築)登録第144-71号
縮 尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	参-001	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(建築)登録第144-71号
摘 要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検 印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一等建築士 (大田)登録第194888号 一等建築士事務所(建築)登録第122-1823号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

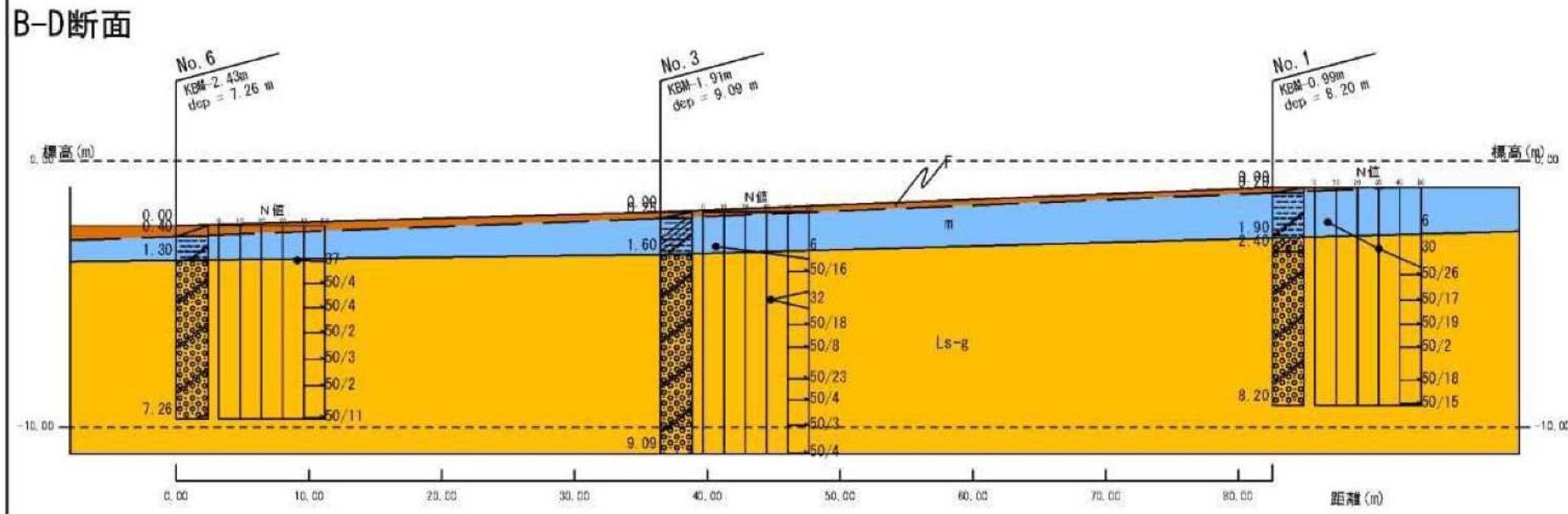
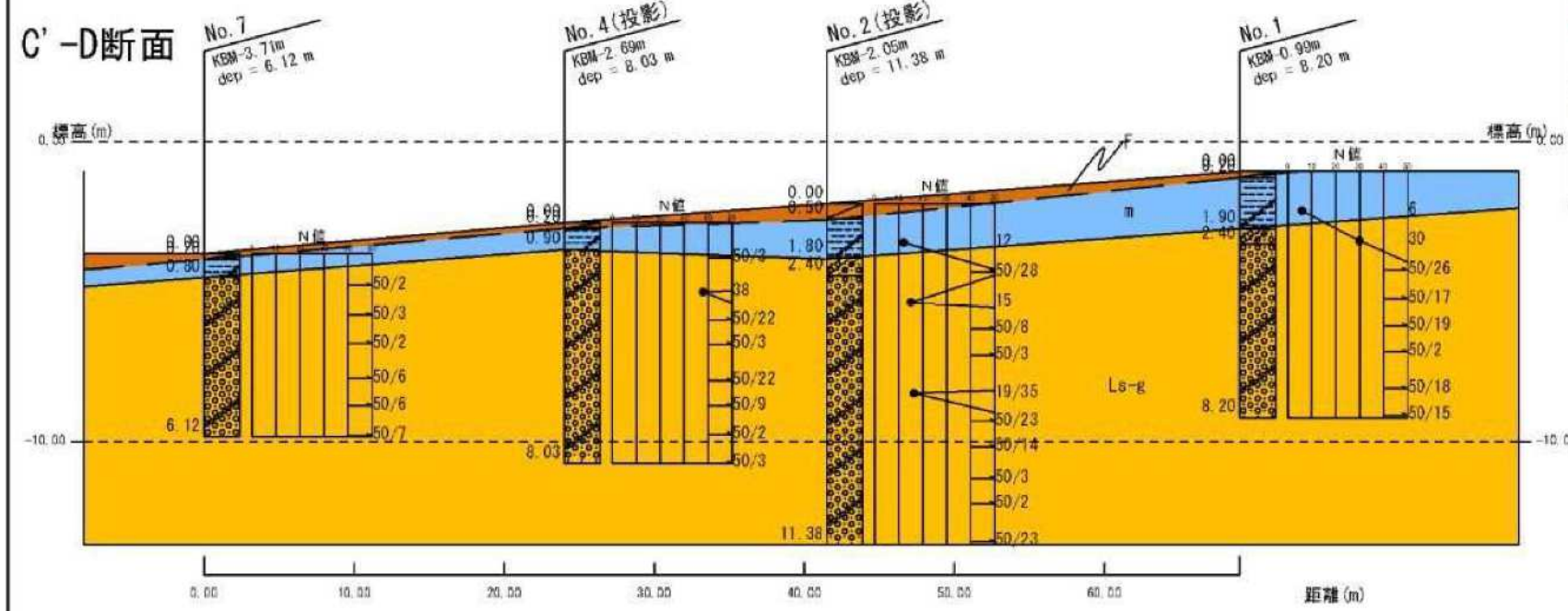
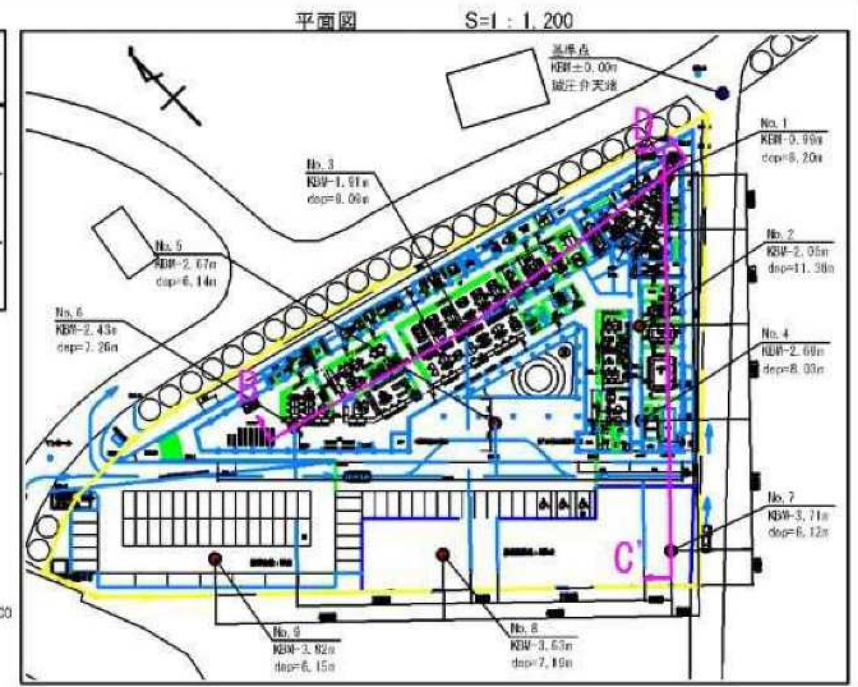
※()はA3版の縮尺

推定地質断面図 Scale V=1:200 H=1:400

設計用土質定数提案値

土質	土質記号	土質名	γ (kN/m³)	φ (°)	ψ (°)	α (kN/m²)	β (kN/m²)	μ (kN/m²)	λ (kN/m²)
表土	50/1	表土	18	0	0	0	0	0	0
軟弱な粘土	50/2	軟弱な粘土	18	18	0	0	0	0	0
硬質粘土	50/3	硬質粘土	18	18	0	0	0	0	0

※F層は、土質・強度にばらつきがあるものと判断し、単位体積重量のみの表記とした。
 ※地下水水位以上の単位体積重量は10kN/m³を引く。
 ※N値はN-50を上限とし、平均値及び標準偏差を考慮したN値を採用した。



柱状図土質記号凡例

50/1	表土	50/2	軟弱な粘土	50/3	硬質粘土
50/4	硬質粘土	50/5	硬質粘土	50/6	硬質粘土
50/7	硬質粘土	50/8	硬質粘土	50/9	硬質粘土
50/10	硬質粘土	50/11	硬質粘土	50/12	硬質粘土
50/13	硬質粘土	50/14	硬質粘土	50/15	硬質粘土
50/16	硬質粘土	50/17	硬質粘土	50/18	硬質粘土
50/19	硬質粘土	50/20	硬質粘土	50/21	硬質粘土
50/22	硬質粘土	50/23	硬質粘土	50/24	硬質粘土
50/25	硬質粘土	50/26	硬質粘土	50/27	硬質粘土
50/28	硬質粘土	50/29	硬質粘土	50/30	硬質粘土

工事名	与那国町庁舎新築工事
図面名	推定地質断面図
年月	平成31年 3月
尺度	図 概 図面番号 3/3
会社名	神城工務店・南森地質設計事務所
事務所名	与那国町
作成者	藤崎 武弘 張 啓樹

工事名称	与那国町庁舎 及び 特定臨時建設施設新築工事(建築)	工事年度	令和8年度
工事場所	与那国町字与那国854番地1	名称	(株)国建・(株)総合設計玉城設計共同
発注機関	与那国町 総務課	資格者	代表となる設計者 河野泰志
図面名称	土質横断面図(2)	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(支店)登録第144-71号
縮尺	-	資格者	その他の設計者 上原直樹
図面番号	参-002	登録番号	一等建築士 (大田)登録第235341号 一等建築士事務所(支店)登録第144-71号
摘要		資格者	その他の設計者 川平恵正
検印	管理建築士 設計 製図	登録番号	一等建築士 (大田)登録第194888号 一等建築士事務所(支店)登録第144-71号
		所在地	那覇市久茂地1丁目2番20号
		電話番号	098-862-1106

※()はA3版の縮尺